

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科（3年制）	夜・通信	2,940	240	
	看護学科（通信制）	夜・ <u>通信</u>	2,925	160	
（備考）					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<http://www.mito.ac.jp/>) で公開する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	相談役	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	企画
非常勤	取締役営業本部長	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	コンプライアンス
非常勤	支店長	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	労務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
*シラバスの作成過程及び時期 10月 教育課程(案)の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画(シラバス)の決定	
*シラバスの公開時期 毎年4月	
授業計画書の公表方法	ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・成績の評価は、学科試験及び実習成績により判定する。学業成績は、各授業科目のいずれも100点満点とする。A・B・C・Dの評語をもって表し、A(80点以上)・B(70～80点未満)・C(60～70点未満)を合格とし、D(60点未満)は不合格とする。 ・看護学科の実習を含む履修認定については、授業時間数の3分の2以上の出席を必要とする。 ・介護福祉学科は、授業時間数の3分の2以上の出席、実習時間数の5分の4以上の出席とする。 ・授業計画に成績評価の方法・基準を示したうえで、成績評価のための試験を実施し、実習成果及び授業履修状況を勘案し、学修成果を判定している。 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化) ・下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。 	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>人間尊重の理念に基づく看護師・介護福祉士に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修業年限移譲を在学していること。 ・学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・学則第13条及び第14条に基づいて全科目の単位を取得していること。 ・出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 <p>以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師・介護福祉士となる学生を決定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mito.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	http://www.mito.ac.jp/
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報-1

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	看護学科 (3年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,000 単位時間/単位	1,965 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,035 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		119人	0人	10人	67人	77人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・シラバスの作成過程及び時期 10月 教育課程(案)の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画(シラバス)の決定 ・シラバスの公開時期 毎年4月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。
成績評価の基準・方法
(概要) ・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化) ・下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
(概要) 人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・修業年限以上を在学していること。 ・学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・学則第13条及び第14条に基づいて全科目の単位を取得していること。 ・出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。
学修支援等
(概要) 入学時に学業特待制度・資格特待制度があり、評定平均が3.5以上の者は4科目(国語・数学・英語・作文)の試験を受け、成績によって授業料を免除する。また、各種資格を取得している者は授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38人 (100%)	0人 (%)	38人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
124人	6人	4.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

①学科等の情報-2

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	看護学科（通信制）				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,925 単位時間/単位	2,205 単位時間 /単位	単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
300人		161人	0人	8人	2人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 10月 教育課程（案）の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画（シラバス）の決定 シラバスの公開時期 毎年4月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 （100点満点で点数化） 下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 修業年限以上を在学していること。 学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 学則第13条及び第14条に基づいて全科科目の単位を取得していること。 出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 <p>以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>本校通信学習への学習相談は、開校時の直接面接指導の他、学生の希望に応じて電子メール、電話、FAX等を活用し対応している。カリキュラム外の無料自由参加ができる講座として看護師国家対策試験を月2回、放送大学単位取得学習支援を年6回実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
66人 (100%)	0人 (0.0%)	61人 (92.4%)	5人 (7.6%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、福祉施設など			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
121人	3人	2.5%
(中途退学の主な理由) 経済上・健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

①学科等の情報-3

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉分野		教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,540 単位時間/単位	1,148 単位時間/単位	942 単位時間/単位	450 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスの作成過程及び時期 <ul style="list-style-type: none"> 10月 教育課程（案）の内容を検討 11月 教育課程編成会議において審議 2月 授業計画（シラバス）の決定 シラバスの公開時期 毎年4月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。（100点満点で点数化） 下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>人間尊重の理念に基づく介護福祉士に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 修業年限以上を在学していること。 学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 学則第13条及び第14条に基づいて全科科目の単位を取得していること。 出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。 <p>以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な介護福祉士となる学生を決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時に学業特待制度・資格特待制度があり、評定平均が3.5以上の者は4科目（国語・数学・英語・作文）の試験を受け、成績によって授業料を免除する。また、各種資格を取得している者は授業料の免除がある。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (%)	6人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 福祉施設 介護職			
(就職指導内容) 就職相談、履歴書及びエントリーシート作成指導、マナー指導、面接練習			
(主な学修成果（資格・検定等）) 介護福祉士国家試験、介護事務管理士、福祉住環境コーディネーター、 認知症ライフパートナー、メイクセラピー検定の受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	2人	22.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科 (3年制)	150,000円	600,000円	647,000円	その他(施設設備費、実習費、教材費、実習着代、模擬試験料、学校行事費)
看護学科 (通信制)	100,000円	420,000円	90,000円	その他(施設設備・実習費、通信費、保険費、教材費、国家試験対策模擬試験費)
修学支援 (任意記載事項)				
学業特待制度…試験を受け、結果により授業料の免除。 資格特待制度…取得資格により授業料の免除。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校自ら自己評価を行うとともに、病院・福祉施設他業界団体が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、評価結果に基づき学校運営体制の改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
介護老人保険施設みがわ	2021年4月1日～2023年3月31日	卒業生
グループホームぐるんぱの杜	2021年4月1日～2023年3月31日	卒業生
障害者支援施設あいの家	2021年4月1日～2023年3月31日	保護者
和田瓦工業	2021年4月1日～2023年3月31日	保護者
障害児通所支援事業所樹の子	2021年4月1日～2023年3月31日	地域住民
学童保育施設ひまわり学童クラブ	2021年4月1日～2023年3月31日	地域住民
常磐大学助教	2021年4月1日～2023年3月31日	学識経験者
介護老人保健施設小川敬愛の杜	2021年4月1日～2023年3月31日	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (http://www.mito.ac.jp/) で公開する。
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		13人	12人	13人
内 訳	第Ⅰ区分	－人	－人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				13人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

- (3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和2年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	1	学生数	40	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1	1	2	23	11	2
下位 1/4に該当する人数 10 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 81.1 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	2	学生数	42	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1		11	23	7	
下位 1/4に該当する人数 10 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 78.7 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)	学年	3	学生数	38	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1		1	17	19	
下位 1/4に該当する人数 10 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 82.3 点以下						

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和2年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)		学年	1	学生数	57
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1	1	1	2	33	19
下位 1/4に該当する人数 14 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 85 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)		学年	2	学生数	66
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	0	0	4	5	50	7
下位 1/4に該当する人数 16 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 83 点以下						

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和2年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	介護福祉学科	学年	1	学生数	0	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数						
下位 1/4に該当する人数						
下位 1/4に該当する指標の数値						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	介護福祉学科	学年	2	学生数	9	
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1	1		3	4	
下位 1/4に該当する人数 2人						
下位 1/4に該当する指標の数値 51.0点以下						

※介護福祉学科 2019年4月1日をもって募集停止(2020年度1年次在学なし)

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科 (3年制)

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シラバス
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		情報科学と統計	1	1	30	有 情報処理検定取得後、会社5年以上	○
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		心理学	2	1	30	有 認定心理士5年以上	○
		家族と社会	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		教育学	1	1	15	有 看護師5年以上	○
		人間関係論Ⅰ (コミュニケーション)	1	1	30	有 認定心理士5年以上	○
		人間関係論Ⅱ (討議法)	2	1	15	有 認定心理士5年以上	○
		人間関係論Ⅲ (カウンセリング)	2	1	30	有 認定心理士5年以上	○
	健康と障がい	1	1	15	有 医師5年以上	○	
小計				10	255		
専門基礎分野Ⅰ	人体の構造と機能	生化学	1	1	30	有 医師5年以上	○
		解剖生理学Ⅰ	1	1	30	有 医師5年以上	○
		解剖生理学Ⅱ	1	1	30	有 医師5年以上	○
		解剖生理学Ⅲ	1	1	30	有 医師5年以上	○
		解剖生理学Ⅳ	1	1	15	有 医師5年以上	○
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学の基礎	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅰ (診断と治療・がんの診断と治療)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅱ (呼吸器、循環器疾患)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅲ (血液・造血器疾患、消化器疾患)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器疾患)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅴ (脳神経、運動器疾患とリハビリ)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅵ (精神障害)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅶ (小児・女性生殖器)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		微生物学	2	1	30	有 医師5年以上	○
	栄養学	2	1	30	有 栄養士5年以上	○	
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	1	15	有 医師5年以上	○
		医療安全	3	1	15	有 看護師5年以上	○
		公衆衛生	2	1	15	有 看護師5年以上	○
		関係法規	2	1	15	有 医師5年以上	○
		社会福祉	1	2	30	有 社会福祉士5年以上	○
小計				21	525		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ (看護学概論)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション、看護教育)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅲ (活動と休息、環境整備)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅳ (清潔・衣生活と排泄)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅴ (安楽促進と呼吸循環を整える技術)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅵ (与薬・注射・栄養・創傷管理)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅶ (生体観察、検査介助)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅷ (系統的観察法)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅸ (看護過程)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		基礎看護学Ⅹ (臨床看護学総論)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	45	有 看護師5年以上	
		基礎看護学実習Ⅱ	2	2	90	有 看護師5年以上	
	小計				13	435	

看護学科（3年制）

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シラバス
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅰ（概論）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		成人看護学Ⅱ（リハビリテーション期①）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		成人看護学Ⅲ（リハビリテーション期②）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		成人看護学Ⅳ（周手術期）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		成人看護学Ⅴ（慢性期）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		成人看護学Ⅵ（ターミナル期）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
	老年看護学	老年看護学Ⅰ（概論）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		老年看護学Ⅱ（高齢者の生活を整える看護）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		老年看護学Ⅲ（治療を必要とする高齢者の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		老年看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
	小児看護学	小児看護学Ⅰ（概論）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		小児看護学Ⅱ（健康障害をもつ小児の生活と看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		小児看護学Ⅲ（病児の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		小児看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
	母性看護学	母性看護学Ⅰ（概論）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		母性看護学Ⅱ（性と生殖）	2	1	15	有 助産師5年以上	○
		母性看護学Ⅲ（マタニティサイクル）	2	1	30	有 助産師5年以上	○
		母性看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 助産師5年以上	○
	精神看護学	精神看護学Ⅰ（概論）	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		精神看護学Ⅱ（援助論1）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		精神看護学Ⅲ（援助論2）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		精神看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上	○
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	3	2	90	有 看護師5年以上	
		成人看護学実習Ⅱ	3	2	90	有 看護師5年以上	
		成人看護学実習Ⅲ	3	2	90	有 看護師5年以上	
		老年看護学実習Ⅰ	2	2	90	有 看護師5年以上	
		老年看護学実習Ⅱ	3	2	90	有 看護師5年以上	
		小児看護学実習Ⅰ	2	1	45	有 看護師5年以上	
小児看護学実習Ⅱ		3	1	45	有 看護師5年以上		
母性看護学実習		3	2	90	有 看護師5年以上		
精神看護学実習		3	2	90	有 看護師5年以上		
小計				38	1350		
統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ（概論）	2	1	15	有 看護師5年以上	○
		在宅看護論Ⅱ（看護技術）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		在宅看護論Ⅲ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上	○
		在宅看護論Ⅳ（地域看護）	2	1	15	有 看護師5年以上	○
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（チーム医療と看護管理）	3	1	15	有 看護師5年以上	○
		看護の統合と実践Ⅱ（看護技術の統合）	3	1	30	有 看護師5年以上	○
		看護の統合と実践Ⅲ（災害看護・国際看護）	3	1	30	有 看護師5年以上	○
		看護の統合と実践Ⅳ（看護研究）	3	1	30	有 看護師5年以上	○
	臨地実習	在宅看護論実習	3	2	90	有 看護師5年以上	
		看護の統合と実践実習	3	2	90	有 看護師5年以上	
小計				12	375		
合計				94	2940		

※実習シラバスについては割愛（実習要項を別途定める）

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科（通信制）

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	本校教員担当			
							単位	授業時数	シラハス	
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		心理学	2年	1	45	有	臨床心理士5年以上	1	45	○
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		社会学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	小計				7	315		1	45	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		栄養学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		微生物学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		薬理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		社会福祉	2年	2	90	有	介護福祉士5年以上	2	90	○
小計				14	630		2	90		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		看護の共通基本技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		看護過程の基礎	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		日常生活の援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		診療に伴う援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		基礎看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	小計				8	360		6	270	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		成人看護学方法論	1年	2	90	有	看護師5年以上	2	90	○
	老年看護学	老年看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		老年看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	小児看護学	小児看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		小児看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	母性看護学	母性看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	1	45	○
		母性看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	-	-	
	精神看護学	精神看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		精神看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	成人看護学実習	成人看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		成人看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	老年看護学実習	老年看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		老年看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		小児看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		母性看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	精神看護学実習	精神看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		精神看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
小計				25	1125		17	765		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		在宅看護方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	看護の統合と実践	看護管理	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		医療安全	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		災害・国際看護	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	在宅看護論実習	在宅看護論事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		在宅看護論実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	看護の統合と実践実習	看護の統合と実践事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		看護の統合と実践実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	小計				11	495		7	315	
合計				65	2925		33	1485		

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科（介護福祉学科）

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験		シラバス
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間福祉論	1	2	30	有	社会福祉士、社会福祉主事5年以上	○
	人間関係とコミュニケーション	人間関係論	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		手話	1	1	30	有	手話通訳士10年以上	○
	社会の理解	法と社会保障	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		社会福祉の基礎	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	必須科目	文化と礼作法Ⅰ（国際教養）	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		文化と礼作法Ⅱ（美容）	2	4	60	有	美容師10年以上	○
情報リテラシー		1	1	30	有	文書処理検定取得後5年以上	○	
小計				16	270			
介護	介護の基本	介護福祉論Ⅰ	1	4	60	有	介護福祉士5年以上	○
		介護福祉論Ⅱ	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		介護福祉論Ⅲ	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		介護の基本（リハビリ）	2	2	30	有	理学療法士10年以上	○
		行動支援（応用行動分析）	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション	1	1	30	有	手話通訳士10年以上	○
		対人関係論	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	生活支援技術	生活自立支援Ⅰ	1	2	60	有	介護福祉士5年以上	○
		生活自立支援Ⅱ	1	2	60	有	介護福祉士5年以上	○
		生活自立支援Ⅲ	2	1	30	有	介護福祉士5年以上	○
		生活自立支援Ⅳ	2	1	30	有	介護福祉士5年以上	○
		家政学	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		レクリエーション活動援助法Ⅰ	1	2	60	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上	○
		レクリエーション活動援助法Ⅱ	1	1	30	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上	○
		生きがい支援技術Ⅰ	1	1	30	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上	○
		生きがい支援技術Ⅱ	2	2	60	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上	○
		生きがい支援技術Ⅲ	2	2	60	有	福祉レクリエーションインストラクター10年以上	○
	介護過程	介護過程理論Ⅰ	1	4	60	有	介護福祉士5年以上	○
		介護過程理論Ⅱ	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		介護過程実践	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		介護サービス論	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1	2	60	有	介護福祉士5年以上	○
		介護総合演習Ⅱ	1	2	60	有	介護福祉士5年以上	○
		介護総合演習Ⅲ	2	1	30	有	介護福祉士5年以上	○
	介護実習	介護実習Ⅰ	1	1	45	有	介護福祉士5年以上	○
		介護実習Ⅱ	1	2	90	有	介護福祉士5年以上	○
		介護実習Ⅲ	1	3	135	有	介護福祉士5年以上	○
介護実習Ⅳ		2	3	135	有	介護福祉士5年以上	○	
在宅介護実習		2	1	45	有	介護福祉士5年以上	○	
小計				56	1440			

看護学科（介護福祉学科）

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シラバス	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	基礎心理	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		生涯過程	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
		認知症の理解Ⅱ	1	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
	障害の理解	障害の理解Ⅰ	1	2	30	有	看護師10年以上	○
		障害の理解Ⅱ	2	2	30	有	看護師5年以上	○
	こころとからだのしくみ	基礎医学Ⅰ	1	2	30	有	看護師5年以上	○
		基礎医学Ⅱ	1	2	30	有	看護師5年以上	○
		基礎医学Ⅲ	1	2	30	有	看護師5年以上	○
		精神保健	2	2	30	有	介護福祉士5年以上	○
小計				20	300			
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	1	2	34	有	看護師10年以上	○
		医療的ケアⅡ	1	2	34	有	看護師10年以上	○
		医療的ケアⅢ	2	1	36	有	看護師10年以上	○
		医療的ケアⅣ	2	1	36	有	看護師10年以上	○
	小計				6	140		
その他	その他	介護事務	1・2	3	90	有	看護師10年以上	○
		住環境支援技術Ⅰ	1	2	30	有	看護師10年以上	○
		住環境支援技術Ⅱ	1	2	30	有	看護師10年以上	○
		国試対策	1・2	8	120	有	看護師10年以上	-
		卒業研究	2	4	120	有	看護師10年以上	○
	小計				19	390		
合計				117	2540			

※国試対策…介護福祉士国家資格試験受験のための各種課題により単位認定（シラバス作成なし）

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上						
授業科目： 論理的思考	単位（時間）： 1単位（30時間）						
授業担当： 宮本 浩紀	開講時期： 2年次 前期						
<p>科目の概要</p> <p>看護に携わっていく上で必要となる文書作成（感想文、各種レポート、論文等）に関する知識や技術を身につける。また、文章を読み取る力、表現する力、論理的思考力を養う。</p> <p>目的：言語を正しく使い、論理的に表現する能力を養う</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 漠然とした自分の考えを、具体的な言語表現として文章に書き出すには、どのように考え、進めていけばいいのか、具体的な方法を身につける 2. 身の回りの出来事を観察し、事実を読み取り、要約する 3. 自分が感じたこと、考えたこと、実践したことを文章表現する 4. 自分の考えを、読み手が理解しやすいように、表現する方法の基礎を身につける 							
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間の思考と言語</td> <td>8～13. 応用編</td> </tr> <tr> <td>2. 推論の基礎</td> <td>14. 発表 効果的表現・構成、推敲</td> </tr> <tr> <td>3～7. 基礎編</td> <td>15. まとめ／応用</td> </tr> </table>		1. 人間の思考と言語	8～13. 応用編	2. 推論の基礎	14. 発表 効果的表現・構成、推敲	3～7. 基礎編	15. まとめ／応用
1. 人間の思考と言語	8～13. 応用編						
2. 推論の基礎	14. 発表 効果的表現・構成、推敲						
3～7. 基礎編	15. まとめ／応用						
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃、日常生活の中で新聞や雑誌等を読む習慣をつける。また、文の構成や表現方法を意識しながら書く習慣をつける。 							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自作資料 							
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小笠原喜康著：新版 大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書 2. 山川・佐藤共著：ナースのための文章表現法 ―資格・進学受験対策とキャリアアップのために―、看護の科学社 3. よくわかる文章表現の技術 II 文章校正編「新版」・III 発想編・IV 文体編 <p>DVD 講義の際に提示</p>							

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：情報処理検定取得後会社5年以上														
授業科目： 情報科学と統計	単位（時間）： 1単位（30時間）														
授業担当： 長谷川 福子	開講時期： 1年次 前期														
<p>科目の概要</p> <p>現在は情報が氾濫し、インターネットで容易に情報が入手できる。一方で情報の信頼性や、倫理性などの問題もあり、情報の取り扱いが難しい時代である。情報科学は、組織体における情報の適用・活用、あるいは情報システムと人々・組織との相互作用についての研究であり、情報技術の様々な問題を扱う。統計は情報を適切に使いこなすために必要な道具である。看護は対象の情報を適切に処理・分析し、課題を明確にし、課題解決に向けて援助し、結果情報に基づいて評価し、適切な援助を行う。さらに、看護活動で得た情報を研究的視点で系統的に分析する活動も行う。本授業科目では、Word や Excel、インターネットを使い、情報処理の目的、方法と情報を分析するために必要な基本的な統計方法を学び、さらに、情報検索・収集、分析方法の基礎と、課題レポートの効果的な作成について学ぶ。</p> <p>目的：情報処理の方法と課題について理解し、看護場面での情報活用方法について理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <p>*コンピュータ・サイエンス、情報工学、認知科学、各種社会科学などと部分的に重なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報処理の基礎、特に情報を取り扱う上での倫理性について理解する 2. ワードプロ（Word）や表計算（Excel）などの規制ソフトの基本操作を修得する 3. インターネットを活用した情報収集の仕方を理解する 4. 情報を整理するための基礎的な文書処理や、数値処理の統計的処理の仕方を修得する 5. 看護活動場面での情報活用の実際を理解する 															
<p>学習概要（授業概要）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 健康の指標の見方と統計について</td> <td>5. ワードプロソフト操作（レポート作成）</td> </tr> <tr> <td>2. 情報収集から分析までの流れ</td> <td>6. 表計算ソフト基本操作</td> </tr> <tr> <td>情報取り扱い上の倫理、注意点</td> <td>7～8. 計算ソフト基本操作演習</td> </tr> <tr> <td>インターネット検索</td> <td>9～13. 統計の基礎</td> </tr> <tr> <td>3. 情報検索の方法</td> <td>14. 病院、施設でのデータの流れと</td> </tr> <tr> <td>4. PCの基本操作と電子メールの</td> <td>ワードプロソフトの基本操作</td> </tr> <tr> <td>利用法 情報処理の実際</td> <td>15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）</td> </tr> </table>		1. 健康の指標の見方と統計について	5. ワードプロソフト操作（レポート作成）	2. 情報収集から分析までの流れ	6. 表計算ソフト基本操作	情報取り扱い上の倫理、注意点	7～8. 計算ソフト基本操作演習	インターネット検索	9～13. 統計の基礎	3. 情報検索の方法	14. 病院、施設でのデータの流れと	4. PCの基本操作と電子メールの	ワードプロソフトの基本操作	利用法 情報処理の実際	15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）
1. 健康の指標の見方と統計について	5. ワードプロソフト操作（レポート作成）														
2. 情報収集から分析までの流れ	6. 表計算ソフト基本操作														
情報取り扱い上の倫理、注意点	7～8. 計算ソフト基本操作演習														
インターネット検索	9～13. 統計の基礎														
3. 情報検索の方法	14. 病院、施設でのデータの流れと														
4. PCの基本操作と電子メールの	ワードプロソフトの基本操作														
利用法 情報処理の実際	15. まとめ／終講試験（課題レポート提出）														
学習上の注意 なし															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <p>統計学：医学書院、自作資料</p> <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上														
授業科目： 哲学	単位（時間）： 1単位 （30時間）														
授業担当： 渡辺修宏	開講時期： 1年次 後期														
<p>科目の概要</p> <p>哲学とは、すべての物事を説明する普遍的原理を追求するものである。人間存在について、全人間的視野をもとに、一人ひとりの患者に関わることの意味や、態度について迫及するために哲学を学ぶ。さらに、看護を必要とする対象と向き合うことで、そこにある世界（環境）と、人間のもつ現実の意味を洞察できる能力を養う。</p> <p>目的：人間存在について、全人的視野をもとに、対象に関わる意味や態度を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアを通して対象への向き合い方を考える 2. 倫理的な思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を考える 3. ホリスティックな人間理解をもとに、人間観、看護観を考え、深める 4. 見えないところまでも見通す姿勢とEBM、クリティカルシンキングについて理解する 5. 人間への注意深い探求と、感銘を行う中で、自分への新たな発見をする 6. 医療・看護現場での倫理的課題を考える 															
<p>学習概要（授業概要）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護にとって哲学の知識は必要か</td> <td>9. ケアの倫理とは</td> </tr> <tr> <td>2. 看護とは</td> <td>10. 生命科学とバイオエシックス</td> </tr> <tr> <td>3. 人間理解のための哲学の歴史</td> <td>11. 看護師と哲学</td> </tr> <tr> <td>4. 医とは何か</td> <td>12. ホリスティック看護</td> </tr> <tr> <td>5. 人間の尊厳、人格とは</td> <td>13～14. 看護場面での看護的な行動とは</td> </tr> <tr> <td>6～7. 人間とはの問い</td> <td>事例からの学び</td> </tr> <tr> <td>8. 東洋哲学とは</td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 看護にとって哲学の知識は必要か	9. ケアの倫理とは	2. 看護とは	10. 生命科学とバイオエシックス	3. 人間理解のための哲学の歴史	11. 看護師と哲学	4. 医とは何か	12. ホリスティック看護	5. 人間の尊厳、人格とは	13～14. 看護場面での看護的な行動とは	6～7. 人間とはの問い	事例からの学び	8. 東洋哲学とは	15. まとめ／終講試験
1. 看護にとって哲学の知識は必要か	9. ケアの倫理とは														
2. 看護とは	10. 生命科学とバイオエシックス														
3. 人間理解のための哲学の歴史	11. 看護師と哲学														
4. 医とは何か	12. ホリスティック看護														
5. 人間の尊厳、人格とは	13～14. 看護場面での看護的な行動とは														
6～7. 人間とはの問い	事例からの学び														
8. 東洋哲学とは	15. まとめ／終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概念や事象の意味や、真実について求める姿勢を養うために、日々の暮らしの中の経験を振り返る習慣をつける 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学：看護と人間に向き合う哲学 ニューヴェルヒロカワ <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上								
授業科目：心理学	単位（時間）：1単位（30時間）								
授業担当：高岡 美記	開講時期：2年次 前期								
<p>科目の概要</p> <p>心理学は「こころ」を科学する学問である。目に見えないこころを表すものが、人間の表情や状態、行動などである。こころのメカニズムを現れた行動により解明することで、行動に変化を与えることができる。こころは大変複雑であるため、心理学には多くの研究領域がある。その中で、看護に密接に関係する領域を中心に学習し、臨床心理での具体的事例の心理的援助方法を学習する。さらに、学生自身が自己概念を考え、学生生活の中で達成感を感じるための、ポジティブシンキングを身につける。</p> <p>目的：看護の対象の心理面を理解するための方法を修得する</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える 2. 人間の行動から、こころの動きを理論的に導き出すための、心理学の知識を理解する 3. 健康に関する心理的なアプローチについて理解し、自身の心の健康へのセルフコントロールをする 									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標</td> <td>11. 体験発表</td> </tr> <tr> <td>2～6. 看護に関係する心理学の基礎</td> <td>12. 心理学の応用Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>7～10. 心理学の応用Ⅰ</td> <td>13～14. ポジティブな態度を身につけること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標	11. 体験発表	2～6. 看護に関係する心理学の基礎	12. 心理学の応用Ⅱ	7～10. 心理学の応用Ⅰ	13～14. ポジティブな態度を身につけること		15. まとめ／終講試験
1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標	11. 体験発表								
2～6. 看護に関係する心理学の基礎	12. 心理学の応用Ⅱ								
7～10. 心理学の応用Ⅰ	13～14. ポジティブな態度を身につけること								
	15. まとめ／終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身のこころに浮かんだことや感情について、他者に理解してもらうことを心がける 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の際に提示 <p>参考図書 講義の際に提示 DVD 講義の際に提示</p>									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目： 家族と社会	単位（時間）： 1単位 （30時間）								
授業担当： 小笠原 尚宏	開 講 時 期： 1年次 前期～								
<p>科目の概要</p> <p>人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間と社会について学ぶ。特に、人々の生活基盤・ライフスタイルの変化と健康問題、看護の意義の重要性について考える。</p> <p>目的：看護の対象である人間を、社会的存在として理解するための知識を身につける</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活基盤としての生活単位と、家庭生活の基本について理解する 2. 生活基盤としての生活の場と、労働および健康について理解する 3. 人々のライフスタイルと、家族の機能・役割について理解する 4. 人々のライフスタイルの変化と、生活習慣について理解する 5. 人間の集団と働きについて理解する 6. 地域・職場における人間関係について理解する 7. 人間の社会生活と健康について理解する 8. 家族や社会に関連する健康上の課題について理解する 									
<p>学習概要（授業概要）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 生活基盤</td> <td>10～11. 社会調査（実態調査）調査実施</td> </tr> <tr> <td>3～5. ライフスタイル</td> <td>12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表</td> </tr> <tr> <td>6～8. 人間の集団としての働き</td> <td>14. 家族や社会に関する看護上の問題点と</td> </tr> <tr> <td>9. 社会生活と健康 社会調査 （実態調査）計画立案</td> <td>支援方法 15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1～2. 生活基盤	10～11. 社会調査（実態調査）調査実施	3～5. ライフスタイル	12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表	6～8. 人間の集団としての働き	14. 家族や社会に関する看護上の問題点と	9. 社会生活と健康 社会調査 （実態調査）計画立案	支援方法 15. まとめ／終講試験
1～2. 生活基盤	10～11. 社会調査（実態調査）調査実施								
3～5. ライフスタイル	12～13. 社会調査（実態調査）発表準備および発表								
6～8. 人間の集団としての働き	14. 家族や社会に関する看護上の問題点と								
9. 社会生活と健康 社会調査 （実態調査）計画立案	支援方法 15. まとめ／終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の家族に関する興味深いトピックスを取り上げて、社会的に考えていく 2. 家族・家庭に関するトピックスについての情報・資料を集めておく 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学 南江堂 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 湯沢雅彦・宮本みち子共著：新版 データで読む家族 NHK ブックス 2. 21世紀家族へ 一家族の戦後体制の見かた、超えかたー 有斐閣選書 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドキュメンタリー映画 「ヒバクシャ ～世界の終りに～」 2. 教育教材映画 「生まれる」 									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 教育学	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 市村 國夫	開講時期： 1年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>人間は、学校生活はもとより、生涯を通じて学習し、教育の恩恵をうけている。教育とは教える側と、教えられる側の相互関係の中で成り立つものであり、看護と共通するものがある。看護は、対象の健康問題に向けて、指導援助を行いながら、教育的な関わりを常に行っている。また、小児はもとより、教育場面で様々なストレスを抱えている人に対し、教育者とともに援助することも重要な役割である。さらに、自己の成長における教育の意義を理解する。</p> <p>目的</p> <p>人々の健康に向けた援助を行う看護師として必要な健康教育の意義と実際を理解し、教育的な関わり教育的な関わりができる能力を養う</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長における、教育の役割と意義を理解する 2. 健康教育の意義と方法について理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義 2. 教育の変遷、展望 3. 学習の理論と指導方法 4. 健康教育の展開 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々、自身が学習することで、成長するという気持ちで学校生活を送る。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全集－教育学 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上																
授業科目：人間関係論Ⅰ（コミュニケーション）	単位（時間）：1単位（30時間）																
授業担当：長谷川 福子	開講時期：1年次 前期																
<p>科目の概要</p> <p>看護師同士、看護師と患者との関係、看護師と医師との関係、看護師と医療従事者との関係など、さまざまな人との関係にとって大切なことは、どのように話すか、即ちコミュニケーション技術とスタイルである。自分自身のコミュニケーション技術の傾向を知り、コミュニケーション技術の向上を目指す。また、自己啓発の一助にしていく。</p> <p>目的：対象との関係性を築くための、コミュニケーション能力を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分をよく知る 2. コミュニケーションの、それぞれ違ったスタイルを見分ける 3. 気づいた事柄をよりはっきりと、直接的に率直的に表現できるような技法を身につける 4. 相手の言うことを正確に聴き、理解するための技法を身につける 5. 自分とパートナーの、自尊心を養うための技法を身につける 6. あることについての、話のきっかけをつくる技法を身につける 																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td>カップル・コミュニケーション</td> <td>10～12.</td> <td>信頼関係の構築</td> </tr> <tr> <td>2～4.</td> <td>自己への気づき</td> <td>13～14.</td> <td>まとめ／発表</td> </tr> <tr> <td>5～6.</td> <td>他者への気づき</td> <td>15.</td> <td>まとめ／終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～9.</td> <td>コミュニケーションの型</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築	2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ／発表	5～6.	他者への気づき	15.	まとめ／終講試験	7～9.	コミュニケーションの型		
1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築														
2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ／発表														
5～6.	他者への気づき	15.	まとめ／終講試験														
7～9.	コミュニケーションの型																
<p>学習上の注意 なし</p>																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 																	
<p>使用テキスト</p> <p>講義の際に資料提示する</p> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河津良子・河津雄介著：エクササイズによる看護のための自己開発，ナカニシア出版 2. 系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ 医学書院 <p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>																	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上
授業科目：人間関係論Ⅱ（討議法）	単位（時間）：1単位（15時間）
授業担当：長谷川福子／山田みき子 他	開講時期：2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>看護は対人関係と医療チームの中で展開される。感情や意思をもった人間を看護するとき、人間尊厳の態度が求められる。また、より質の高い看護を提供しようとするとき、チームでの協同する力が必要になる。そのため、人間集団において活用されるカウンセリング（相談）と、グループダイナミックス（集団力学）の理論をもとに、よりよい看護とチーム活動を考えていく。また、集団における自己の位置と役割を自覚し、今なすべきことに邁進する力を育てる。</p> <p>目的：集団力学の理論をもとに討議法の実際を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団力学（グループダイナミックス）の理論と技法を理解する 2. 討議法の理論と技法を理解する 3. コミュニケーションに障害のある人との、コミュニケーション技術として手話の基本を身に着ける 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2. 集団の理解（グループダイナミックス） 3～4. 討議法 5～7. コミュニケーション障害がある人とのコミュニケーション 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のあらゆる場面と関連させながら理論を学習していく。また、学習したことは、日常生活の中で実践していくことで身につけていく。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート提出、出席状況や授業態度により評価する。 	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平野馨著：対人関係の基礎知識－カウンセリングとグループダイナミックスの活用－，日本看護協会出版会 2. 鶴田一郎：看護に生かすカウンセリング－その理論と技法，医学書院 3. 川島・杉野共著：看護カンファレンス 第3版，医学書院 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上
授業科目： 人間関係論Ⅲ（カウンセリング）	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 長谷川 福子	開講時期： 2年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>看護は対人関係と医療チームの中で展開される。感情や意思をもった人間を看護するとき、人間尊厳の態度が求められる。また、より質の高い看護を提供しようとするとき、チームでの協同する力が必要になる。そのため、人間集団において活用されるカウンセリング（相談）と、グループダイナミックス（集団力学）の理論をもとに、よりよい看護とチーム活動を考えていく。また、集団における自己の位置と役割を自覚し、今なすべきことに邁進する力を育てる。</p> <p>目的：看護師が看護上で携わる人達と、良好な関係性を築くための基礎的能力を養う。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間について、「生きるとは」、「病むとは」、どういうことか考えを深める 2. 人間援助の方法（カウンセリング）の理論と技法を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間理解の基礎 2～14. 人間援助の方法 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のあらゆる場面と関連させながら理論を学習していく。また、学習したことは、日常生活の中で実践していくことで身につけていく。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート提出、出席状況や授業態度により評価する。 	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平野馨著：対人関係の基礎知識－カウンセリングとグループダイナミックスの活用－，日本看護協会出版会 2. 鶴田一郎：看護に生かすカウンセリング－その理論と技法，医学書院 3. 川島・杉野共著：看護カンファレンス 第3版，医学書院 <p>DVD 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：健康と障がい	単位（時間）：1単位（15時間）
授業担当：武島玲子/山口誠子	開講時期：1年次
<p>科目の概要</p> <p>健康を維持・増進していくための基礎となる科学的知識について理解する。現代社会における健康問題について理解を深める。さらに障がいをもち介護を受ける人について理解をする。</p> <p>目的：健康の概念を理解し、健康の維持・増進を図るための知識を習得する。</p> <p>さらに介護について考える。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康について理解し、現代の問題点を学ぶ。 2 健康づくりの必要性を理解する。 3 介護を受ける人について理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の概念について理解する。 2 現代社会における健康問題について理解する。 3 様々な健康指標について理解する。 4 栄養・運動と健康の関連について理解する。 5 障がいの概念について理解する。 6 日本の福祉介護の現状を理解し、今後の対応を考える。 	
<p>学習上の注意</p> <p>学習内容を理解し、看護場面での活用方法について考える。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>参考図書 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上														
授業科目： 生化学	単位（時間）： 1単位（30時間）														
授業担当： 布施谷 清香	開講時期： 1年次 前期														
<p>科目の概要</p> <p>人間は生物であり、有機化学物質で造られている。また生命維持活動は代謝という化学反応によりエネルギーが作られている。さらに、恒常性により一定の体の状態に維持されるように調整されている。このような、生命維持活動に必要な化学的メカニズムを生体の基本構成物質の働きとともに学習する。</p> <p>目的</p> <p>栄養代謝により人間の生命の維持、成長について化学的反応を細胞レベルで理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の成り立ちにおよぼす細胞の働きを理解する 2. 生体を構成している基本物質と、その化学反応について理解する 3. 環境に適応しながら生き続ける人間の遺伝子情報について、核酸の働きをもとに理解する 4. 体の内部環境維持のメカニズムと、水の働きについて理解する 															
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 基礎知識</td> <td>7. 遺伝子と核酸</td> </tr> <tr> <td>2. 代謝の基礎と酵素・補酵素</td> <td>8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え</td> </tr> <tr> <td>3. 糖質の構造と機能・代謝</td> <td>10～11. 転写</td> </tr> <tr> <td>4. 脂質の構造と機能・代謝</td> <td>12. 翻訳と翻訳後修飾</td> </tr> <tr> <td>5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝</td> <td>13. シグナル伝達</td> </tr> <tr> <td>7. ポルフィリン代謝と異常代謝</td> <td>14. がん</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 基礎知識	7. 遺伝子と核酸	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え	3. 糖質の構造と機能・代謝	10～11. 転写	4. 脂質の構造と機能・代謝	12. 翻訳と翻訳後修飾	5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	13. シグナル伝達	7. ポルフィリン代謝と異常代謝	14. がん		15. 終講試験
1. 基礎知識	7. 遺伝子と核酸														
2. 代謝の基礎と酵素・補酵素	8～9. 遺伝子の転写・修復・組換え														
3. 糖質の構造と機能・代謝	10～11. 転写														
4. 脂質の構造と機能・代謝	12. 翻訳と翻訳後修飾														
5～6. タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝	13. シグナル伝達														
7. ポルフィリン代謝と異常代謝	14. がん														
	15. 終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校までの生物、化学、保健体育等の知識を整理して臨む 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 2 生化学 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 続看護学講座 栄養学 医学書院 <p>DVD 講義の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：解剖生理学 I	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：安 まゆみ	開講時期：1年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。①生命の維持活動に関連する構造と機能、②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能、③活動、思考に関連する器官の構造と機能、④生殖・発生に関する器官の構造と機能に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的：人体の構造と機能を系統的に理解し、人間の生命維持におけるメカニズムを理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 人体の機能が、人間の生命活動にどのような意義をもつのか理解する 3. 生命の維持するための体のしくみと、働きの全体像を理解する 4. 生命維持のための呼吸循環、血液の働きについて理解する 5. 生命誕生の成り立ちとしくみについて理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学の概観／構造と機能からみた人体 2. 体液・血液 3. 体液・血液とホメオスターシス 4～7. 呼吸器系－呼吸と血液の働き－ 8～14. 循環器系の構造と機能－血液循環とその調節－ 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <p>看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識であるため、テキストや参考書を用いて予習・復習を行う。人体の構造は立体的にイメージできるように、人体の機能については、自分自身の身体の中で、何が起こっているのかを常に念頭に置いて学習していく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 医学書院 2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会 3. カラースケッチ解剖学 廣川書店 4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA 2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院 3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版 4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目で見える解剖と生理 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：解剖生理学Ⅱ	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：安 まゆみ	開講時期：1年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。①生命の維持活動に関連する構造と機能、②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能、③活動、思考に関連する器官の構造と機能、④生殖・発生に関する器官の構造と機能に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的：栄養代謝に関連する人体の構造と機能を系統的に理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 人体の機能が、人間の生命活動にどのような意義をもつのか理解する 3. 栄養代謝を司るための、身体の機能と構造について理解する 4. 身体の恒常性のしくみについて理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～6. 消化器系の構造と機能 ー栄養の消化と吸収ー 7. 排便に関連する機能 8～10. 腎機能系 ー体液調節と尿の生成ー 11～13. 自律神経系と内分泌系 ー内蔵機能の調節ー 14. 体液量の調整と排泄 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <p>看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識であるため、テキストや参考書を用いて予習・復習を行う。人体の構造は立体的にイメージできるように、人体の機能については、自分自身の身体の中で、何が起きているのかを常に念頭に置いて学習していく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 医学書院 2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会 3. カラースケッチ解剖学 廣川書店 4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA 2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院 3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版 4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目で見える解剖と生理 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上																
授業科目：解剖生理学Ⅲ	単位（時間）：1単位（30時間）																
授業担当：安 まゆみ	開講時期：1年次 後期																
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。①生命の維持活動に関連する構造と機能、②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能、③活動、思考に関連する器官の構造と機能、④生殖・発生に関する器官の構造と機能に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的：</p> <p>活動、思考に関連する人体の構造と機能を系統的に理解する 人間の生命の誕生～死に至るまでの経過に関連する器官の構造と機能を理解する</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 人体の機能が、人間の生命活動にどのような意義をもつのかを理解する 3. 活動、思考に関連する構造と機能を理解し、日常生活の活動動作のメカニズムが分かる 																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～3. 皮膚の構造と機能 4～5. 生殖と発生 6～12. 脳・神経系と感覚系 13～14. 日常生活動作のメカニズム－情報の受容と処理－ 15. まとめ／終講試験</p>																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識ですから、テキストや参考書を参考に して予習・復習を行う 2. 人体の構造は、立体的にイメージできるように学習する 3. 人体の機能については、自分自身の身体の中で何が起きているのかを常に念頭に置いて学 習する 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <table> <tr> <td>1. 人体の構造と機能</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 解剖トレーニングノート</td> <td>医学教育出版会</td> </tr> <tr> <td>3. カラースケッチ解剖学</td> <td>廣川書店</td> </tr> <tr> <td>4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <table> <tr> <td>1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学</td> <td>NOUVELLE HIROKAWA</td> </tr> <tr> <td>2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </table> <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目で見る解剖と生理 		1. 人体の構造と機能	医学書院	2. 解剖トレーニングノート	医学教育出版会	3. カラースケッチ解剖学	廣川書店	4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック	医学書院	1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学	NOUVELLE HIROKAWA	2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学	医学書院	3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ	医歯薬出版	4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き	医歯薬出版
1. 人体の構造と機能	医学書院																
2. 解剖トレーニングノート	医学教育出版会																
3. カラースケッチ解剖学	廣川書店																
4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック	医学書院																
1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学	NOUVELLE HIROKAWA																
2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学	医学書院																
3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ	医歯薬出版																
4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き	医歯薬出版																

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：解剖生理学Ⅳ	単位（時間）：1単位（15時間）
授業担当：安 まゆみ	開講時期：1年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>解剖生理学では、健康な人の「人体の構造と機能」を学ぶ。人体を構成している部分の構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習していく。生化学で、生体の成り立ちと生命活動を、細胞レベルで起きている化学反応として学習した知識を基本に、臓器や組織が神経やホルモンを介して協働し、維持されていることを学習し、それらの知識を確実に身につけ、看護活動に発展させていく。①生命の維持活動に関連する構造と機能、②栄養、代謝に関連する器官の構造と機能、③活動、思考に関連する器官の構造と機能、④生殖・発生に関する器官の構造と機能に概ね分けて、学習する。</p> <p>目的</p> <p>活動、思考に関連する人体の構造と機能を系統的に理解する。 人間の生命の誕生～死に至るまでの経過に関連する器官の構造と機能を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する、各部分の構造と機能について理解する 2. 誕生、成長、老化、死のメカニズムについて理解する 3. 生体防御に関連する器官と、そのメカニズムを理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～5. 筋と骨格系 –からだの支持と運動– 6～7. 成長と老化 8. 終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を実践していく上で最も重要で、基礎となる知識ですから、テキストや参考書を参考にして予習・復習を行う 2. 人体の構造は、立体的にイメージできるように学習する 3. 人体の機能については、自分自身の身体の中で何が起きているのかを常に念頭に置いて学習する 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 医学書院 2. 解剖トレーニングノート 医学教育出版会 3. カラースケッチ解剖学 廣川書店 4. 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤本淳監：ビジュアル解剖生理学 NOUVELLE HIROKAWA 2. 田中越朗：イラストで学ぶ生理学 医学書院 3. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 ヒトのからだ 医歯薬出版 4. 中野昭一編：解剖・生理・栄養 図説 からだの仕組みと働き 医歯薬出版 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目で見える解剖と生理 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上														
授業科目：薬理学の基礎	単位（時間）：1単位（30時間）														
授業担当：椿 浩之	開講時期：1年次														
<p>科目の概要</p> <p>看護師の薬物療法への理解が十分あることは、治療効果を高めることにつながる。薬物の生体への作用を知り、安全で効果的な薬物療法が提供できるよう、看護師として必要な知識について学ぶ。また、医師・薬剤師・看護師の連携についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>薬物療法の効果を高めるための、薬物に対する基本的な知識を身につける</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物に対する、生体の応答（作用・有害作用）について理解する 2. 生体の状態を調整する、輸液・輸血について理解する 3. 主な薬剤に対する服薬指導、看護のポイントを理解する 4. 処方箋や添付文書の読み方について理解する 															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 薬理学とは</td> <td>9. 泌尿器系に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>2～3. 神経系に作用する薬</td> <td>10～11. 内分泌系に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>4. 呼吸器系に作用する薬</td> <td>12～13. 抗腫瘍薬</td> </tr> <tr> <td>5～6. 消化器系に作用する薬</td> <td>14. 目に作用する薬</td> </tr> <tr> <td>循環器系・血液に作用する薬</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～8. 炎症・免疫系に作用する薬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>抗感染症薬</td> <td></td> </tr> </table>		1. 薬理学とは	9. 泌尿器系に作用する薬	2～3. 神経系に作用する薬	10～11. 内分泌系に作用する薬	4. 呼吸器系に作用する薬	12～13. 抗腫瘍薬	5～6. 消化器系に作用する薬	14. 目に作用する薬	循環器系・血液に作用する薬	15. 終講試験	7～8. 炎症・免疫系に作用する薬		抗感染症薬	
1. 薬理学とは	9. 泌尿器系に作用する薬														
2～3. 神経系に作用する薬	10～11. 内分泌系に作用する薬														
4. 呼吸器系に作用する薬	12～13. 抗腫瘍薬														
5～6. 消化器系に作用する薬	14. 目に作用する薬														
循環器系・血液に作用する薬	15. 終講試験														
7～8. 炎症・免疫系に作用する薬															
抗感染症薬															
<p>学習上の注意</p> <p>薬の効能書をもとに薬の作用や使用方法の実際を理解する</p>															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いちばんやさしい薬理学 成美堂出版 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 堀坂和敬、木皿憲佐訳：問題を中心とした薬理学 廣川書店 2. 高久史麿修：治療薬マニュアル 医学書院 3. 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社 <p>DVD 講義の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目： 臨床病態学 I (診断と治療・がんの診断と治療)	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 武島玲子／高屋敷典生	開 講 時 期： 1 年次
<p>科目の概要</p> <p>臨床病態学は医学を理解する基礎となる学問である。臨床病態学 I では、正常状態との比較において病的な状態、つまり、病気の成り立ちや、身体内での病的変化が、実際にはどのようなものであるかを学習する。医学用語に慣れ、これらの知識を自分のものにして、看護の実践力にしていく。臨床病態学は、臨床病態学 I から VII に大別するが、ここでは、病気の成り立ちと、医学診断に必要な検査、主な治療方法について学んでいく。また、死亡率、有病率とも高いがんの診断と治療について理解し、現代医療の知識を深める。</p> <p>目的</p> <p>病気の成り立ちと、主な診断法・治療法を理解する</p>	
<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の原因・誘因を理解する 2. 身体の中で、どのような変化が生じているのか理解する 3. 疾病予防について理解する 4. 疾病の診断法や治療法および、検査を理解する 5. がんの診断と治療を学び、現代医学の最新医療について理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床病態学序論、先天異常と遺伝子異常、代謝障害 2. 細胞・組織の障害と修復、老化と死 3～4. 循環障害 5～6. 炎症と免疫 7～9. 重症患者、救急患者、周手術期患者の治療 10. 感染症 11. 画像診断、放射線治療、がん化学療法、内視鏡検査、病理診断 12～13. 腫瘍、移植と再生治療 14. がんの診断と治療 15. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床病態学 I から VII は、常に関連づけて学習していく 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上										
授業科目：臨床病態学Ⅱ（呼吸器、循環器疾患）	単位（時間）： 1単位 （30時間）										
授業担当：武島玲子／渡辺重行／安まゆみ	開講時期： 1年次 後期										
<p>科目の概要</p> <p>本科目では、呼吸器・循環器における疾患の診断と治療について学習する。心臓や肺は、互いに関連しながら、生命の維持活動を行う大切な臓器であり、症状や、病気のメカニズムを基本から学習する。また、胸部エックス線所見や心電図などの診断方法の基本を学び、フィジカルアセスメントにその知識を活用できるようにする</p> <p>目的</p> <p>酸素化の障害に関連する身体のメカニズムを理解し、呼吸器・循環器疾患の診断・治療に関する基本的な知識を身につける</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガス交換のメカニズムと障害による症状を理解する 2. 心循環と体循環の役割と障害による症状を理解する 3. 心不全、呼吸不全のメカニズムと、診断方法及び経過に伴う治療方法を理解する 4. 救急処置に使用する、機器の作用について理解する 											
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器疾患の動向・患者の特徴、呼吸器の構造と機能 2.症状とその病態生理 3.検査・治療・処置 4～5.疾患の理解 6.病態と外科的治療法 7.循環器疾患の動向・患者の特徴、循環器の構造と機能 8.症状とその病態生理 9.検査と治療・処置 10～13.疾患の理解と内科的治療 14.先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系・リンパ系疾患 15.まとめ／終講試験 											
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める</p>											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野Ⅱ</td> <td>成人看護学</td> <td>呼吸器 2</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>循環器 3</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書・DVD 講義の際に提示</p>		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院				循環器 3	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院							
			循環器 3	医学書院							

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上												
授業科目：臨床病態学Ⅲ (血液・造血器疾患、消化器疾患)	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：武島玲子／伊藤寛之 他	開講時期：1年次 後期												
<p>科目の概要・目的</p> <p>本科目では、血液・造血器、消化器における、疾患の診断と治療について学習する。成人看護学を中心に、各領域の看護の基礎的知識として学習し、看護過程につなげる。血液は血球と血漿からなり、生命活動及び防御等の様々な役割を担っている。血液のもとである造血幹細胞を造る骨髄が障害を受けると、重篤な疾患となりやすく、全身性の症状におよぶ。血球の作用と内呼吸、感染防御、免疫、止血等の絡んだ障害を根本から理解することで、病気の理解を深める。消化器は、食物の栄養の代謝に絡む大切な臓器である。ここでは、主に食物の消化、栄養の吸収、老廃物の排泄を取扱い、それらに障害が生じることによっておこる症状や疾患を学習する。</p> <p>目的</p> <p>血液・造血器及び消化器の機能と障害のメカニズムを理解し、診断と治療に関する基本的な知識を身につける</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の成分による機能と、それらの障害について理解する 2. 血液・造血器疾患の、病態及び治療方法について理解する 3. 消化器の消化・吸収・排泄機能と、それらの障害による症状について理解する 4. 各消化器器官の障害による、疾患の診断と治療法を理解する 5. 歯科・口腔に関する病変について理解する 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.血液・造血器疾患概要、白血球の働きと障害 2.赤血球の働きと障害、赤血球系疾患の診断と治療 3～4.造血器腫瘍の診断と治療、白血病の診断と治療、リンパ性疾患の診断と治療 5.出血性疾患の診断と治療 6.消化器の構造と機能、消化器の障害で生じる症状の病態、検査 7.消化器腫瘍の診断と治療 8.大腸がん、直腸がん、結腸がん、肝臓がん、膵臓がん他、肛門疾患 9.食道の疾患、胃・十二指腸疾患 10.腸及び腹膜疾患 11.肝疾患の診断と治療 12.胆嚢、膵臓疾患 13～14、歯及び歯周組織の疾患、口腔粘膜の主な疾患、舌の疾患 15 まとめ／終講試験 													
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める。</p>													
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>													
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統看護学講座</td> <td>成人看護学 4</td> <td>血液・造血器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td>成人看護学 5</td> <td>消化器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td>成人看護学 15</td> <td>歯科口腔</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>		1. 系統看護学講座	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院		成人看護学 5	消化器	医学書院		成人看護学 15	歯科口腔	医学書院
1. 系統看護学講座	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院										
	成人看護学 5	消化器	医学書院										
	成人看護学 15	歯科口腔	医学書院										
<p>参考図書・DVD等 なし</p>													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：臨床病態学Ⅳ (腎・泌尿器、生殖器疾患)	単位(時間)：1単位(30時間)
授業担当：武島玲子/田口詩路麻 他	開講時期：1年次
科目の概要・目的 疾患の診断と治療における腎疾患、泌尿器生殖器疾患、内分泌疾患について学習する。成人看護学を中心に、各領域の看護の基礎的知識として学習し、看護過程につなげる。人体における腎臓の役割は内部環境の恒常性を維持する役割にある。細胞外液を一定の水準に保つための役割を腎臓が担っている。また、腎臓機能の低下により日常生活を維持するために長い間の治療を行わなくてはならない。腎機能の障害と病態と治療方法について理解し、患者の生活を整えるための看護につなげていく。尿を生成し対外に排泄するための、尿路系の障害と男性生殖器の障害については泌尿器の分野になる。尿の生成と排泄を協働して行う腎・泌尿器系を関連付けて学習する。なお、内分泌疾患の糖尿病については栄養学で学習し、その他のホルモン異常による疾患をここで学習する。	
学習の到達目標 1. 腎機能の役割と、その障害による疾患の病態が理解できる 2. 尿の成分と腎機能との関係について理解できる 3. 透析療法のメカニズムと障害を理解できる 4. 尿路系障害による、疾患の診断と治療法を理解できる 5. 男性生殖器系の障害による、疾患の診断と治療法を理解できる 6. ホルモン分泌異常による内分泌疾患の診断と治療法を理解できる 7. 皮膚の障害に関する疾患の診断と治療法が理解できる	
学習概要(授業計画) 1.腎の構造と機能 2.疾患の診断と治療 3.全身性疾患による腎障害 4.尿路系の構造と機能、症状 5～8.尿路・性器の感染症、尿路の通貨障害と機能障害、尿路損傷および異物、腎・泌尿器系の治療、尿路・性器の腫瘍、発生発育の異常 9.内分泌器官とホルモンの機能、障害による症状、主な検査 10～11.視床下部・下垂体疾患の診断と治療、甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、内分泌疾患の救急治療 12～14.皮膚科疾患 15.まとめ/終講試験	
学習上の注意 生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める。	
成績評価の方法 ・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。	
使用テキスト 1. 系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 8 腎、泌尿器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学 12 皮膚 医学書院 4. 皮膚病変の見極め術 南山堂	
参考図書・VTR 等 適宜提示します	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上																
授業科目：臨床病態学Ⅴ (脳神経、運動器疾患とリハビリ、眼科疾患)	単位(時間)：1単位(30時間)																
授業担当：畑山徹、武島玲子、岡本芳文、秋月浩光 他	開講時期：1年次 後期																
<p>科目の概要</p> <p>脳神経は感覚器、運動器に関与し、生命活動、身体活動のすべてに大きな影響を与えている。本科目では、解剖生理学や臨床病態学Ⅰで学んだことを基にして、運動器系・脳神経系・感覚器系の疾患の病態・診断・治療について学ぶ。成人看護学、老年看護学での看護の展開では疾患の症状、経過、治療等の知識を用いる。特に、これらに障害がおこった後は、リハビリテーションが機能回復につながることから、リハビリテーションの実際についても学習する。</p> <p>目的</p> <p>身体活動に障害をおよぼす疾患のメカニズムを理解し、脳神経、感受器、運動器系の疾患の診断と、治療に関する基本的な知識を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経機能の障害による、疾患の診断と治療を理解する 2. 運動器の障害による、疾患の診断と治療について理解する 3. 感覚器の障害による、疾患の診断と治療について理解する 4. リハビリの意義と目的と実際について理解する 																	
<p>学習概要(授業計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2.脳・神経系の主な症状と病態生理 3～4.脳血管障害の診断・検査・治療 5.末梢神経障害 6.脱髄・変性疾患、脳・神経の変性疾患と感染症 7.運動器の主な症状と病態生理 8.運動器疾患の診断・治療・検査 9.骨折、神経の損傷、筋・腱・靭帯損傷 10.内因性の運動器疾患 11.代謝性骨疾患、筋及び腱の疾患、上肢・上肢帯の疾患、脊髄の疾患、下肢・下肢帯の疾患 12～13.眼科疾患 14.耳鼻咽喉疾患 15.まとめ/終講試験 																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学、解剖生理学の既習の知識のもとに学習を深める 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 成人看護学</td> <td>10</td> <td>運動器</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 成人看護学</td> <td>7</td> <td>脳・神経</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3. 成人看護学</td> <td>13</td> <td>眼</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>4. 成人看護学</td> <td>14</td> <td>耳鼻・咽喉</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>		1. 成人看護学	10	運動器	医学書院	2. 成人看護学	7	脳・神経	医学書院	3. 成人看護学	13	眼	医学書院	4. 成人看護学	14	耳鼻・咽喉	医学書院
1. 成人看護学	10	運動器	医学書院														
2. 成人看護学	7	脳・神経	医学書院														
3. 成人看護学	13	眼	医学書院														
4. 成人看護学	14	耳鼻・咽喉	医学書院														

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上																
授業科目：臨床病態学VI（精神障害）	単位（時間）：1単位（30時間）																
授業担当：木村 裕一	開講時期：1年次 後期																
<p>科目の概要</p> <p>精神障害は、脳神経の器質的障害と言われているが、ストレスの多い現代社会の中で、その病態は複雑化し、患者数も増えている状況である。また、看護領域においても、すべての発達段階の対象の健康問題として、専門の知識が必要である。そこで、本科目では、精神医学の歴史を学び、精神医学と精神医療の現状と課題を明らかにする。また、小児期の神経発達障害、高齢者の痴呆性疾患等についても学び、ますます高度・複雑化する臨床において求められるリエゾン精神看護、司法精神医学と看護、災害時の精神医療活動についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神障害の原因および症状を理解し、精神疾患の診断と治療に関する基本的な知識を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の歴史を学び、精神医学と精神医療の現状と課題を理解する 2. 病の特徴、精神疾患の症状、検査、診断、治療を理解する 3. リエゾン精神医学、司法精神医学、災害時の精神保健医療活動について考える 4. 精神障害の治療上不可欠な、精神科リハビリテーションについて、その理論と実際を知る 																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神疾患の基礎知識</td> <td>9. 神経症と心因性精神病</td> </tr> <tr> <td>2. 精神障害をもつ人の症状</td> <td>10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患</td> </tr> <tr> <td>3. 精神障害の診断の為に検査</td> <td>11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群</td> </tr> <tr> <td>4. 精神障害の主な治療法</td> <td>12. 身体疾患を合併している患者への関わり</td> </tr> <tr> <td>5. 神経発達症群/神経発達障害群</td> <td>13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療</td> </tr> <tr> <td>6. 統合失調症</td> <td>14. 〃</td> </tr> <tr> <td>7. 気分障害（躁うつ病）</td> <td>15. まとめ/終講試験</td> </tr> <tr> <td>8. 人格障害の分類と症状</td> <td></td> </tr> </table>		1. 精神疾患の基礎知識	9. 神経症と心因性精神病	2. 精神障害をもつ人の症状	10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患	3. 精神障害の診断の為に検査	11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群	4. 精神障害の主な治療法	12. 身体疾患を合併している患者への関わり	5. 神経発達症群/神経発達障害群	13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療	6. 統合失調症	14. 〃	7. 気分障害（躁うつ病）	15. まとめ/終講試験	8. 人格障害の分類と症状	
1. 精神疾患の基礎知識	9. 神経症と心因性精神病																
2. 精神障害をもつ人の症状	10. 器質性精神障害：認知症を伴う疾患																
3. 精神障害の診断の為に検査	11. アルコール依存・物質関連障害及び嗜癖性障害群																
4. 精神障害の主な治療法	12. 身体疾患を合併している患者への関わり																
5. 神経発達症群/神経発達障害群	13. リエゾン・司法精神医学・災害時の保健医療																
6. 統合失調症	14. 〃																
7. 気分障害（躁うつ病）	15. まとめ/終講試験																
8. 人格障害の分類と症状																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習復習を十分に行い、疑問は、講師及び精神看護学担当教員に積極的に質問する 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 2. 講義ごとに配布する資料をテキストとして使用する <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『看護のための最新医学講座第12巻精神疾患』 中山書店 2. 『看護のための最新医学講座第13巻痴呆』 中山書店 <p>DVD 講義の際に提示</p>																	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目： 臨床病態学Ⅶ（小児・女性生殖器）	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 重光貞彦、伊部茂晴、太田正康 他	開講時期： 1年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>本科目では、小児及び女性特有の疾患における診断と治療について学習する。女性の生理に関連した病理的变化を中心に理解し、成人看護学での看護過程につなげる。また、現在における小児疾患の診断と治療法及び、予後について学習し、さらに、出生前診断、合併奇形による予後等、小児の将来の QOL を考慮した治療法に関して学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>母子に起こりやすい病態を理解し、病変が小児の成長発達、女性のライフサイクルにおよぼす影響について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける、生理的な変化に伴う病変について理解する 2. 女性生殖器の疾患の病態および、診断と治療について理解する 3. 小児期の特異な疾患を、発生学・小児期の病態生理を基に理解する 4. 小児の各疾患の、現在の診断・治療法の基礎、予後について理解する 5. 出生前診断、合併奇形による予後など、小児の将来の QOL を考慮した治療等を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.女性生殖器の構造と機能、女性のライフサイクルと健康障害、月経異常・機能性子宮出欠・更年期障害 2～4.女性生殖器の疾患（子宮・卵巣・の腫瘍、機能性病変）と治療 5.性感染症と治療 6～7.出生前の疾患、小児の神経系の疾患と治療 8.小児の消化器疾患と治療 9.小児の免疫・アレルギー性疾患・膠原病と治療、呼吸器疾患、感染症 10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患 11 小児外科の対象となる疾患と治療、外傷と事故、運動器障害・活動制限 12.小児の泌尿器・生殖器の疾患 13.小児の循環器疾患と治療 14.小児の血液・造血器疾患と治療 15.まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生学・小児の生理的特徴、発達の生理等の基礎的知識を整理・予習しておく。 2. 講義の順番は、講師の都合により変更することがある。詳細は後日掲示を参照のこと。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系 看護学全書 24 成人看護学[11]女性生殖器 メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護叢書 第1巻～第5巻 及川郁子監修 メヂカルフレンド社 2. プリンシプル産科婦人科学1 メヂカルレビュー社 3. プリンシプル産科婦人科学2 メヂカルレビュー社 <p>DVD 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：微生物学	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：鴨志田聡／千野裕介	開講時期：2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>生体や環境にとっての微生物の役割を知るとともに、人間の健康に及ぼす影響及び、病原微生物に対する防御について理解する。さらに、感染の経路や症状を理解し、感染症の予防及び治療法を理解する。</p> <p>目的</p> <p>感染に係る病原微生物について理解し、感染症の診断と治療に関する知識を身につける。さらに、感染予防の方法を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体や環境にとっての、微生物の役割（生物浄化と感染）について理解する 2. 感染を起こす病原微生物の種類、特徴、生態防御、症状を理解する 3. 感染予防の方法、病原微生物を死滅・消毒する方法を理解する 4. 代表的な感染症の病態及び治療方法を理解する 5. 病理学検査方法を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物とは ・感染と生体防御 ・感染予防 ・感染症の検査 ・消毒と滅菌 ・主な感染症 ・免疫のしくみ ・自己免疫疾患 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習を自身の感染予防に役立てるとともに、院内感染予防に努める。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の成り立ちと回復の経過 微生物学 メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 アレルギー、膠原病、感染症 医学書院 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：栄養士5年以上												
授業科目： 栄養学	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当：田沼里衣子、武島玲子、川上美智子他	開講時期： 2年次												
<p>科目の概要</p> <p>人間にとっての食生活の意義を理解し、栄養の基本的概念を学ぶとともに、健康の保持・増進、健康障害の治療、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、食事療法および栄養状態を把握・評価する方法を学ぶ。摂取内容が生体の必要とする量と大きくずれると、生体の恒常性による調整能力を超え、代謝異常がおこり、疾病状態に移行する。食習慣が誘因となって発症する慢性疾患（生活習慣病）、傷病者や高齢者にみられる低栄養状態に対する栄養補給、カテーテルを用いる経管栄養食品・栄養剤などの特殊栄養食品等の栄養補給についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>看護職として活動する上で必要な、健康の保持・増進のための、食品や食事の選択に関する基本的な知識を修得する。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の正しい食事と健康の関連について理解する 2. 栄養食事療法の、意義・目的を理解する 3. 栄養食事療法の、計画立案・実施・評価の仕方を理解する 4. 栄養代謝障害について理解する 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間栄養学と看護</td> <td>5～8.</td> <td>臨床栄養</td> </tr> <tr> <td>2. ライフステージと栄養</td> <td>9～11.</td> <td>調理実習</td> </tr> <tr> <td>3. 栄養ケア・マネジメント</td> <td>12～14.</td> <td>食事と食品</td> </tr> <tr> <td>4. 栄養状態の評価・判定</td> <td>15.</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養	2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習	3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品	4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験
1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養											
2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習											
3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品											
4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験											
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 栄養学 医学書院 2. 系統看護学講座 内分泌・代謝 医学書院 													
<p>参考図書 なし</p>													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目： 医療概論	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 武島 玲子	開 講 時 期： 1年次
<p>科目の概要</p> <p>医療、福祉における社会のニーズとともに、看護に対するニーズも変化してきた。医学の目覚ましい進歩は、国民の健康増進に貢献してきた反面、高度専門化した医療現場での課題も大きくなっている。そこで、看護の対象である人々の、社会生活と健康、疾病との関係、ライフサイクルに応じた保健医療の現状と課題を、保険・医療・福祉と関連づけて学習する。</p> <p>目的</p> <p>保健医療の現状と課題を理解し、医療従事者としての姿勢を考える</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療の変遷を、医療技術の進歩と社会のニーズをふまえて理解する 2. 現代における保健医療福祉の課題と、それらに伴う看護の役割を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と看護の原点 医療の歩みと医療観の変遷 2～3. 私たちの生活と健康 4. 科学技術の進歩と現代医療 現代医療の新たな課題 5. 医療を見つめ直す新しい視点 6～7. 保健・医療・福祉の潮流 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞等で今日的医療に関する記事を集めるなど、関心をもって授業に臨む 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 総合医療論 医学書院 <p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p> <p>健康支援と社会保障制度 現代医療論 メヂカルフレンド社</p> <p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 医療安全	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 長山一恵	開 講 時 期： 3年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>哲学で倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を学習した。かけがえのない命を守る立場の医療職でありながら、忙しい臨床現場で、患者を危険にさらしてしまう場面に直面することもある中で、正義や善に関する倫理上の迷いや、ジレンマを感じることも多い。そこで、医療職員としての基本的な倫理観はもとより、医療安全に関する知識・技術を獲得し、組織の一員として、医療安全活動に積極的に取り組む態度を身につける。</p> <p>目的</p> <p>看護における倫理観を基に、医療安全に関する基本的な知識を身につける。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーの構造と、分析方法の基本を理解する 2. 倫理的思想を理解し、看護における正しい倫理的行動を考える 3. 看護業務の特性と、医療事故の構造を理解し、看護師として、医療事故防止の責任と役割を理解する 4. 組織としての医療安全管理を理解し、組織の一員としての医療安全行動を身につける 	
<p>学習概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故防止の考え方 2～3. 診療の補助の事故防止 4～5. 療養上の世話の事故防止 6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 7. 組織的な安全管理体制への取り組み 8. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習では対象への援助過程で、安全への配慮と根拠のある行動が必要であることを意識し学習に臨む。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松木光子編：看護倫理学－看護実践における倫理的基礎－、NOUVELLE HIROKAWA DVD 講義の際に提示 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 公衆衛生	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当：大谷俊裕、内桶里子、栢内 直美、上野富美江	開 講 時 期： 2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>健康づくりには人々の生活習慣、環境整備が重要であり、ヘルスプロモーションが、公衆衛生活動の中心になった。自分自身はもとより、家族や職場、地域の健康づくりを推進するための方法を学習し、実践に活かすことが望まれる。ここでは、公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方について理解する。</p> <p>目的</p> <p>国民の健康的な生活に向けた、思想及び活動を理解するための、基本的な知識を身につける</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の目的と方法を理解する 2. 生活に関連する、生活環境因子や対策を理解する 3. ヘルスプロモーションの推進のための保健活動と、衛生行政を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の活動対象 2. 公衆衛生のしくみ 3. 環境と健康 4. 集団の健康をとらえるための疫学 5. 地域保健 6. 職場と健康 7. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ここでの知識を、専門分野Ⅱの各領域別看護の保健活動に関連させる 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 医学書院 <p>参考図書 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目： 関係法規	単位（時間）： 1単位（15時間）
授業担当： 宇梶 孝	開講時期： 2年次
<p>科目の概要</p> <p>人々の健康を守るためのサービス提供機関と、従事者の役割・機能に関する基本的な法律について理解することは、専門職業人としての自覚と責任ある活動へとつながる。そのため、既習の看護の知識を、法的根拠のもとに確認することが必要である。</p> <p>目的</p> <p>専門職業人としての、看護の役割を担うために必要な、法的根拠を理解する</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉に関する法則を学び、保健医療福祉チームの連携と役割を理解する 2. 看護業務を遂行するうえで必要な、法的根拠を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師助産師看護師法 2. 医療関係法規 3～6. 医療サービスの供給体制 7. 看護職員の確保・労働と関係法規 8. まとめ／終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護六法や法令集を参考にする 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 4 関係法規 メヂカルフレンド社 <p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：社会福祉士5年以上																
授業科目：社会福祉	単位（時間）：2単位（30時間）																
授業担当：山本 真由美	開講時期：1年次 前期																
<p>科目の概要</p> <p>日本では世界でも類をみない超高齢社会を迎えている。加えて、少子化という重大な課題を抱えているのが現状である。そのため、疾患や障害、高齢であっても住み慣れた地域で生活することを目標にさまざまな政策が打ち出されている。そして、医療職は多職種と連携し、対象の地域や家庭における生活へのトータルケアやマネジメントの視点で活動することが求められている。そこで、社会保障の理念と基本的な制度の考え方、生活者の生活問題に対する、法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解することが必要となる。</p> <p>目的</p> <p>保健・福祉・医療の連携の中で、健康で文化的な生活を送るために必要な、社会保障制度を活用するための基礎的な知識を身につける</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・福祉・医療の連携の必要性を理解する 2. 社会保障制度を理解する 3. 社会保険の役割と制度を学習し、制度の活用について理解する 4. 少子高齢社会における、社会福祉の課題を理解する 																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 日本の保健医療福祉</td> <td>9. 年金制度とその他の社会保険制度</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉の歴史Ⅰ</td> <td>10. 社会福祉基礎構造改革および</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の歴史Ⅱ</td> <td>ソーシャルワークと社会福祉援助技術</td> </tr> <tr> <td>4. 日本と諸外国の社会保障</td> <td>11. 生活保護法と施策</td> </tr> <tr> <td>5. 医療保険制度Ⅰ</td> <td>12. 障害者（児）福祉と施策</td> </tr> <tr> <td>6. 医療保険制度Ⅱ</td> <td>13. 児童福祉と施策</td> </tr> <tr> <td>7. 高齢者施策と介護保険</td> <td>14. 社会福祉行政のしくみと専門職</td> </tr> <tr> <td>8. 介護保険制度</td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 日本の保健医療福祉	9. 年金制度とその他の社会保険制度	2. 社会福祉の歴史Ⅰ	10. 社会福祉基礎構造改革および	3. 社会福祉の歴史Ⅱ	ソーシャルワークと社会福祉援助技術	4. 日本と諸外国の社会保障	11. 生活保護法と施策	5. 医療保険制度Ⅰ	12. 障害者（児）福祉と施策	6. 医療保険制度Ⅱ	13. 児童福祉と施策	7. 高齢者施策と介護保険	14. 社会福祉行政のしくみと専門職	8. 介護保険制度	15. まとめ／終講試験
1. 日本の保健医療福祉	9. 年金制度とその他の社会保険制度																
2. 社会福祉の歴史Ⅰ	10. 社会福祉基礎構造改革および																
3. 社会福祉の歴史Ⅱ	ソーシャルワークと社会福祉援助技術																
4. 日本と諸外国の社会保障	11. 生活保護法と施策																
5. 医療保険制度Ⅰ	12. 障害者（児）福祉と施策																
6. 医療保険制度Ⅱ	13. 児童福祉と施策																
7. 高齢者施策と介護保険	14. 社会福祉行政のしくみと専門職																
8. 介護保険制度	15. まとめ／終講試験																
<p>学習上の注意 なし</p>																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康支援と社会保障制度 3 社会福祉 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>																	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目：基礎看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）：1単位（30時間）										
授業担当：大槻 解子／後藤 文子	開講時期：1年次 前期										
<p>科目の概要</p> <p>看護職は、健康生活支援の専門家として、専門的知識・技術・態度が求められている。「看護とは何か」「看護職とは何をするのか」看護の歴史や 諸理論から幅広く看護学の主たる概念を学習し、実践の科学である看護に対する理解を深め自らの看護観を明確にしていく。</p> <p>目的</p> <p>看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かについて学び、専門職としての看護のあり方を理解する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の発展と看護の定義を理解する 2. 看護の対象を理解する 3. 健康の概念を理解する 4. 看護の目的、役割と機能を理解する 5. 看護者としての看護倫理を理解する 											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護とは何か</td> <td>4. 看護の提供者</td> </tr> <tr> <td>2. 看護の対象である人間理解</td> <td>5. 看護における倫理</td> </tr> <tr> <td>3. 健康の捉え方と国民の健康状態</td> <td>6. 看護の提供者の仕組み</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7. 広がる看護の活動領域</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 看護とは何か	4. 看護の提供者	2. 看護の対象である人間理解	5. 看護における倫理	3. 健康の捉え方と国民の健康状態	6. 看護の提供者の仕組み		7. 広がる看護の活動領域		8. 終講試験
1. 看護とは何か	4. 看護の提供者										
2. 看護の対象である人間理解	5. 看護における倫理										
3. 健康の捉え方と国民の健康状態	6. 看護の提供者の仕組み										
	7. 広がる看護の活動領域										
	8. 終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の基礎であり、積極的な態度で学んでほしい 											
<p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学概論(基礎看護学①) 医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学概論 メジカルフレンド社 2. 系統看護学講座 看護 医学書院 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フローレンス・ナイチンゲール その1、その2 											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション、看護教育)	単位(時間)： 1単位(30時間)
授業担当： 大槻解子/後藤文子	開講時期： 1年次 前期
科目の概要 人間関係を発達させる技術として、コミュニケーション技術が不可欠である。コミュニケーションの手段として、相互のメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼関係を築くことが必要になってくる。そのための技法を学ぶことが大切である。看護師は人々の健康の維持・促進、回復といった過程に関わるため、基本的ケアの一部として教育・指導は切り離すことができない。看護師は、対象の保健指導として、看護を行うために指導する存在となる。それは、看護師が意識していなくても、教育・指導は看護と深く関係している。	
目的 看護技術の基本的な重要性を学ぶ。また、看護技術を成立させるための手段としてのコミュニケーション技術や指導・教育を修得する	
学習の到達目標 1. コミュニケーションの特徴と、医療・看護における重要性を理解する 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ 3. 看護における教育的関わりを理解する	
学習概要(授業計画) 1～2. 看護技術の概念 3. コミュニケーションに関する基礎知識 4. 看護とコミュニケーション 5. 看護理論とコミュニケーション	6～9. 看護場面におけるコミュニケーション 10～11. コミュニケーション障害への対応 12～14. 看護における教育・指導 15. 終講試験
学習上の注意 患者の情報収集をするために必要な技術である。また、患者・スタッフとの会話が成立させるための技術でもある。積極的な態度で臨んでほしい。	
成績評価の方法 1. 出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する	
使用テキスト 1. 看護コミュニケーション ～基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院	
参考図書 授業の中で提示する	
DVD 授業の中で提示する	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目：基礎看護学Ⅲ（活動と休息、環境整備）	単位（時間）：1単位（30時間）								
授業担当：山口まや、猪野真美子 他	開講時期：1年次 前期								
<p>科目の概要</p> <p>人間にとって生活環境の適・不適は健康の保持増進や療養状態に大きく影響する。特に病室では、採光、照明、色彩、音、室内気候、空気などの物理的環境と共に、生活の場となる病床は患者の療養に適したものでなければならない。この授業では環境整備は、環境の整備とリネン交換に分けられる。病人にとっての環境を学生間で話し合い、快適な環境を整えるための機会となる。環境を整える一環として、ここではリネン交換技術として演習を行う。体位交換技術は日常生活援助技術を行うための基盤となる技術である。体位変換・移動技術は対象の安全安楽な体位保持、移動に関する技術を修得することが必要となる。</p> <p>活動・休息に対する欲求は、人間の基本的欲求の1つである。しかし、病気や障害、治療などによって制約され、行えない場合がある。セルフケア能力を低下させることなく、必要な安静を守り、患者の潜在的能力に働きかけ、可能性の支援を行うことが必要になる。そのために、セルフケア能力や個別の状況に応じた援助方法を工夫し、実施できる能力を身につけさせたい。</p> <p>目的</p> <p>患者にとっての療養環境を理解する。対象者にとっての快適な病床環境整備、ベッドメイキング、リネン交換を修得する。また安全、安楽への配慮を行いながらの体位変換、移動技術を修得する</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者にとって快適な病床環境を理解する 2. 基本的なベッドメイキングを実施する 3. 臥床患者のリネン交換を実施する 4. ボディメカニクス技術を理解する 5. 臥床患者の体位交換を理解する 6. 患者の状態に合わせてベッドから車いすへの移乗、車椅子移送を理解する 7. 患者をベッドからストレッチャーへ移乗し、移送を理解する 8. 患者の歩行・移動介助を理解する 									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1～6.</td> <td>環境整備技術</td> <td>12～13.</td> <td>睡眠・覚醒の援助</td> </tr> <tr> <td>7～11.</td> <td>基本的活動の援助</td> <td>14～15.</td> <td>実技テスト、終講テスト</td> </tr> </table>		1～6.	環境整備技術	12～13.	睡眠・覚醒の援助	7～11.	基本的活動の援助	14～15.	実技テスト、終講テスト
1～6.	環境整備技術	12～13.	睡眠・覚醒の援助						
7～11.	基本的活動の援助	14～15.	実技テスト、終講テスト						
<p>学習上の注意</p> <p>基礎的な援助技術であるため、目的を考えながら援助技術を練習してもらいたい</p>									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題の提出状況、実技テスト、終講試験を総合して評価する 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 参考図書 1. 看護技術がみえる1 メディクメディア 2. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ 3. 考える基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ 他、授業で提示する <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベッドメイキング 2. 看護ケアに役立つリラクゼーション法 3. 体位変換（アスカム） 									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目：基礎看護学Ⅳ（清潔・衣生活と排泄）	単位（時間）：1単位（30時間）										
授業担当：渡邊 まどか 他	開講時期：1年次 前期										
<p>科目の概要</p> <p>自分の身体や身につけるものを清潔に保ち、自分の好きな衣服や装備品を身にまとい、好みの方法で身だしなみを整えることは、人間にとって基本的なニーズである。疾病あるいは治療上の制約により自分で清潔を保てなくなった場合、易感染状態になるだけではなく、精神的にも悪影響を与える。また、衣服は、外部からの物理的・化学的刺激から身体を守るだけではなく、自分らしさの表現でもあり、アイデンティティや役割意識に深く関与している。以上のような多義的な観点から患者の日常生活をとらえ、患者が快適で自分らしい清潔行動や整容行為をとることができるように援助することが看護の重要な役割である。排泄は生命維持に欠かすことのできない生理的、基本的欲求である。また、年齢、排泄習慣の自立レベル、性別、職業、生活背景による理解レベル、民族、宗教などにより排泄に対する認識は個人で大きく異なる。これを理解したうえで特に自立と個別性を重視する技術である。患者の自立に向けて、基本原則に従って自立と個別性という2つの視点で学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>身体が清潔であることや好みの装いを自由に楽しめることがどのような意味を持つか、個別性に配慮しながら看護実践を組み立てていく素地を培う 排泄は、患者の個別性を大切にしながら、演習を通じて、自立を促し羞恥心に配慮した安全、安楽な基本的な技術を修得する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身だしなみをととのえるための援助を理解する 2. 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察を理解する 3. 清潔を目的とした足浴・手浴の目的・実施手順を理解する 4. 臥床患者の清拭を実施する 5. 臥床患者の洗髪を実施する 6. 臥床患者の寝衣交換を実施する 7. 患者に合わせた便器・尿器を選択し排泄援助を実施する 8. モデル人形に浣腸、一時的導尿を実施する 											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 身だしなみを整える意味</td> <td>11. 排尿の援助 （意義、仕組み、排尿のアセスメント）</td> </tr> <tr> <td>2. 衣生活援助の基礎知識</td> <td>12. 排便の援助</td> </tr> <tr> <td>3～5. 入浴・全身清拭・寝衣交換の基礎知識</td> <td>13～14. 排泄の演習</td> </tr> <tr> <td>6.7 臥床患者の全身清拭演習</td> <td>15. 終講テスト</td> </tr> <tr> <td>8～10. 洗髪の基礎知識および演習</td> <td></td> </tr> </table>		1. 身だしなみを整える意味	11. 排尿の援助 （意義、仕組み、排尿のアセスメント）	2. 衣生活援助の基礎知識	12. 排便の援助	3～5. 入浴・全身清拭・寝衣交換の基礎知識	13～14. 排泄の演習	6.7 臥床患者の全身清拭演習	15. 終講テスト	8～10. 洗髪の基礎知識および演習	
1. 身だしなみを整える意味	11. 排尿の援助 （意義、仕組み、排尿のアセスメント）										
2. 衣生活援助の基礎知識	12. 排便の援助										
3～5. 入浴・全身清拭・寝衣交換の基礎知識	13～14. 排泄の演習										
6.7 臥床患者の全身清拭演習	15. 終講テスト										
8～10. 洗髪の基礎知識および演習											
<p>学習上の注意</p> <p>清潔の援助を行うことは対象の生活を整えることにつながる。患者の気持ちを考えながら修得する</p>											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題の提出状況、実技チェック、終講試験を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野（1）基礎看護学 メヂカルフレンド社 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術がみえる1・2 基礎看護技術 メディクメディア 2. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ノーヴェルヒロカワ 3. 根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 他 授業で紹介する <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践！看護技術シリーズ 清潔の援助技術編、排泄の援助技術編、日常生活の援助技術編 											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：基礎看護学V (栄養、呼吸・循環を整える技術)	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：渡邊まどか、宮内和代 他	開講時期：1年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>栄養では、食事の意義と栄養面・生活面・行動面からとらえる。好みの食事を準備し、食事を楽しむことは、人間にとって基本的な欲求の一つである。また、必要な栄養量を維持し、栄養状態を保つことは生体としての機能を維持・回復させるための基盤となる。人間が安楽に生きていくうえで、呼吸・循環の意義は大きく、その機能が何らかの原因により阻害された状態は、不安や苦痛を伴う。本科目では呼吸・循環の意義としくみを学び、それらを整えるために必要な看護技術（体温管理・保温の援助、酸素吸入療法、排痰ケア等）を修得していく。</p> <p>目的</p> <p>栄養：人が生きることの根幹にかかわる食事という行為の意味と意義を深く考え、それを配慮しながらの援助技術を修得する。呼吸・循環を整える技術：身体の機能と構造に関する総合的なアセスメント能力を駆使しながら、患者の呼吸・循環の安楽の保持と、苦痛を緩和するための援助技術を修得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <p>栄養 1. 患者の状態に合わせた食事介助を理解する 2. 経鼻栄養・経鼻経管栄養チューブの管理を理解する</p> <p>呼吸・循環を整える技術</p> <p>1.呼吸の意義とアセスメントについて理解する 2.呼吸を楽にする姿勢及び呼吸法を理解する 3.気道分泌物の排出方法と援助の実際を理解する 4.酸素療法の意義と方法と援助の実際を理解する 5.人工呼吸療法の概要を理解する 6.体温・循環調節の手段としての罨法の援助を理解する</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1.食べることの意義 2.摂食・嚥下のメカニズム 3 食生活の援助に関する基礎知識 4.食事介助演習 5.健康障害と食生活 6～7. 経鼻経管栄養法演習 8.呼吸・循環を整える技術①</p>	<p>9.呼吸・循環を整える技術② 10.呼吸・循環を整える技術③ 11～14.呼吸・循環を整える技術④ 1)気道分泌物の排出の援助 体位ドレナージ、スクイーピング、吸引 15.まとめ 終講試験</p>
<p>学習上の注意</p> <p>実技は患者の気持ちを考えながら、苦痛の緩和に努める工夫を考え、深めていくことが重要である。実施する際、観察することを忘れないようにする</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 出席状況、課題の提出状況、演習への取り組み、終講試験を総合して評価する</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 専門分野（1）基礎看護学 メヂカルフレンド社 2.看護技術が見える 基礎看護技術 メディック・メディア</p> <p>参考図書</p> <p>1. 演習・実習に役立つ 基礎看護技術 スーヴェルヒロカワ 2. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 メディカ出版 3. 新体系看護学全書 基礎看護技術③ メヂカルフレンド社 他 授業で紹介</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：基礎看護学VI (与薬・注射・創傷管理)	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：宮内和代 猪野祐加子 他	開講時期：1年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>与薬の技術では、医師の指示に基づいた薬物が安全かつ確実に投与する方法を学ぶ。注射の技術では、与薬での知識を想起しつつ各注射方法について学ぶ。DVDやモデル人形を用いロールプレイで演習を行う。創傷管理では、基本的な知識・技術を理解し、無菌的な操作が行えることを狙いに行っている。創傷管理の技術は急速な発展途上にある分野であるため、その知識は常に新しい知見によって変わりうることを頭におきながら、感染予防の必要性を学び、病院での物品や患者の使用物、汚染物の取り扱い等の知識を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>創傷管理ではスタンダードプリコーションを理解した上での確実な無菌操作、感染予防を修得する。与薬での内容を想起し、安全な注射技術を修得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物の特徴を理解し、正しい与薬、薬物の管理方法を理解する 2 経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬の特徴を理解し、実施法を学ぶ 3 静脈・点滴静脈・皮下・皮内・筋肉注射の特徴を理解し、実施法を学ぶ 4 感染予防対策が理解でき、実施できる 5 創傷管理の目的、方法を理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～5 感染管理の基礎知識 6 創傷管理の基礎知識 7 実技テスト 8～10 与薬の基礎知識 11～14 注射の実施と観察 15 まとめ、終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <p>看護業務の法的位置付けを理解する。安全で確実な看護が実施できるよう基本的能力を養う。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 出席状況、技術テスト、終講試験を総合して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 専門分野（1）基礎看護学 メヂカルフレンド社</p> <p>参考テキスト</p> <p>1. 看護技術がみえる 2 臨床看護技術 メディクメディア 2. 演習実技に役立つ基礎看護技術 スーヴェルヒロカワ 3. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 メディカ出版</p> <p>DVD 授業で提示する</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目：基礎看護学Ⅶ (フィジカルアセスメント1：生体観察、検査介助)	単位(時間)：1単位(30時間)								
授業担当：宮内和代/上野富美江 他	開講時期：1年次 前期								
科目の概要 「看護は観察から始まる」といわれる。看護行為を根拠づけるためには、まず患者を知るところから始まる。ヘルスアセスメントは身体面にとどまらず、心理面、社会面にも目を向ける必要がある。フィジカルアセスメントは、その必要性を理解するだけでなく、実際の個々のフィジカルイグザミネーションを駆使し、五感を使って観察することの重要性とその方法を学ぶ。ここでは、身体測定・バイタルサインの観察・身体診察・検体検査・生体検査・身体情報の持続的モニタリングの学習項目を設定している。これらの技術は、患者の身体の情報把握するために看護師が行なう基本的技術となる。特に、バイタルサイン(血圧、脈、呼吸、体温)の測定に関しては、確かな技術を習得し、聴診器の使用法、聴診法による観察、視診、触診のための知識・技術を学習する。検査介助についてもこの単元で学ぶが、知識のみになる。実際の介助方法については、臨地実習にゆだねることとする。									
目的 ヘルスアセスメントが患者理解のために必要であることがわかり、バイタルサインの測定方法を習得する。フィジカルアセスメントの情報としての検査の種類とその方法を習得する。									
学習の到達目標 1. ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念と目的を理解し、必要な技術が理解できる 2. 視診、問診、触診、打診、身体計測の方法がわかる 3. バイタルサインが正確に測定でき、測定値から患者の状態をアセスメントする 4. 正確な検査が行えるための患者の準備と介助を理解する 5. 各種検査の目的を理解し、目的に合わせた検体の取り扱い方を理解する									
学習概要(授業計画) <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. ヘルスアセスメントの概念</td> <td style="width:50%;">4.実技試験</td> </tr> <tr> <td>2. フィジカルアセスメント</td> <td>5. 検体検査の援助と観察</td> </tr> <tr> <td>3. フィジカルイグザミネーションの方法</td> <td>6. 生体検査援助の実際と観察</td> </tr> <tr> <td>バイタルサイン測定 身体測定</td> <td>7. 終講試験</td> </tr> </table>		1. ヘルスアセスメントの概念	4.実技試験	2. フィジカルアセスメント	5. 検体検査の援助と観察	3. フィジカルイグザミネーションの方法	6. 生体検査援助の実際と観察	バイタルサイン測定 身体測定	7. 終講試験
1. ヘルスアセスメントの概念	4.実技試験								
2. フィジカルアセスメント	5. 検体検査の援助と観察								
3. フィジカルイグザミネーションの方法	6. 生体検査援助の実際と観察								
バイタルサイン測定 身体測定	7. 終講試験								
学習上の注意 バイタルサイン測定が正確に行える必要がある。かなりの自己学習の時間を要す。看護師としての観察の眼を育てる重要な科目である。									
成績評価の方法 1. 出席状況、課題提出状況、実技テスト、終講試験を総合して評価する。									
使用テキスト 1. 専門分野(1)基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. フィジカルアセスメントがみえる メディック メディア									
参考図書 1. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ 2. ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 メディカ出版 3. その他									
DVD 1.山内豊明教授のフィジカルアセスメント 4本 その他									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 基礎看護学Ⅷ (フィジカルアセスメント2：系統的観察法)	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 坪井 喜代 他	開講時期： 1年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>日常生活や療養生活支援としての確かな看護判断と看護技術を提供することが求められている。その技術としてヘルスアセスメントは健康の査定であり、人間の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的に査定することであり、特にフィジカルアセスメントは身体的情報を査定する方法を学習する。そして、日常生活を整える援助へ結び付けるためのアセスメントできる能力を学習していく。</p> <p>目的</p> <p>フィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの方法を修得し、正常・異常がわかる</p>	
<p>学習の到達目標</p> <p>1. 各器官のフィジカルアセスメントの基本的知識・技術を修得する</p> <p>(1)呼吸器系のフィジカルアセスメント (2)循環器系のフィジカルアセスメント (3)消化器系のフィジカルアセスメント (4)脳神経系のフィジカルアセスメント (5)筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～3 呼吸器系のフィジカルアセスメント 10～11 脳神経系のフィジカルアセスメント 4～6 循環器系のフィジカルアセスメント 12～14 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7～9 消化器系のフィジカルアセスメント 15 終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <p>系統的な観察方法を修得し、今後の成人看護学に役立てるようにじっくり学んでいく。</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1. 出席状況、課題提出状況、終講試験を総合して評価して評価する。</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 系統的看護学講座 基礎看護学② 医学書院</p> <p>参考テキスト</p> <p>1. 演習実技に役立つ基礎看護技術 ニューヴェルヒロカワ その他、授業前に提示する</p> <p>DVD</p> <p>1. 授業で提示する</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目：基礎看護学Ⅸ：看護過程 (看護過程とは 事例検討)	単位(時間)：1単位(30時間)								
授業担当：山口 政実 他	開講時期：1年次 後期								
<p>科目の概要</p> <p>看護過程は、あらゆる対象に看護を実践するための科学的思考過程であり、看護を展開するための方法としての技術である。この方法は、対象者と看護者間の良好な人間関係のもと、系統的なプロセスで看護を実践する。人間を捉える事のみに限らず人間関係を基盤として対象を全人的に捉え、人間の反応や体験に目を向け援助していくアプローチについても学習する。</p> <p>目的</p> <p>科学的思考過程を学習し、看護上の問題をみつけ、健康上の援助計画を立案できるようにする</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的を達成するため看護過程の意義を理解する 2. 事例をもとに看護解決過程やクリティカルシンキング、情報の分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する 3. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方を理解する 4. 看護記録の方法と実際を理解する 									
<p>学習概要(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1～3.</td> <td>看護過程とは</td> <td>8～13.</td> <td>事例展開②</td> </tr> <tr> <td>4～7.</td> <td>事例展開①</td> <td>14～15.</td> <td>事例発表会</td> </tr> </table>		1～3.	看護過程とは	8～13.	事例展開②	4～7.	事例展開①	14～15.	事例発表会
1～3.	看護過程とは	8～13.	事例展開②						
4～7.	事例展開①	14～15.	事例発表会						
<p>学習上の注意</p> <p>色々な角度から、患者を観察できる能力を養っていく。</p>									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、授業態度、提出物、終講試験を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統的看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 看護学生のための実習記録 サイオ出版 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で提示する <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で提示する 									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目：基礎看護学Ⅹ（臨床看護学総論）	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当：山口 政実	開講時期： 1年次 後期												
<p>科目の概要</p> <p>看護は、人間の持つ健康問題に対して援助する専門的職能である。人間が安らかにそれぞれのライフサイクルや健康レベルに適応した生活が送れるように援助することが求められる。生命の危険度の変動を対象者の出生から死の方向への時間的移り変わりの中でとらえ、その特性を疾病の経過だけでなく、対象者の生活の視点に主軸をおいて援助することが必要である。この単元では疾病の経過を治療やケアの必要度から急性期、回復期（移行期）、慢性期、終末期に分け、それぞれ特徴的な看護を学んでいく。それに加え具体的な対象者の症状や治療・検査の基礎的知識を得ることで、実際の患者に起こりうる状態を理解する。既習の「看護学概論」「基礎看護技術」で習得した内容を、臨床の場で出会うことの多い症状を具体的に適応できるように事例を通して知識と技術の統合を図る。</p> <p>目的</p> <p>対象者のライフサイクルや健康状態の経過に基づく看護の特徴を学び、臨床看護の理解を深める。また、主要な症状のメカニズムの学習を通し、看護の実践者としてさまざまな対象に応じた看護を総合的に考えることができるようにする。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.健康上のニーズを持つ生活者と家族の看護を理解する 2.経過に基づく対象の看護の特徴を理解する 3.主要症状を示す対象の看護を理解する 4.治療処置を受けている対象の看護を理解する 5.様々な健康レベルにある患者に必要な看護技術を実施する 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ～2</td> <td>健康生活と看護</td> <td>7. ～8.</td> <td>治療・処置を受ける対象者への看護</td> </tr> <tr> <td>3. ～4.</td> <td>経過別看護の特徴</td> <td>9. ～14.</td> <td>事例展開【回復期にある患者の事例を</td> </tr> <tr> <td>5. ～6.</td> <td>主要な症状を示す対象者への看護</td> <td colspan="2">基に想定される看護技術を実践する】</td> </tr> </table>		1. ～2	健康生活と看護	7. ～8.	治療・処置を受ける対象者への看護	3. ～4.	経過別看護の特徴	9. ～14.	事例展開【回復期にある患者の事例を	5. ～6.	主要な症状を示す対象者への看護	基に想定される看護技術を実践する】	
1. ～2	健康生活と看護	7. ～8.	治療・処置を受ける対象者への看護										
3. ～4.	経過別看護の特徴	9. ～14.	事例展開【回復期にある患者の事例を										
5. ～6.	主要な症状を示す対象者への看護	基に想定される看護技術を実践する】											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する 2. 演習時の計画・実施時の記録、演習態度、技術テスト結果から評価する 													
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統学看護学講座</td> <td>臨床看護総論(基礎看護学④)</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 系統学看護学講座</td> <td>基礎看護技術</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その他 授業で提示する <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.スピリチュアリティ 2.救命救急シリーズ 		1. 系統学看護学講座	臨床看護総論(基礎看護学④)	医学書院	2. 系統学看護学講座	基礎看護技術	医学書院						
1. 系統学看護学講座	臨床看護総論(基礎看護学④)	医学書院											
2. 系統学看護学講座	基礎看護技術	医学書院											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目：成人看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：大槻 解子	開講時期：1年次 後期												
<p>科目の概要</p> <p>成人期の心身社会的特徴を理解するために、援助に必要な看護理論を学び、具体的な看護援助について。成人看護概論では、成人期の人の理解を中心に生活者としての視点で学習を進める。</p> <p>目的</p> <p>成人期にある対象者の身体的・精神的（霊的を含む）・社会的な特徴を理解し、対象の成長、発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ</p> <p>成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに、生活習慣病と健康障害の関連など、成人保健活動の基本について理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の特徴を理解する 2. 成人期にみられる健康問題を理解する 3. 成人期の健康増進の必要性と方法を理解する 4. 成人期における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 成人期の特徴の発達課題</td> <td>10～11.ヘルスプロモーション実際と課題</td> </tr> <tr> <td>2～3.成人期の健康と援助</td> <td>12～13.成人期の看護診断</td> </tr> <tr> <td>4～5.成人期の保健・医療・福祉における動向と課題</td> <td>14. 看護診断の考え方と展開方法</td> </tr> <tr> <td>6.生活習慣病と対策</td> <td>15.まとめ、終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～8.ヘルスプロモーションと理論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.ソーシャルサポート</td> <td></td> </tr> </table>		1. 成人期の特徴の発達課題	10～11.ヘルスプロモーション実際と課題	2～3.成人期の健康と援助	12～13.成人期の看護診断	4～5.成人期の保健・医療・福祉における動向と課題	14. 看護診断の考え方と展開方法	6.生活習慣病と対策	15.まとめ、終講試験	7～8.ヘルスプロモーションと理論		9.ソーシャルサポート	
1. 成人期の特徴の発達課題	10～11.ヘルスプロモーション実際と課題												
2～3.成人期の健康と援助	12～13.成人期の看護診断												
4～5.成人期の保健・医療・福祉における動向と課題	14. 看護診断の考え方と展開方法												
6.生活習慣病と対策	15.まとめ、終講試験												
7～8.ヘルスプロモーションと理論													
9.ソーシャルサポート													
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題提出状況、終講試験を総合して評価する 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学概論 ニーベルヒロカワ 													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上						
授業科目：成人看護学Ⅱ (経過別看護・リハビリテーション期①)	単位(時間)：1単位(30時間)						
授業担当：鈴木/谷田部/坪井	開講時期：2年次 前期						
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期看護の考え方を理解する 急性期にある人、急性期から回復過程にある人の特徴を理解する 呼吸機能障害のある患者の看護を理解する 循環機能障害のある患者の看護を理解する 							
<p>学習概要(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解</td> <td>8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>3. 急性期にある人々への看護援助</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解	8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開	3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験	4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護	
1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解	8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開						
3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験						
4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護							
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人看護学 急性期看護論 ニーベルヒロカワ <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 							

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 成人看護学Ⅲ (経過別看護・リハビリテーション期②)	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 大部、中川、前嶋、赤木	開講時期： 2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の考え方を理解する 2. 急性期から回復過程にある人の特徴を理解する 3. 生活の再構築を支える看護援助について理解する 4. 生活機能障害別リハビリテーション看護について理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の考え方（障害者施策の変遷と倫理的課題、経過別リハビリテーション） 2～6. リハビリテーションを必要とする人への看護援助 7～10. 疾患別リハビリテーション看護 11～14. 生活機能障害別リハビリテーション看護 15. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 リハビリテーション看護論 ヌーベルヒロカワ <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上						
授業科目：成人看護学Ⅳ（経過別看護・周手術期）	単位（時間）： 1単位（30時間）						
授業担当：渡辺、前嶋、小笠原、海老根、小野田、後藤、海老沢	開講時期： 2年次 前期						
<p>科目の概要</p> <p>周手術期にある人の特徴を理解し、手術侵襲からの早期回復を促進する看護援助について学ぶ。また周手術過程に応じた看護について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>手術療法を受ける患者とその家族を理解し、術後合併症のリスクを予測して、術後の回復を促進する看護を理解する。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期看護の専門性と看護の役割を理解する 2. 周手術期にある人の特徴を理解し、必要な看護援助を理解する 3. 周手術期に応じた看護の特徴を理解する 4. 術後合併症と予防のための看護援助を理解する 							
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 周手術期看護の考え方</td> <td>7～12. 術式による特徴的な手術看護</td> </tr> <tr> <td>2. 周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護</td> </tr> <tr> <td>周手術期にある人への看護援助</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table> <p>3～4. 周手術過程に応じた看護 術前・術中・術直後</p> <p>5～6. 術後合併症と予防のための看護技術</p>		1. 周手術期看護の考え方	7～12. 術式による特徴的な手術看護	2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護	周手術期にある人への看護援助	15. 終講試験
1. 周手術期看護の考え方	7～12. 術式による特徴的な手術看護						
2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護						
周手術期にある人への看護援助	15. 終講試験						
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 医学書院 3. 系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 医学書院 4. 系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 5. 系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 6. 系統看護学講座 成人看護学 10 運動器 医学書院 							

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目：成人看護学Ⅴ（経過別看護・慢性期）	単位（時間）： 1単位（30時間）										
授業担当：大部、斎藤、馬場、猪野、井田 他	開講時期： 2年次 前期										
<p>科目の概要</p> <p>慢性期とは慢性の状態にある時期であり、長期にわたり患者と医療者が病気をマネジメントしていく時期である。慢性期にある人の看護は、慢性期にある患者とその家族のもつ力を重視し、患者が自らの問題に気づき、病気と折り合いをつけて生活できるように働きかけることが重要である。患者に必要な生活の質の維持・充実を目標とした看護実践について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>慢性期にある患者及び家族の特徴を理解し、生涯にわたって治療や療養のマネジメントを必要とする患者及び家族へ必要な看護援助について理解する。</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期看護の考え方を理解する 2. 慢性期にある人の特徴、必要な看護援助を理解する 3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護を理解する 4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護を理解する 5. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護を理解する 6. 慢性の造血機能障害・生体防御機能の障害・運動機能障害をもつ患者の看護を理解する 7. 化学療養・放射線療法を受ける患者の看護を理解する 											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助</td> <td>9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護</td> <td>11. 化学療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護</td> <td>放射線療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護</td> <td>12～14. 看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>		1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護	3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護	4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護	5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開		15. 終講試験
1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護										
3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護										
4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護										
5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開										
	15. 終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 慢性期看護論 ヌーベルヒロカワ <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院 											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上				
授業科目：成人看護学VI (経過別看護・ターミナル期)	単位(時間)：1単位(30時間)				
授業担当：遠藤、猪野 他	開講時期：2年次 後期				
<p>科目の概要</p> <p>ターミナルケアとは身体的な健康レベルが低くなって、非可逆的な状態となり、死を迎える時期に提供されるケアをさしている。そこで提供されるケアの第一義的な目的は症状の緩和と患者の視点からみた QOL の改善である。患者のおかれている状況によって目標は異なり、その患者に最も適切なケアを提供するために必要な看護援助について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>ターミナル期にある患者及び家族を理解し、苦痛の緩和、QOL の改善、日常生活を支える看護援助について理解する。</p>					
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ターミナルケア・緩和ケアの考え方を理解する 2. ターミナル期にある人とその家族の特徴、必要な看護援助を理解する 3. 症状メカニズムとそのマネジメントを理解する 4. コミュニケーション技法、心理的支援の方法について理解する 					
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場 死をめぐる倫理的課題</td> <td>4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法</td> </tr> <tr> <td>3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助</td> <td>6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法 7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験</td> </tr> </table>		1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場 死をめぐる倫理的課題	4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法	3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助	6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法 7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験
1～2. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場 死をめぐる倫理的課題	4～5. 症状メカニズムとそのマネジメント 薬剤の活用と副作用への対処方法				
3. ターミナル期にある人とその家族の 特徴と理解 ターミナル期にある人とその家族 への看護援助	6. コミュニケーション技術と技法 心理的支援の方法 7. 死後の処置 8～14. 看護過程の展開 15. 終講試験				
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 					
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する 					
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーベルヒロカワ 					

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上														
授業科目： 老年看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）： 1単位（30時間）														
授業担当： 大槻 解子	開講時期： 1年次 後期														
<p>科目の概要</p> <p>老年看護の目的を、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクを最小限とし、可能性を引き出し、その人が望む自律的な生き方の実現と安らかな死に貢献することと考える。概論では高齢者と高齢者を取り巻く環境、老年看護の目的を多方面から理解するために、老年期の発達の特徴、発達課題、健康障害要因、統計的動向、医療の現状などについて学ぶ。また、老年看護の目的及び看護活動の特徴について高齢者の健康レベルの状況、家族関係、生活環境、ヘルスケアシステムの視点から理解する。</p> <p>目的</p> <p>老年看護の対象の理解と老年看護の目的及び活動内容を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老いを生きる高齢者の特徴を心身社会面から理解する 2. 高齢者の健康問題の特性を理解する 3. 高齢者の自立と権利を守るための社会保障制度、地域資源について理解する 4. 老年看護の役割と概要について理解する 															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老いるということ</td> <td>9. 高齢者の権利擁護</td> </tr> <tr> <td>2. 老いを生きるということ</td> <td>10. 権利擁護のための制度</td> </tr> <tr> <td>3. 超高齢社会の現況</td> <td>11. 老年看護の役割</td> </tr> <tr> <td>4. 5. 高齢者体験</td> <td>12. 老年看護における理論・概念の活用</td> </tr> <tr> <td>6. 高齢社会における保健医療福祉の動向</td> <td>13. 高齢者とヘルスプロモーション</td> </tr> <tr> <td>7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ</td> <td>14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動</td> <td>15. まとめ 終講試験</td> </tr> </table>		1. 老いるということ	9. 高齢者の権利擁護	2. 老いを生きるということ	10. 権利擁護のための制度	3. 超高齢社会の現況	11. 老年看護の役割	4. 5. 高齢者体験	12. 老年看護における理論・概念の活用	6. 高齢社会における保健医療福祉の動向	13. 高齢者とヘルスプロモーション	7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ	14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	15. まとめ 終講試験
1. 老いるということ	9. 高齢者の権利擁護														
2. 老いを生きるということ	10. 権利擁護のための制度														
3. 超高齢社会の現況	11. 老年看護の役割														
4. 5. 高齢者体験	12. 老年看護における理論・概念の活用														
6. 高齢社会における保健医療福祉の動向	13. 高齢者とヘルスプロモーション														
7. 介護保険制度、高齢者医療のしくみ	14. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護														
8. 高齢者を支える多職種連携と看護活動	15. まとめ 終講試験														
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者に対する関心と、敬いの気持ちについて学習を通して養う 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 老いるとはどういうことか</td> <td>講談社+α文庫</td> </tr> <tr> <td>2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化</td> <td>中公新書</td> </tr> </table> <p>DVD 開講の際に提示</p>		1. 老年看護学	医学書院	1. 老いるとはどういうことか	講談社+α文庫	2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化	中公新書								
1. 老年看護学	医学書院														
1. 老いるとはどういうことか	講談社+α文庫														
2. 老いはこうしてつくられる—こころとからだの加齢変化	中公新書														

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上														
授業科目：老年看護学Ⅱ (高齢者の生活を整える看護)	単位(時間)： 1単位(30時間)														
授業担当：富永信子、佐野桂太郎、渡邊まどか	開講時期： 1年次 後期														
<p>科目の概要</p> <p>高齢者は人生の集大成として、老年期を自らの価値観と生活環境に応じた生活を送っている。老年看護の視点は、様々な健康レベルの高齢者と家族のニーズに基づいた自立した生活への支援を行うことである。ICF(国際生活機能分類)モデルを基本に看護を考える。高齢者の日常生活を整える援助に必要なアセスメントと看護ケアについて理解し、心身の老化によるリスクと活動性の低下を予防するための生活環境を整える知識・技術を身につける。</p> <p>目的</p> <p>高齢者の日常生活の自立にむけた援助の必要性と援助方法を理解する</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活の自立にむけた援助の必要性を理解する 2. 日常生活動作の評価と援助の実際を理解する 3. 老化に伴うリスクと援助方法を理解する 4. 健康な生活を整えるための援助方法を理解する 															
<p>学習概要(授業計画)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 日常生活を支える基本的活動</td> <td style="width: 50%; border: none;">10. セクシュアリティ・社会参加</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 3. 転倒のアセスメントと看護</td> <td style="border: none;">11. 認知症とは</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 食事・食生活</td> <td style="border: none;">12. 認知症の病態・診断・症状・予防</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 排泄</td> <td style="border: none;">13. 認知機能・生活機能の評価</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. 清潔</td> <td style="border: none;">14. 認知症の看護</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 高齢者と生活リズム</td> <td style="border: none;">15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. 9. コミュニケーション</td> <td></td> </tr> </table>		1. 日常生活を支える基本的活動	10. セクシュアリティ・社会参加	2. 3. 転倒のアセスメントと看護	11. 認知症とは	4. 食事・食生活	12. 認知症の病態・診断・症状・予防	5. 排泄	13. 認知機能・生活機能の評価	6. 清潔	14. 認知症の看護	7. 高齢者と生活リズム	15. 終講試験	8. 9. コミュニケーション	
1. 日常生活を支える基本的活動	10. セクシュアリティ・社会参加														
2. 3. 転倒のアセスメントと看護	11. 認知症とは														
4. 食事・食生活	12. 認知症の病態・診断・症状・予防														
5. 排泄	13. 認知機能・生活機能の評価														
6. 清潔	14. 認知症の看護														
7. 高齢者と生活リズム	15. 終講試験														
8. 9. コミュニケーション															
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学で学習した日常生活の援助技術を基に、援助技術を深める 															
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 															
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学 医学書院 <p>参考図書 開講の際に提示</p> <p>DVD 開講の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上																
授業科目： 老年看護学Ⅲ (治療を必要とする高齢者の看護)	単位(時間)： 1単位(30時間)																
授業担当： 本村 美和	開講時期： 2年次 前期																
<p>科目の概要</p> <p>高齢者は老化に伴い健康障害を起しやすくなり、健康障害により日常生活の自立が困難な状況に陥りやすい傾向にある。そのため、老年看護は高齢者の健康状態を把握するためのより適切な知識・技術が必要である。高齢者の心身機能の特徴、疾患や検査、手術療法や薬物療法などの知識をもとに、高齢者の健康問題をアセスメントできる力を身につける必要がある。高齢者のアセスメントに必要な観察技術を用いて、高齢者に起こりやすい健康上の問題や症状の理解を深め在宅看護学へつなげていく。</p> <p>目的</p> <p>高齢者の健康障害の特徴を理解し、ヘルスアセスメントの目的、方法が理解できる</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化に伴う高齢者の生理的特徴と健康障害につながる症状を理解し、それらの看護の具体的な援助方法を理解する 2. 高齢者の特徴をふまえたフィジカルアセスメントの目的、方法について理解する 																	
<p>学習概要(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本</td> <td>8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症</td> </tr> <tr> <td>2. 身体の加齢変化とアセスメント</td> <td>9. 症候のアセスメントと看護⑤ 腰背痛、やせ、手足のしびれ</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者のフィジカルアセスメント</td> <td>10. 検査を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 栄養評価・検査</td> <td>11. 薬物療法を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒</td> <td>12. 手術療法を受ける高齢者の看護.</td> </tr> <tr> <td>6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫</td> <td>13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td>7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン・テア</td> <td>14. 入院治療を受ける高齢者の看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本	8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症	2. 身体の加齢変化とアセスメント	9. 症候のアセスメントと看護⑤ 腰背痛、やせ、手足のしびれ	3. 高齢者のフィジカルアセスメント	10. 検査を受ける高齢者の看護	4. 栄養評価・検査	11. 薬物療法を受ける高齢者の看護	5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒	12. 手術療法を受ける高齢者の看護.	6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫	13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン・テア	14. 入院治療を受ける高齢者の看護		15. まとめ・終講試験
1. 高齢者のヘルスアセスメントの基本	8. 症候のアセスメントと看護④ 意識障害、せん妄、熱中症																
2. 身体の加齢変化とアセスメント	9. 症候のアセスメントと看護⑤ 腰背痛、やせ、手足のしびれ																
3. 高齢者のフィジカルアセスメント	10. 検査を受ける高齢者の看護																
4. 栄養評価・検査	11. 薬物療法を受ける高齢者の看護																
5. 症候のアセスメントと看護① 発熱、痛み、掻痒	12. 手術療法を受ける高齢者の看護.																
6. 症候のアセスメントと看護② 脱水、嘔吐、浮腫	13. リハビリテーションを受ける高齢者の看護																
7. 症候のアセスメントと看護③ 倦怠感、褥瘡・スキン・テア	14. 入院治療を受ける高齢者の看護																
	15. まとめ・終講試験																
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術をもとに演習室で練習を積極的に行い、より適切な技術を身につける 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学 医学書院 2. 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 <p>参考図書・DVD 開講時に提示</p>																	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目： 老年看護学Ⅳ（看護過程）	単位（時間）： 1単位（30時間）										
授業担当： 山口／後藤／椎谷	開講時期： 2年次 後期										
<p>科目の概要</p> <p>心身機能の老化に伴い高齢者におこりやすい疾患の病態・検査・治療・処置について理解し、さらに高齢者の看護について理解する。臨床病態学で学習した病態や診断・治療に関する知識をもとに、高齢者の代表的な疾患に関する観察、特徴的な経過・症状、治療に伴う援助、苦痛の緩和、予防方法などについて学習する。老年看護の理念、特徴を踏まえた援助の実際を、事例の看護過程演習を行い理解する。</p> <p>目的</p> <p>高齢者に起こりやすい疾患と、健康障害時の看護を理解する</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者におこりやすい健康障害の経過、症状、治療方法について理解する 2. 健康障害時の高齢者の心身の特徴を理解する 3. 高齢者の健康障害時の看護を事例の看護過程の展開を通して理解を深める 											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1. 高齢者の看護過程の考え方</td> <td>10～11. エンドオブライフケア</td> </tr> <tr> <td>2～4. 運動器系疾患の看護</td> <td>12～13. フットケア</td> </tr> <tr> <td>5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護</td> <td>14. 事例発表</td> </tr> <tr> <td>7. 循環器系疾患の看護</td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> <tr> <td>8～9. 精神・神経系疾患の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1. 高齢者の看護過程の考え方	10～11. エンドオブライフケア	2～4. 運動器系疾患の看護	12～13. フットケア	5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護	14. 事例発表	7. 循環器系疾患の看護	15. まとめ・終講試験	8～9. 精神・神経系疾患の看護	
1. 高齢者の看護過程の考え方	10～11. エンドオブライフケア										
2～4. 運動器系疾患の看護	12～13. フットケア										
5～6. 感染症・呼吸器系疾患の看護	14. 事例発表										
7. 循環器系疾患の看護	15. まとめ・終講試験										
8～9. 精神・神経系疾患の看護											
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例検討は、余暇時間を利用して積極的に取り組む 											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 											
<p>使用テキスト</p> <table> <tr> <td>1. 老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 老年看護学 病態・疾患論</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>VTR・DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護のためのアセスメント事例集 大腿骨頸部骨折患者の看護事例 2. その他開講の際に提示 		1. 老年看護学	医学書院	2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院						
1. 老年看護学	医学書院										
2. 老年看護学 病態・疾患論	医学書院										

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目：小児看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：猪野祐加子、海野潔美、横山マリ子	開講時期：1年次 後期												
科目の概要 少子高齢化が進む現代社会の中で、これからの時代を担う子どもが健やかに育つために、看護は重要な役割を担っている。子どもは健全な環境の下、養育と教育により育まれる。このため、小児看護学概論では、小児と小児を取り巻く環境や社会問題、小児看護の特殊性を理解するために、小児医療の変遷、子どもの人権を擁護するための法律、発達課題、成長・発達を促す看護について学ぶ。また、小児看護特有の視点である、養育環境の整え方、および子どもと養育者（家族）を一つの単位として考え、両者を小児看護の対象として援助を行うことの必要性についても理解する。													
目的 小児の各発達段階に応じた成長・発達、健康、家族、養育・教育、看護について学習し、小児の健やかな成長・発達を促すための看護師の役割と援助方法について理解する													
学習の到達目標 1. 小児医療・小児看護の変遷を理解する 2. 子どもの人権について学び、小児看護の特性を理解する 3. 子どもの成長・発達の特徴と、援助方法を理解する 4. 小児各期における健康の保持・増進のために必要な看護について理解する													
学習概要（授業計画） <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 小児医療、小児看護の変遷</td> <td style="width: 50%;">6. 新生児期の看護</td> </tr> <tr> <td>2. 子どもの人権と看護</td> <td>7～8. 乳児期の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律</td> <td>9～10. 幼児期の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 子どもと家族をとりまく社会の変化</td> <td>11～12. 学童期の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 子どもの成長・発達</td> <td>13～14. 思春期の看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 小児医療、小児看護の変遷	6. 新生児期の看護	2. 子どもの人権と看護	7～8. 乳児期の看護	3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律	9～10. 幼児期の看護	4. 子どもと家族をとりまく社会の変化	11～12. 学童期の看護	5. 子どもの成長・発達	13～14. 思春期の看護		15. まとめ／終講試験
1. 小児医療、小児看護の変遷	6. 新生児期の看護												
2. 子どもの人権と看護	7～8. 乳児期の看護												
3. 児童福祉法、母子健康法、児童虐待の防止等に関する法律	9～10. 幼児期の看護												
4. 子どもと家族をとりまく社会の変化	11～12. 学童期の看護												
5. 子どもの成長・発達	13～14. 思春期の看護												
	15. まとめ／終講試験												
学習上の注意 1. 小児の人権と法律について既習科目と関連づけ学習する													
成績評価の方法 ・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する													
使用テキスト 1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 医学書院 2. 小児看護技術 南江堂 参考図書 1. 系統看護学講座 社会福祉 第7章 児童福祉法、母子保健施策 2. 系統看護学講座 公衆衛生 第7章 児童福祉法、母子保健法 3. 系統看護学講座 母性看護学 2 DVD 1. 子ども虐待 全2巻 京都科学 2. 子どもたちは未来 全3巻 京都科学 その他開講の際に提示													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：小児看護学Ⅱ (健康障害をもつ小児の生活と看護)	単位(時間)：1単位(30時間)
授業担当：海野、猪野、宮内	開講時期：2年次 前期
科目の概要 子どもが病気や障害をもつことは、家族にも心身社会面で多大な影響を与える。また、現代の医療では完治する望みがなく、長期にわたる療養の後、死を迎える子どももいる。健康障害や治療、療養生活が子どもと家族に及ぼすストレスと、そのストレスを軽減させる援助方法を理解し、看護実践に役立てる。	
目的 健康障害を持つ子どもと家族の苦痛やストレスを軽減させ、健康の回復を促進、あるいは穏やかな死を迎えるための援助方法を理解する	
学習の到達目標 1. 健康障害や入院生活が子どもと家族に与えるストレスと、看護を理解する 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する 3. 基本的な小児看護技術について理解する	
学習概要(授業計画) 1. 病気や障害が子どもと家族に与える影響 2. 入院中の子どもと家族の看護 3. 外来における子どもと家族の看護 4. 在宅療養中の子どもと家族の看護 5. 災害時の子どもと家族の看護 6. 慢性期にある子どもと家族の看護 7. 急性期にある子どもと家族の看護 8. 周手術期の子どもと家族の看護 9. 終末期の子どもと家族の看護 10. 障害のある子どもと家族の看護 11. 検査・処置を受ける子どもの看護 12. まとめ 終講試験	
学習上の注意 1. 本講義の学びが実習の基礎となるので、ノート・プリント類はきちんと整理する 2. 小児の病気や社会問題に関する新聞記事をスクラップする習慣をつける 3. 基本的な小児看護技術について理解する	
成績評価の方法 ・終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する	
使用テキスト 1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 3. 小児看護技術 南江堂 参考図書 1. 系統看護学講座 母性看護学2 2. 系統看護学講座 救急看護 医学書院 3. 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 DVD 1. 子どもの病気と看護技術 全3巻 京都科学 2. 小児のフィジカルアセスメント 全3巻 京都科学 3. ダウン症児のめざめ 京都科学	
その他 開講の際に提示	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上																
授業科目：小児看護学Ⅲ（病児の看護）	単位（時間）：1単位（30時間）																
授業担当：佐藤 麗子	開講時期：2年次																
<p>科目の概要</p> <p>小児には、小児期特有の疾病や症状の現れ方があり、検査や治療においても成人・老年とは異なった配慮や看護技術を要する。また、入院期間を通して養育者(家族)との関わりや生活指導など、家族的な支援が不可欠である。このため、小児の成長・発達段階に応じた看護を展開し、健康の回復を促進するために、病児及び養育者にむけた看護のアセスメントの視点と援助に必要な知識・技術を身につける。</p> <p>目的</p> <p>病児及び養育者にむけた看護のアセスメントの視点と、援助に必要な知識・技術を理解する</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態に応じた子ども看護を理解する 2. 症状別看護及びヘルスアセスメントの実際を理解する 																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 熱と機嫌</td> <td>9. アレルギー疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>2. 呼吸・循環系の症状</td> <td>10. 感染症を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 消化器症状</td> <td>11. 血液疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 脱水・浮腫</td> <td>12. 悪性新生物を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 出血・貧血</td> <td>13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>6. けいれん・意識障害・黄疸</td> <td>14. 運動器に疾患を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>7. 循環器疾患を持つ小児の看護</td> <td>15. まとめ 終講試験</td> </tr> <tr> <td>8. 内分泌疾患を持つ小児の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1. 熱と機嫌	9. アレルギー疾患を持つ小児の看護	2. 呼吸・循環系の症状	10. 感染症を持つ小児の看護	3. 消化器症状	11. 血液疾患を持つ小児の看護	4. 脱水・浮腫	12. 悪性新生物を持つ小児の看護	5. 出血・貧血	13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護	6. けいれん・意識障害・黄疸	14. 運動器に疾患を持つ小児の看護	7. 循環器疾患を持つ小児の看護	15. まとめ 終講試験	8. 内分泌疾患を持つ小児の看護	
1. 熱と機嫌	9. アレルギー疾患を持つ小児の看護																
2. 呼吸・循環系の症状	10. 感染症を持つ小児の看護																
3. 消化器症状	11. 血液疾患を持つ小児の看護																
4. 脱水・浮腫	12. 悪性新生物を持つ小児の看護																
5. 出血・貧血	13. 腎・泌尿器疾患を持つ小児の看護																
6. けいれん・意識障害・黄疸	14. 運動器に疾患を持つ小児の看護																
7. 循環器疾患を持つ小児の看護	15. まとめ 終講試験																
8. 内分泌疾患を持つ小児の看護																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントはゴードンの11の機能的健康パターンを用いて行う 2. 小児看護学Ⅰ、Ⅱの内容を事前に復習する 																	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する 																	
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統看護学講座 小児看護学①</td> <td>小児看護学概論</td> <td>小児臨床看護総論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 系統看護学講座 小児看護学②</td> <td>小児臨床看護各論</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3. 小児看護技術</td> <td></td> <td></td> <td>南江堂</td> </tr> </table> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 母性看護学2 2. 系統看護学講座 公衆衛生 <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの病気と看護技術 全3巻 京都化学 2. 子ども虐待 全2巻 京都科学 		1. 系統看護学講座 小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院	2. 系統看護学講座 小児看護学②	小児臨床看護各論		医学書院	3. 小児看護技術			南江堂				
1. 系統看護学講座 小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院														
2. 系統看護学講座 小児看護学②	小児臨床看護各論		医学書院														
3. 小児看護技術			南江堂														

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目：小児看護学Ⅳ（看護過程）	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：宮内和代	開講時期：2年次 後期												
<p>科目の概要</p> <p>これまでに学んだ小児看護における看護過程の基本的な考え方をもとに、それぞれの発達段階に応じた看護について学びを深める。臨床での看護実践につなげられるように乳児期・幼児期・学童期と発達段階の異なる3事例について演習を行い、具体的な看護の展開方法を理解する。</p> <p>目的</p> <p>健康障害のある小児への看護の展開と、小児看護の特殊性について理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある幼児と学童の看護上の問題を適確に判断し、看護計画を立案する 2. 3事例をもとに、発達段階や安全に配慮した具体的な看護計画を展開することで、小児看護の特殊性を理解する 													
<p>学習概要</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 事例紹介（乳児期・幼児期・学童期）</td> <td>7. 全体像のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2. ゴードンの看護診断について 小児期の特徴</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> <tr> <td colspan="2">3. 情報収集（小児期の基本情報 小児の成長・発達評価）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">4. アセスメント</td> </tr> <tr> <td colspan="2">5. 看護計画</td> </tr> <tr> <td colspan="2">6. 評価</td> </tr> </table>		1. 事例紹介（乳児期・幼児期・学童期）	7. 全体像のまとめ	2. ゴードンの看護診断について 小児期の特徴	8. 終講試験	3. 情報収集（小児期の基本情報 小児の成長・発達評価）		4. アセスメント		5. 看護計画		6. 評価	
1. 事例紹介（乳児期・幼児期・学童期）	7. 全体像のまとめ												
2. ゴードンの看護診断について 小児期の特徴	8. 終講試験												
3. 情報収集（小児期の基本情報 小児の成長・発達評価）													
4. アセスメント													
5. 看護計画													
6. 評価													
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術（看護過程）を復習して臨むこと 2. 2事例演習をする 													
<p>成績評価の方法</p> <p>・終講試験、課題レポート（事例）、出席状況、授業態度、演習態度を総合して評価する</p>													
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3. 小児看護技術</td> <td>南江堂</td> </tr> </table>		1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院	2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論	医学書院	3. 小児看護技術	南江堂						
1. 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院												
2. 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論	医学書院												
3. 小児看護技術	南江堂												
<p>参考図書 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社</p>													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：母性看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：高橋 芳子	開講時期：1年次 後期
授業概要・目的 概論では母性看護学がどのような考え方に基づいて形成されたのかを、主要な概念・理論、そして、日本や諸外国の母子や家族を取り巻く状況から、なぜそのような事象背景に至ったのかを理解する。また、今日の周産期ケアが時代の変化に対応した母子の健康生活と法律制度の意味するところと周産期医療における連携体制について理解する。母性看護学は生涯を通じた性と生殖の健康の維持・増進・疾病予防を基盤として、次世代の育成を目指すことを役割に、男女両性の学びを通して、異なる性が互いに刺激し、尊重することの重要性を実感できる科目としたい。また、性と生殖という視点を通して自分のからだの構造と機能の理解、生命尊重、生命誕生の見方、価値観・倫理観を形成することに影響すると考える。周産期ケアのエビデンスを準拠し、「正常」「異常」という区別ではない、多様性(ダイバーシティ)の理解と声なき少数派(マイノリティ)の女性・家族にも寄り添い、健康を支えるために、母性看護学と周産期の基盤となる考え方を理解する。	
授業の到達目標 1. 母性と周産期の定義と看護について理解する 2. 周産期に役立つ理論と根拠に基づく看護を理解する 3. 母子保健に関する法律・制度、母子保健統計について理解する 4. 女性の選択と決定支援について理解する 5. 周産期に関連するセクシュアリティについて理解する 6. 周産期にあるマイノリティへのケアと想定外のストレス状況へのケアについて理解する	
学習概要（授業計画） 1～2.母性看護学と周産期 3～4.周産期看護への看護理論の適用 5.母性看護学と法律と施策 6.母性看護学と理論 7～9.女性のライフステージと健康問題 10～14.周産期に関連するセクシュアリティ 15.終講試験／まとめ	
学習上の注意 この授業は母性看護学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの基礎になる内容である。新聞やニュースなどから女性の健康に関する記事に興味関心をもつこと。自分の意見を積極的に述べ、他者に倫理的に説明できる能力を養う努力をすること。	
成績評価の方法 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する	
使用テキスト 1. 母性看護学Ⅰ 2. 母性看護学Ⅱ 医歯薬出版株式会社	
参考文献 1. 国民衛生の動向 厚生統計協会	
VTR・DVD 1. うまれるよ 京都科学	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：助産師5年以上
授業科目：母性看護学Ⅱ（性と生殖）	単位（時間）：1単位（15時間）
授業担当：浅野智恵	開講時期：2年次 前期
<p>科目概要：人間の性としくみについて学ぶ。</p> <p>人間の性といのちをめぐる問題および女性の健康と倫理・看護について理解する。</p> <p>目的：人間の性と生殖，母性看護の対象となる周産期の女性の権利と女性の健康に関する倫理的問題と看護の提供について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアリティの概念・意義・特徴を知りセクシュアリティの発達と健康課題について理解する 2. 性と生殖に関する身体の機構について理解する 3. 母性看護における倫理的問題と看護について理解する 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2 セクシュアリティ 3～5 妊娠期の身体のしくみ 6～7 遺伝と母性看護 8 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の性と生殖をどう考えるか、性の多様性・性をめぐる諸問題を理解すると同時に、性に対する態度・価値観を認知する 2. 女性生殖器の形態・構造，男性生殖器の形態・構造を理解し、人間の性反応について身体的な側面から科学的に認知する 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 母性看護学① 母性看護学概論 メヂカルフレンド社 2. 新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社 	
<p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルス 南江堂 2. 遺伝カウンセリングマニュアル 改訂版第2版 南江堂 3. セクシュアリティの看護 メヂカルフレンド社 	
<p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の継続 2. 女性生殖器・男性生殖器 	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：助産師5年以上
授業科目：母性看護学Ⅲ（マタニティサイクル）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：菊池亜衣、関根梓	開講時期：2年次 前期
授業概要 母子の健康レベルが仮に正常な状態であったとしても、健康障害へ移行しやすいことを意識して母子の健康状態をアセスメントする必要性を学ぶ。そこで、「正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児」と「健康障害を伴う妊婦・産婦・褥婦・新生児」を切り離さずに、正常な状態と健康障害の状態をマタニティサイクル各期のなかで母子の看護について理解する。	
目的 正常な経過を辿る妊婦・産婦・褥婦・新生児と健康障害を伴う妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解する。	
授業の到達目標 1. マタニティサイクルにおけるチーム医療・看護職の役割について理解できる 2. 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 3. 分娩期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 4. 産褥期の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる 5. 新生児の身体のしくみと疾患の理解と母子の看護について理解できる	
学習概要（授業計画） 1～2.マタニティサイクルにおける母子の健康 3.分娩期の身体のしくみと疾患の理解 4.産褥期の身体のしくみと疾患の理解 5.新生児の身体のしくみと疾患の理解 6.心理社会的な変化、家族の変化 7～8.妊娠期における母子の看護 9～10.分娩期における母子の看護 11～12.産褥期・育児期における母子の看護 13～14.新生児の看護 15.終講試験	
学習上の注意 産む性を選択した妊婦・産婦・褥婦と新生児に関する看護内容です。 母性看護学実習に役立つ方法として、自分でつくる母性看護学実習のノートづくりに挑戦すること	
成績評価の方法 終講試験、課題レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する	
使用テキスト 1. 新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレド社	
参考文献 1. 周産期ナーシング 2. ウェルネス診断に基づく母性看護過程 3. パーフェクト看護技術マニュアル 4. クイックスター・母性看護学	
VTR・DVD 目でみる母性看護、目でみる新生児看護	
医学映像教育センター	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：助産師5年以上
授業科目：母性看護学Ⅳ（看護過程）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：瓜生裕子	開講時期：2年次 後期
授業概要・目的 母性看護学で学んだ基礎的な知識を、実際の看護展開に活用できるよう、看護過程の事例展開を複数行い、母性看護学領域に特有な思考過程を習得する。母性看護学領域に特有な技術演習を習得できる。	
学習概要（授業計画） 1～2.疑似妊婦体験（演習） 3.産婦・褥婦のアセスメントおよび必要な援助の演習 4～5.新生児のアセスメントおよび必要な援助の演習 6～9.新生児の日常生活援助技術の演習 10～14.母性看護過程展開 15.終講試験	
授業の到達目標 1. 母性看護学で学んだ看護理論、他科目との関連をとらえて看護の実際を考える 2. 母子の健康状態をアセスメントし、看護援助の計画・立案をする 3. 母性看護学の対象、援助の特徴をふまえて看護技術を習得する 4. 母性看護学実習を行う上での必要な看護実践能力を養う	
学習上の注意 演習が主体であるため、事前準備学習を行い、授業に参加する	
成績評価の方法 沐浴技術試験、母性看護技術(DVD 聴講後)レポート、出席状況、授業態度を総合して評価する	
使用テキスト 1. 母性看護学Ⅰ 医歯薬出版 2. 母性看護学Ⅱ 医歯薬出版	
参考文献 1. 母性看護技術 メヂカルフレンド社 2. 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 3. ウェルネス診断に基づく母性看護過程展開 医歯薬社 4. ナーシンググラフィカ 母性看護学 ② メディカ出版 5. ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社	
VTR・DVD 1. 目でみる母性看護学全6巻 京都科学 2. あなたにもできる母乳育児支援全2巻 京都科学	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上																					
授業科目： 精神看護学Ⅰ（概論）	単位（時間）： 1単位（30時間）																					
授業担当： 後藤 文子／人見 朗	開講時期： 1年次 後期																					
<p>科目の概要</p> <p>精神看護学は、心の健康に関する特徴を、身体的、精神的、社会的側面から捉え、精神的健康の増進や向上を図るために必要な援助技術の修得と、増大するストレス社会の中で、精神看護の果たす役割を理解するとともに、人間の権利や倫理について深く学習する専門科目である。概論では、人々の健康の保持・増進や、疾病の予防を図ること、また精神に障害を持つ人に対し看護を実践していくための、基本的な知識や考え方を学習する。また、ライフサイクルや、人々の成長・発達の各期における特徴を知り、対象を理解する上での基本的知識を身につける。</p> <p>目的</p> <p>精神看護学における対象を、身体的・精神的・社会的に捉え、心の健康、不健康および、心の病気に対する知識を深め、看護の役割を認識する。</p>																						
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の発達や心の健康を守るしくみを理解し、精神の健康の保持・増進や、疾病の予防を図るために必要な、看護の基本的知識を修得する 2. 精神科医療や各法律を知り、人権擁護の重要性を考え、社会参加への支援を理解する 3. ライフサイクルや、人々の成長発達の各期における、代表的な精神の健康問題について理解を深め、援助の視点を見出す能力を養う 																						
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 「精神看護」の分野</td> <td>8.</td> <td>危機理論の概要.</td> </tr> <tr> <td>2. 脳の構造と認知機能</td> <td>9.</td> <td>精神(心)の危機状況と精神保健</td> </tr> <tr> <td>3. 精神(心)の構造とはたらき</td> <td>10～11.</td> <td>現代社会と精神(心)の健康</td> </tr> <tr> <td>4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方</td> <td>12～14</td> <td>地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス</td> </tr> <tr> <td>6. 家族と精神(心)の健康</td> <td></td> <td>現代社会における精神保健の主な問題</td> </tr> <tr> <td>7. 暮らしの場と精神(心)の健康</td> <td></td> <td>精神保健医療福祉の歴史と現在の姿</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15.</td> <td>まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 「精神看護」の分野	8.	危機理論の概要.	2. 脳の構造と認知機能	9.	精神(心)の危機状況と精神保健	3. 精神(心)の構造とはたらき	10～11.	現代社会と精神(心)の健康	4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方	12～14	地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス	6. 家族と精神(心)の健康		現代社会における精神保健の主な問題	7. 暮らしの場と精神(心)の健康		精神保健医療福祉の歴史と現在の姿		15.	まとめ／終講試験
1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 「精神看護」の分野	8.	危機理論の概要.																				
2. 脳の構造と認知機能	9.	精神(心)の危機状況と精神保健																				
3. 精神(心)の構造とはたらき	10～11.	現代社会と精神(心)の健康																				
4～5. 精神(心)の発達に関する主要な考え方	12～14	地域精神保健(コミュニティ・メンタルヘルス																				
6. 家族と精神(心)の健康		現代社会における精神保健の主な問題																				
7. 暮らしの場と精神(心)の健康		精神保健医療福祉の歴史と現在の姿																				
	15.	まとめ／終講試験																				
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当講師には積極的に質問し、学習への理解を深める。 																						
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 																						
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学Ⅰ 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>																						

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上																		
授業科目： 精神看護学Ⅱ（援助論1）	単位（時間）： 1単位（30時間）																		
授業担当： 高橋・加藤・綿引・後藤	開講時期： 2年次 前期																		
<p>科目の概要</p> <p>精神障害者に対する医療・看護に際しては、疾患を抱えた人と、疾患そのものの両面を総合的に理解することが重要である。援助論Ⅰでは、精神障害の概念を理解し、看護の基本的姿勢及び、患者を支える家族への支援方法を学ぶ。適切な援助を実践するために必要な知識として、症状に応じた看護および、主な検査や治療時の援助方法を学び、さらに心身関連の視点から、リエゾン看護師の役割について学ぶ。又、欧米諸国をモデルにした医療観察法の施行に伴い、法的な問題と精神的な問題を併せ持つ人々を対象とした医療及び看護について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神の障害に対する理解を深め、症状や状況に応じた看護を実践するために必要な、基礎的能力を養う。</p>																			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神障害者への理解を深め、人権尊重の態度を身に付ける 2.精神障害者と、その家族への支援方法を理解する 3.症状に応じた看護を理解する 4.各検査・治療に必要な援助を理解する 5.リエゾン看護師の役割を理解する 6.司法精神医療と司法精神看護について理解する 																			
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 精神障害者の理解</td> <td>9～11.</td> <td>診察・検査に伴う看護</td> </tr> <tr> <td>2～4. 精神障害をもつ人との関わり方</td> <td></td> <td>治療に伴う看護</td> </tr> <tr> <td>5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援</td> <td>12.</td> <td>リエゾン精神看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13.</td> <td>司法精神医学と看護</td> </tr> <tr> <td>6～8. 精神症状に対する看護</td> <td>14.</td> <td>災害時の精神保健</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15.</td> <td>まとめ／ 終講試験</td> </tr> </table>		1. 精神障害者の理解	9～11.	診察・検査に伴う看護	2～4. 精神障害をもつ人との関わり方		治療に伴う看護	5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援	12.	リエゾン精神看護		13.	司法精神医学と看護	6～8. 精神症状に対する看護	14.	災害時の精神保健		15.	まとめ／ 終講試験
1. 精神障害者の理解	9～11.	診察・検査に伴う看護																	
2～4. 精神障害をもつ人との関わり方		治療に伴う看護																	
5. 精神障害をもつ人を介護する家族への支援	12.	リエゾン精神看護																	
	13.	司法精神医学と看護																	
6～8. 精神症状に対する看護	14.	災害時の精神保健																	
	15.	まとめ／ 終講試験																	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学習は十分行う。 2. 担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 																			
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 																			
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>																			

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：精神看護学Ⅲ（援助論2）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：池内 彰子	開講時期：2年次
<p>科目の概要</p> <p>精神障害者に対する医療・看護に際しては、疾患を抱えた人と、疾患そのものの両面を総合的に理解することが重要である。援助論2では、疾患に応じた看護の方法を理解する。また、適切な看護を提供する上では、患者-看護師間での信頼関係が重要である。よって、その構築に必要な治療的なコミュニケーション技術を学ぶとともに、看護場面の再構成法を学び、自己の傾向や看護観を認識し、自己の理解も深めていく。更に、精神医療において課題となっている、リハビリテーションの現状と精神障害をもつ人の地域生活支援の実際を学び、他職種との連携と看護の役割を考える。</p> <p>目的</p> <p>疾患に応じた看護の方法を学び、対象への適切な支援方法を理解する。 良好な援助関係を築くために必要な、コミュニケーション技術を習得する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 適切な精神看護の実践を行なうために、疾患に応じた看護援助を理解する 地域精神保健福祉の仕組みと精神障害をもつ人の地域生活支援の実際について理解する 対人関係における自己の傾向を認識し、コミュニケーション技術の発展につなげる 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～9. 精神障害者の看護 10～12. 地域精神保健福祉と社会参加 13～14. 精神障害をもつ人との関係の振り返り 15. まとめ／終講試験</p>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前・事後学習は十分行う。 担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <p>1. 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 参考図書 講義の際に提示 DVD 講義の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上				
授業科目：精神看護学Ⅳ（看護過程）	単位（時間）：1単位（15時間）				
授業担当：後藤文子	開講時期：2年次 後期				
<p>科目の概要</p> <p>オレム・アンダーウッドモデルを用いて、精神に障害を持つ人に対してのセルフケアの維持・向上を目的とした看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>精神に障害を持つ人に対して、セルフケアの維持・向上を目的とした、看護が展開できる基礎的能力を養う。</p>					
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報と収集方法を理解する 2. アセスメントの方法を理解する 3. 看護問題の導きかたを理解する 4. 看護目標と計画立案方法を理解する 5. 実施結果の評価方法を理解する 					
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標</td> <td>5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/</td> </tr> <tr> <td>2～4.看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）</td> <td>8. まとめ</td> </tr> </table>		1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標	5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/	2～4.看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）	8. まとめ
1. 看護師の役割・看護倫理 精神看護学の捉え方 精神看護学の目的・目標	5～7. 事例による看護過程の展開 個人ワーク 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/				
2～4.看護過程に基づいたセルフケア援助 情報収集/アセスメント/看護問題の 明確化/看護計画立案/評価（サマリー）	8. まとめ				
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学習をおこない、担当講師には積極的に質問し学習への理解を深める。 2. グループワークでは自己の意見をはっきり伝える。また、他者の意見を冷静に受け入れ、より良い援助を見出し、適切な計画が立案できるよう、メンバー間で協力しながら取り組む。 					
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 <p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 <p>参考図書 講義の際に提示</p> <p>DVD 講義の際に提示</p>					

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目：在宅看護論Ⅰ（概論）	単位（時間）：1単位（15時間）								
授業担当：上野富美江	開講時期：2年次 前期								
<p>科目の概要</p> <p>少子高齢化社会で社会における医療の役割が見直され、在宅看護へのニーズも大きく、看護活動の場が病院・診療所などの医療現場に限らず地域や施設などへ拡大している。在宅看護は地域看護の中で、対象及び家族にその時その場の状況に応じた援助を計画的に実践することが求められる。訪問看護は対象の生活の場に直接出向き、効率的に看護を実践することから、確かな技術と、対象の環境やニーズ等に応じて臨機応変に対応することも必要となる。さらに、対象との信頼関係のもと、より専門的な知識、技術と想像力が求められる。</p> <p>目的</p> <p>地域の公衆衛生に基付き、在宅ケアの在宅療養者の環境、在宅看護の変遷、特徴を学び、在宅看護の必要性和課題について理解する。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護中の在宅看護の位置づけ、関連性を理解する 2. 在宅看護の対象の特徴及び社会の動向から在宅看護の役割を理解する 3. 在宅看護、訪問看護の目的、役割を理解する 4. 在宅療養者の権利保障を理解し、在宅看護に求められている倫理感を養う 									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 在宅における医療、看護</td> <td>5. 在宅看護の特徴</td> </tr> <tr> <td>2. 在宅看護の歴史と変遷</td> <td>6. 訪問看護の活動</td> </tr> <tr> <td>3. 在宅療養者と家族</td> <td>7. 在宅看護の基本理念と展望</td> </tr> <tr> <td>4. 関係機関と社会資源</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 在宅における医療、看護	5. 在宅看護の特徴	2. 在宅看護の歴史と変遷	6. 訪問看護の活動	3. 在宅療養者と家族	7. 在宅看護の基本理念と展望	4. 関係機関と社会資源	8. 終講試験
1. 在宅における医療、看護	5. 在宅看護の特徴								
2. 在宅看護の歴史と変遷	6. 訪問看護の活動								
3. 在宅療養者と家族	7. 在宅看護の基本理念と展望								
4. 関係機関と社会資源	8. 終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、演習、実習と必要な知識及び技術を確実に身につけていくために、自己学習を行う。 2. 自身及び家族の生活の場である市町村の保健医療福祉の現状に関心を持ち、情報を集める。 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論－実践をことばに：ヌーヴェルヒロカワ <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会 <p>DVD 講義に際に提示</p>									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：在宅看護論Ⅱ（看護技術）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：五十嵐 まゆみ	開講時期：2年次
<p>科目の概要・目的</p> <p>実際の在宅看護を行うには、対象者の健康状態と治療処置内容、生活環境、家族の支援状況等を考慮し、サポートチームと連携しながら計画的に進められる。特に、訪問看護は施設内の看護と比較すると、判断力と応用力が求められることが多く、それに伴い対象の状況に応じた適切な技術の獲得が求められる。</p> <p>目的</p> <p>在宅療養者に必要な日常生活の援助技術及び特殊技術の目的、方法を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養することの意義と在宅療養者のニーズに応じた看護を理解する。 2. 在宅療養者の健康レベルと生活状態を考慮した看護の目的及び方法を理解する。 3. 日常生活を整える援助に必要な技術の基本を身につける。 4. 医療上の観察、処置を必要とする療養者への看護が理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養の意義 在宅でのコミュニケーション 2～5. 日常生活の援助技術 6. 受診と服薬 在宅リハビリ 7～14. 医療的ケアに関する技術 15. まとめ、終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅実習室での演習を中心に行う。 2. 自身の自宅での援助についても考える機会とする。 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論 ニューヴェルヒロカワ <p>参考文献 家族看護を基盤とした看護を在宅看護論 日本看護協会出版会</p> <p>DVD 開講の際に提示</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目：在宅看護論Ⅲ（看護過程）	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：上野富美江 他	開講時期：2年次 後期												
<p>科目の概要・目的</p> <p>在宅療養者は主に高齢者が多く、高齢者に起こりやすい病気やそれに伴う合併症、寝たきり状態、認知症等の状態になりやすい。また、長期療養を必要とする難病患者や精神病患者やがん患者への援助が多い。それらの疾患の理解と症状・状態別の看護を理解し、適切な援助を行うためには看護過程にそって展開を行う。さらに、具体的な援助技術を適用し、個々の在宅療養者及び家族への具体的な援助を理解する。</p> <p>目的</p> <p>在宅療養者の症状・状態別看護を理解し、訪問看護における看護過程の展開を理解する</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者個々の看護過程にそった展開方法を理解する 2. 高齢療養者の状態と看護過程の展開方法を理解する 3. 難病患者の在宅療養時の看護の在り方を理解する 4. 在宅ターミナルケアの実際について理解する 5. その他の障害を持つ人、家族への看護の実際を理解する 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法</td> <td>11. 精神障害者への在宅支援</td> </tr> <tr> <td>3. 在宅移行時の看護展開</td> <td>12～14 在宅のターミナルケア</td> </tr> <tr> <td>4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際</td> <td>15. まとめ、終講試験</td> </tr> <tr> <td>7. 感染症の療養者への看護の実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8～9. 難病療養への看護の実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 認知症療養者と家族への支援</td> <td></td> </tr> </table>		1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法	11. 精神障害者への在宅支援	3. 在宅移行時の看護展開	12～14 在宅のターミナルケア	4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際	15. まとめ、終講試験	7. 感染症の療養者への看護の実際		8～9. 難病療養への看護の実際		10. 認知症療養者と家族への支援	
1～2. 訪問看護における看護過程の展開方法	11. 精神障害者への在宅支援												
3. 在宅移行時の看護展開	12～14 在宅のターミナルケア												
4～6. 脳梗塞療養者への看護の実際	15. まとめ、終講試験												
7. 感染症の療養者への看護の実際													
8～9. 難病療養への看護の実際													
10. 認知症療養者と家族への支援													
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住み慣れた地域、家庭での療養を行うためには、地域住民としてどのような援助ができるかを家族と話し合う機会をもつ。 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護論 ニューヴェルヒロカワ <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>DVD 開講の際に提示</p>													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目：在宅看護論Ⅳ（地域看護）	単位（時間）：1単位（15時間）								
授業担当：内桶里子 他	開講時期：2年次 後期								
<p>科目の概要</p> <p>地域住民の健康保持、増進にむけた住民主体の、地域医療や在宅医療推進のための技術開発が、環境整備が国をあげて進められている。人間の健康的な生活への支援が看護の目的であり、看護師として病院以外の場での住民主体の看護の役割とグローバルな視点での理解することが望まれる。</p> <p>目的</p> <p>在宅で療養する人の環境である地域の視点で必要な看護を学び、プライマリーケア及びヘルスプロモーションの理念と保健医療福祉の連携、地域の保健福祉活動の実際を通して、その中で看護の役割を理解する。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と施設の関係が分かり、継続看護の必要性と方法を理解する 2. 地域の人々の健康問題と主な健康増進の施策を理解する 3. 地域看護に関わるチームケアと社会資源を理解する 4. 地域看護活動展開方法と住民へのサービス内容を理解する 									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論</td> <td>5. 学校保健と産業保健の保健活動</td> </tr> <tr> <td>2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法</td> <td>6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法</td> </tr> <tr> <td>3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律</td> <td>7. これからの地域看護と在宅看護</td> </tr> <tr> <td>4. 保健所と市町村保健センターの役割</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> </table>		1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論	5. 学校保健と産業保健の保健活動	2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法	6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法	3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律	7. これからの地域看護と在宅看護	4. 保健所と市町村保健センターの役割	8. 終講試験
1. 地域看護活動の理念 地域看護の理論	5. 学校保健と産業保健の保健活動								
2. 地域住民の保健活動 地域保健活動の展開方法	6. 継続看護の視点と活動 施設看護と在宅看護の関連 自立支援法								
3. 地域をとりまく保健医療福祉の施策と法律	7. これからの地域看護と在宅看護								
4. 保健所と市町村保健センターの役割	8. 終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の保健センターでの住民サービスについて関心を持ち、市報等を集める。 									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。 									
<p>使用テキスト</p> <p>参考文献 開講の際に提示</p> <p>DVD</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院シリーズ2巻 									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上																		
授業科目： 看護の統合と実践 I (チーム医療と看護管理)	単位(時間)： 1単位(15時間)																		
授業担当： 川又 光子	開講時期： 3年次 前期、後期																		
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護は保健医療福祉の連携によるチーム医療の中で行われている。看護管理は看護師が看護の役割を効果的に担うため、対象である患者が満足できる療養環境を提供するためにチームの全員が問題意識を持ち改善することを目指している。看護の統合と実践 I では医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護してのマネジメントができる基礎的能力を養う。</p>																			
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際が理解できる 2. 看護師が働き組織における、管理の必要性が理解できる 3. 看護基準・手順、マニュアルの活用について理解できる 4. 看護場面の安全管理、情報管理の正しいあり方が考えられる 																			
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際</td> <td>看護基準・手順の必要性と活用</td> </tr> <tr> <td>2. 病院の中でのチーム医療の実際</td> <td>病院組織の中での看護組織の役割</td> </tr> <tr> <td>3. 看護におけるマネジメント</td> <td>リーダーシップとメンバーシップ</td> </tr> <tr> <td>看護管理の定義</td> <td>キャリア形成への支援</td> </tr> <tr> <td>診療報酬と患者の権利</td> <td>5～6. 安全管理</td> </tr> <tr> <td>入院料と患者サービス</td> <td>7. 労務管理</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査の活用</td> <td>看護職の組織</td> </tr> <tr> <td>4. 組織とは</td> <td>8. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>チームナーシングとプライマリナーシング</td> <td></td> </tr> </table>		1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際	看護基準・手順の必要性と活用	2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割	3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ	看護管理の定義	キャリア形成への支援	診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理	入院料と患者サービス	7. 労務管理	患者満足度調査の活用	看護職の組織	4. 組織とは	8. 終講試験	チームナーシングとプライマリナーシング	
1. 保健医療福祉の連携の必要性と実際	看護基準・手順の必要性と活用																		
2. 病院の中でのチーム医療の実際	病院組織の中での看護組織の役割																		
3. 看護におけるマネジメント	リーダーシップとメンバーシップ																		
看護管理の定義	キャリア形成への支援																		
診療報酬と患者の権利	5～6. 安全管理																		
入院料と患者サービス	7. 労務管理																		
患者満足度調査の活用	看護職の組織																		
4. 組織とは	8. 終講試験																		
チームナーシングとプライマリナーシング																			
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の医療安全の学習をもとに、実習施設での安全管理について確認する 																			
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する 																			
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理・・・医学書院 <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始一か月前までに提示する 2. DVDも使用する 																			

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 看護の統合と実践Ⅱ (看護技術の統合)	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 渡辺 智美	開講時期： 3年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>看護は対象に応じた看護技術を適切に実施することであり、そのために対象理解と倫理的な視点をもとに総合的に実施する能力が求められる。看護師教育の記述項目13項目すべてをよりよく実践するためには、看護専門職業人としてさらに研鑽をつまらなくてはならない。ここでは、より高度な医療的ケアに必要な看護技術と各技術を統合して行う看護業務の実際について理解し、実践するうえでの判断力を身に着けるとともに次への課題を明らかにする。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア看護の基本について理解する 2. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援について理解する 3. 急変時の対応・救急看護の実際について理解する 4. 臨床場面に対応できる看護に必要な判断力を養う <ol style="list-style-type: none"> (1) 複数患者の対応 (2) 急変時の臨床判断力と必要な看護技術 (3) 看護技術の評価と課題 <p style="margin-left: 40px;">看護技術チェック表をもとに自分が修得している看護技術をアセスメント・評価する</p> 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア看護の基本 2～4. クリティカルな状態にある患者の全身管理と日常性への支援 5～6. 急変時の対応 7～8. 臨床判断プロセスの可視化 9～12. 救急看護の実際 *事例展開 13～14. 看護実践に必要な看護技術 15. 終講試験 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習態度、終講試験で総合的に評価する 	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 急性期看護・クリティカルケア メヂカルフレンド社 <p>参考図書 なし</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上												
授業科目： 看護の統合と実践Ⅲ (災害看護、国際看護、多重課題)	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当： 磯山由紀子／青木正志 他	開講時期： 3年次 前期、後期												
<p>科目の概要・目的</p> <p>阪神淡路大震災や東日本大震災などに代表される地震災害をはじめ、地球環境の変化がもたらす自然災害や、人間が関与する人為災害など、災害立国日本の看護師として、災害現場に直ちに対応できる知識・技術・態度を身に着けることは必須である。さらに、看護職には災害を日本の国内の出来事と捉えるのではなく、地球規模で起きていることとして、全世界の人々と手を携え、自身の健康を守りながら救護チームとして被災した人々を支援することも必要である。看護専門職としての経験を積みながらこれらの支援に携わっていきける知識と技術を身に着けていくことが必要である。ここでは、災害地の人々の実際の声に耳を傾け、被災した人々の心身社会面の健康に向けた援助活動のあり方と看護の国際化の動きを学ぶ。看護師は臨床の中で複数患者を受け持ち、それぞれに必要な処置や治療、看護ケアを迅速かつ安全・丁寧に、時間内に行い、医師からの急な指示変更や指示追加に対応したり、家族とコミュニケーションする時間を設けたりと、その都度看護ケアの方法や、時間帯等を変更、追加しながら実践する多重課題を行っている。多重課題とは複数の患者対応の中で、安全な看護ケアが提供できるように優先順位を考えて行動することであり、多重課題に一番大切なことはきちんとアセスメントをした上で優先順位をつけて対応することである。優先順位をつける際に、第一に重要なのは「生命の危険の有無」について考えること、第二に、「安全」、「患者への配慮」、「時間管理」の視点をもとに業務を行うことである。授業の中では場面設定をした多重課題の状況で、どのように対応すればよいかを考え優先順位をつけて行動する演習を行う。この状況を振り返ることが自分の看護を客観的に考え、自分の課題を明らかにする機会をなす。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時に直ちに行動し、被災者を尊重した態度をとれるように心がけることができる 2. 地球規模で災害支援を考えられる国際化に対応できる能力を身につける 3. 複数の患者対応の中で、優先順位を考えた行動を考えることができる 													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識</td> <td>7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護</td> </tr> <tr> <td>2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護</td> <td>8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護</td> </tr> <tr> <td>3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開</td> <td>9～10. 国際救援と看護 21世紀の国際協力の課題</td> </tr> <tr> <td>4. 地震災害看護の展開</td> <td>11～14. 複数受持ちの多重課題の看護</td> </tr> <tr> <td>5. 災害とこころのケア</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>6. 国際看護学とは</td> <td></td> </tr> </table>		1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識	7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護	2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護	3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開	9～10. 国際救援と看護 21世紀の国際協力の課題	4. 地震災害看護の展開	11～14. 複数受持ちの多重課題の看護	5. 災害とこころのケア	15. 終講試験	6. 国際看護学とは	
1. 災害看護の歩み 災害医療・看護の基礎知識	7. 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護												
2. 災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護	8. 国際看護活動の展開過程 開発協力と看護												
3. 被災者犠牲に応じた災害看護の展開	9～10. 国際救援と看護 21世紀の国際協力の課題												
4. 地震災害看護の展開	11～14. 複数受持ちの多重課題の看護												
5. 災害とこころのケア	15. 終講試験												
6. 国際看護学とは													
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の災害時の対応について確認する 													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート、学習態度、終講試験で総合的に評価する 													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院 													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：看護の統合と実践Ⅳ（看護研究）	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当：吉良淳子／富田美加／後藤文子	開講時期： 2年次～3年次
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護の実践や看護の発展に必要な看護研究のプロセスを学ぶ</p> <p>実習での看護実践をケーススタディに論理的な思考をもとにまとめ、研究的視野で看護を探求する態度を身につける</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義・重要性を理解する 2. 看護研究の種類と研究プロセスを理解する 3. 実習での看護場面をケーススタディとしてまとめ、自身の看護課題を明らかにする 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の意義・重要性 2. 看護研究の種類と研究プロセス 3. 文献検索の重要性・文献活用の必要性 4. 看護研究上の諸注意と配慮（経済性・倫理性など） 5. ケーススタディの意義とまとめ方 6. 看護研究 文献検索 7. 研究テーマ 仮説決定 8. 研究目的 事例紹介 9. 文献リスト 検索 10. 看護場面のまとめ 11. 分析 12. 考察・結論 13. 論文のまとめ、評価 14. 発表 15. 発表・まとめ 	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での援助場面を批判的思考で看護を考え、研究テーマにつなげられるように、実習終了時のまとめを行う 	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 看護研究、プロセスの態度と発表をもって評価する 	
<p>使用テキスト 1. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>参考図書 1. 数間恵子他編・看護研究のすすめ方、読み方、使い方</p> <p style="text-align: right;">日本看護協会出版会</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：臨床心理士 5年以上
授業科目：心理学	単位（時間）：1単位（45時間）
授業担当：高山 かおり	開講時期：2年次 前期
<p><学習目的></p> <p>心理学には、様々な研究領域が存在する。本科目では、看護の業務に密接に関連する内容を中心に学習し、援助対象者への理解を深めることを目的とする。また、相手を理解するためには、まずは自分自身を知ることが重要である。自己理解を深め、そして他者理解をし、対人援助技術の習得につなげていく。加えて、対人援助職として重要となる、自分自身のメンタルヘルスケアについて考える姿勢を身につける。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える。 2. 自己理解を深めた上で、援助対象者の考えや価値観を慮る姿勢を身につける。 3. よりよい援助を行う上で欠かせない、援助者自身の心の健康を考える。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは 2. 感覚と知覚、記憶 3. 思考・言語・知能、学習 4. 感情と動機づけ 5. 性格とパーソナリティ、社会と集団 6. 発達 7. 心理臨床 8. 医療・看護と心理 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記を用いた試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 社会福祉	単位（時間）： 2単位（90時間）
授業担当： 雑賀 夏紀	開講時期： 2年次 前期
<p><学習目的></p> <p>社会保障の理念と基本的な制度の考え方、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解し、保健・福祉・医療の連携の中で、健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を活用するための基礎的な知識および関係法規について学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・福祉・医療の連携の必要性を理解する。 2. 健康な生活を送るために必要な、社会保障制度を理解する。 3. 社会保険の役割と制度を学習し、制度の活用について理解する。 4. 少子高齢化社会における、社会福祉の課題を理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と福祉 2. 社会保障の概念・歴史・制度体系 3. わが国の社会保障制度 4. 社会福祉の歴史と援助技術 5. 社会福祉の諸制度と施策 6. 社会福祉行政のしくみ 7. 社会保障制度の動向 8. 社会福祉のまとめ 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>健康支援と社会保障制度 3 社会福祉 メヂカルフレンド社</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護の共通基本技術	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開講時期： 1 年次 前期
<p><学習目的> 看護行為に共通する援助技術について学び、対象を総合的に理解して援助する能力を高める。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ。 2. 看護における教育的関わりを理解する。 3. バイタルサインの基礎的知識を理解する。 4. 全身状態を系統的に把握する方法を学ぶ。 5. 看護過程の基礎的知識を学ぶ。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を発達させる技術 2. 看護における教育・指導 3. 身体的情報をアセスメントする技術 4. 快適な病床環境をつくる技術 5. 感染防止・安全を確保する技術 6. 安楽促進と呼吸循環を整える技術 7. 看護を展開するための技術 8. 看護ケアの継続をはかる技術 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護過程の基礎	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>あらゆる対象に看護を実践するための科学的思考過程である看護過程について理解を深め、事例演習を通して看護過程の展開の実践能力を高める。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的を達成するため看護過程の意義を理解する。 2. 事例をもとに看護解決過程やクリティカルシンキング、情報の分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する。 3. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方を理解する。 4. ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の展開が、紙上事例を通してできる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは 2. 看護過程の展開 3. 事例を用いた看護過程の展開① 情報収集・整理、関連図の記入 4. 事例を用いた看護過程の展開② 情報分析・解釈 5. 事例を用いた看護過程の展開③ 看護問題の明確化、問題点の優先順位 6. 事例を用いた看護過程の展開④ 看護計画、実施、看護目標の設定 7. 事例を用いた看護過程の展開⑤ 援助方法の選択、具体策の立案、看護計画、評価 8. まとめ 	
<p>評価方法</p> <p>レポート</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院</p> <p>看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践第 4 版 ニューヴェルヒロカワ</p>	
<p>備考</p> <p>本校面接授業</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 日常生活の援助技術	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>日常生活援助技術として、生活環境全般にかかわる、食と排泄を整える技術、清潔を整える技術、運動と休息のバランスを整える技術などについて学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な援助を安全に実施するための知識・技術を理解する。 2. 健康を維持向上させる生活援助技術を理解する。 3. 医療専門職としての看護師の基本的態度を習得する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・運動を援助する技術 2. 休息・睡眠を促す技術 3. 身体の清潔の援助技術 4. 食事・栄養の援助技術 5. 排泄の援助技術 6. 呼吸を楽にする技術 7. 体温を調節する技術 8. 安全・安楽に関する技術 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門 2 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 3 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 4（臨床看護総論） 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 診療に伴う援助技術	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的> 健康障害をもつ患者および家族を理解し、健康障害に応じた看護の基本について学びを深める。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ人と家族について理解し、健康レベルに応じた看護の役割を学ぶ。 2. 経過に伴う患者の看護について理解できる。 3. 主要症状を示す患者の観察・看護について理解できる。 4. 治療や処置に応じた看護や対象への配慮が考えられる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床の場と対象理解への基礎知識 2. 経過に基づく患者の看護 3. 主要症状を示す患者の看護 4. 検査を受ける患者の看護 5. 治療・処置を受けている患者の看護 6. 生命の危機的状況にある人の看護 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座（別巻） 臨床外科看護総論 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 成人看護学概論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 澤島 李恵	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>成人期にある対象を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・増進および様々な健康レベルでの障害時の看護を実践する能力を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的（霊的を含む）・社会的側面から総合的に理解する。 2. 成人期の健康問題と影響を及ぼす要因を理解する。 3. あらゆる健康状態にある成人期の対象及び家族に対し、看護の方法と役割を理解する。 4. 成人保健の動向および保健システムを理解し、保健医療チームの一員としての役割を理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活と健康 2. 成人の看護アプローチの基本 3. 成人の健康レベルに対応した看護 4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 5. 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 6. 障害がある人の生活とリハビリテーション 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 1～15 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 成人看護学方法論	単位（時間）： 2 単位（90 時間）
授業担当： 澤島 李恵	開講時期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>成人期にある人々の特徴的な健康障害や危機をもたらす状況について経過別・機能障害別に理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法、看護の展開について学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人の特徴を理解する。 2. 成人期にみられる健康問題を理解する。 3. 成人期の健康増進の必要性和方法を理解する。 4. 成人期における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴の発達課題 2. 成人期の健康と援助 3. 呼吸機能障害のある患者の看護 4. 循環機能障害のある患者の看護 5. 消化・呼吸機能障害のある患者の看護 6. 栄養代謝機能障害のある患者の看護 7. 内部環境（体温、血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護 8. 内分泌機能障害のある患者の看護 9. 身体防御機能障害のある患者の看護 10. 感覚機能障害のある患者の看護 11. 脳・神経機能障害のある患者の看護 12. 運動機能障害のある患者の看護 13. 排泄機能障害のある患者の看護 14. 性・生殖機能障害のある患者の看護 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 1～15 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 老年看護学方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>高齢者の加齢に伴う心身社会面の健康状態をアセスメントし、高齢者の健康障害の特徴をふまえて、高齢者の生命と健康生活を支える看護に必要な基本的な能力を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について科学的根拠をもとに理解する。 2. 様々な健康状態にある高齢者と家族の生活の現状をもとに、健康を支える看護について理解する。 3. 多様な生活の場の高齢者個々のニーズに応じた高齢者の健康を支える看護について理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の基盤 2. 超高齢化社会と社会保障 3. 高齢者の生理的特徴とヘルスアセスメント 4. 高齢者の生活機能を整える看護の展開 5. 健康状態に応じた高齢者の看護 6. 疾病をもつ高齢者への看護 7. 多様な生活の場での高齢者の看護 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学鋼材 専門 21 老年看護病態・疾患論 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 小児看護学方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 安西 紗由理	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><学習目的></p> <p>小児期にある子どもの身体的・心理的・社会的特徴、発達課題、疾病の特徴を踏まえてのアセスメントや、子どもの生命と健康生活や家族を支える看護を学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期における健康の保持・増進のために必要な看護について理解する。 2. 健康障害や入院生活が子どもと家族に与えるストレスと、看護を理解する。 3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する。 4. 健康障害をもつ子どもと家族に及ぼす影響を考慮した看護援助技術が考えられる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どものアセスメント 2. 症状を示す小児の看護 3. 検査・処置を受ける小児の看護 4. 健康障害を持つ子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> ● 病期や入院が家族に与える影響、外来における子どもと家族、検査や処置を受ける子どもと家族 ● 活動制限が必要な子どもと家族、感染対策上隔離が必要な子どもと家族 ● ハイリスク新生児と家族、先天的な問題のある子どもと家族、周手術期における子どもと家族、心身障害のある子どもと家族 ● 急性期・慢性期にある子どもと家族、痛みのある子どもと家族、在宅における子どもと家族の看護 ● 救急救命処置が必要な子どもと家族、災害を受けた子どもと家族、まとめ 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 母性看護学方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 大川 加奈	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><学習目的></p> <p>女性の生物学的側面、心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視点から女性の健康をとらえ、ライフサイクルにおける女性の健康問題と健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖に関わる看護について学ぶ。 2. 正常な経過にある妊産褥婦・新生児の特性と看護について学ぶ。 3. 異常経過にある妊産褥婦・新生児の看護と起こりやすい問題について学ぶ。 4. 妊産褥婦・新生児の看護過程の展開について理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の対象理解 2. 女性のライフステージ各期における看護 3. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア 4. 妊娠期における看護 5. 分娩期における看護 6. 産褥期における看護 7. 妊娠・分娩・新生児・産褥期の異常 8. 母性看護に必要な看護技術 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門 24 母性看護学 1 専門 25 母性看護学 2 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 精神看護学方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 人見 朗	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><学習目的></p> <p>精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および障害をきたした人々に対する適切な看護援助について学び、これらの学びを通して、広く看護全般に活用しうる精神看護学の知識を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康の保持増進と、その予防の重要性を理解する。 2. 精神の疾患や、主な症状および治療に必要な看護援助を理解する。 3. 精神障害者の、地域生活を支えていくための援助について理解する。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康と障害 2. 人間の心のはたらき 3. 関係の中の個人 4. 精神科で出会う人々 5. 精神科での治療 6. ケアの人間関係 7. 精神科における看護の役割 8. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 在宅看護方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 鈴木 和子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><学習目的></p> <p>在宅看護概論での学びを基礎に、健康問題やそれに伴う生活障害を持ちながら生活する療養者とその家族のニーズに基づくアセスメントや、生活の質の維持・向上に向けての看護を理解する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養することの意義と在宅療養者のニーズに応じた看護を理解できる。 2. 在宅療養者の健康レベルと生活状態を考慮した看護の目的及び方法を理解できる。 3. 日常生活を整える援助に必要な技術の基本を学ぶことができる。 4. 医療上の観察、処置を必要とする療養者への看護を理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴 2. 在宅看護の対象者 3. 在宅療養の支援 4. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 5. 在宅看護の展開 6. 在宅看護技術 7. 在宅看護の実際 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 在宅看護論 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護管理	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 川又 光子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><学習目的></p> <p>医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護としてのマネジメントができる基礎的能力を養う。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際が理解できる。 2. 看護における管理の意味と必要性が理解できる。 3. 看護サービスにおける看護管理が理解できる。 4. 諸制度と看護管理について理解できる。 5. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を取り巻く諸制度 2. 看護管理とは 3. 病院の中でのチーム医療の実際 4. 看護におけるマネジメント 5. 看護サービスと看護管理 6. 安全管理 7. 労務管理 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 看護管理 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 医療安全	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 川又 光子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><学習目的></p> <p>医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割について学習する。また、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の基本的な知識を深めることができる。 2. 看護業務の範囲と責任について理解できる。 3. ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について理解できる。 4. 事故報告の意味と必要性について理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と看護の理念 2. 医療安全への取り組みと医療の質の評価 3. 医療機関における安全対策 4. 看護における医療事故と安全対策 5. 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 6. 患者・家族との協同と安全文化の醸成 7. 医療事故とその対応 8. 看護業務上の危険とその安全対策 	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践（2）医療安全 第3版 メディカ出版</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

臨地実習

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 基礎看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1 年次
<p><実習の学習目的></p> <p>対象の健康・生活上の課題を把握し、看護を実践するための基礎的能力を高める。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の問題が対象者の生活行動に及ぼす影響を理解できる。 2. 看護師と対象の援助場面から、どのような援助が看護につながるかがわかる。 3. 安全・安楽な看護援助とは何かを考えることができる。 4. 対象を尊重する態度を養うことができる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象を生活者として捉え、事例で提示した対象の疾病の成り立ち、治療・予後について学ぶ。 ・それぞれの事例から、日常生活に生じる支障について学ぶ。 ・経過・主要症状・治療・処置における看護の基礎知識を活用して、回復促進ための援助について学ぶ。 ・対象の反応を大切にしながら、必要な情報を分析解釈し、健康上の課題を明らかにする。その健康上の課題を解決できる具体的な援助計画を立案する。 ・どのような知識があれば、正しい看護判断ができるのかがわかり、知識を活用して、対象に必要な看護援助を考える。 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の日常生活状況と提供されている看護援助について学ぶ。 ・入院に伴う対象の日常生活における支障がどこにあるかがわかる。 ・対象に必要なとされる生活行動援助についてわかる。 ・看護に必要な情報とは何かを学ぶ <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象、EBN の意義、安全確保の方法、安楽確保の方法、フィジカルアセスメントの基礎となる技術、その他 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価</p> <p>面接授業はレポート、小テスト、グループ発表（評価項目に基づく）</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 1～4 医学書院 他</p>	
<p>備考</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 成人看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1 年次
<p><実習の学習目的></p> <p>成人期にある対象を全人的にとらえることができ、対象の健康レベルに応じた看護の実際を学ぶ。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の疾患を理解し、対象の健康レベルがわかる。 2. 現在行われている検査、処置、治療、看護の目的を考えることができる。 3. 見学対象に対する社会復帰・自立へ向けた援助の必要性が理解できる。 4. 対象及び家族を尊重する態度を養うことができる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害された臓器の機能と構造 ・ 病態生理と生じる機能障害 ・ 疾病の成り行き ・ 行われている検査・処置・治療についての理解と看護の必要性 ・ 成人期の特徴と対象にふさわしいアプローチ <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病から病態生理と健康障害の経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）をとらえた看護の特徴を学ぶ。 ・ 対象に行われている検査、処置、治療について理解し、その必要性について学ぶ。 ・ 成人各期にある対象に応じた看護援助及び家族への援助についてその方法を学ぶ。 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人各期の発達段階・発達課題をふまえ、成人各期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面からの特徴 ・ 成人の主な疾患や健康問題、それらの診断に必要な検査、治療、看護 ・ 各健康レベル（急性期・リハビリテーション期・慢性期）の特徴と看護 ・ 家族を含めた成人期の対象が疾病や入院により受ける社会的影響 ・ 社会復帰に向けた看護支援 ・ 終末期にある対象とその家族の特徴と看護 ・ これまでの学習の振り返り及び今後の課題の明確化 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業はレポート、筆記試験、授業・グループワークへの参加態度</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 1～15 医学書院 統計の指標 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 他</p>	
備考	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 老年看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1 年次
<p><実習の学習目的> 老年期にある対象を理解し、対象の個性や状況に応じた看護を実践するための知識・技術・態度を養う。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を理解し、健康障害の経過に応じた看護を理解する。 2. 老年期にある人の健康レベルと安全・安楽を考慮した自立を高める援助を考える。 3. 老年看護に関わる多職種との連携の実際と看護の役割を考える。 4. 対象を尊重する態度を養うことができる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の身体的、精神的、社会的特徴とそれに伴う日常生活上の変化 ・老年期に特有な疾患の特徴と看護 ・老年期特有の疾患の病態と老化に伴う身体的変化 ・老年期の周手術期における看護の特徴 ・日常生活上の危険因子 ・急激な環境の変化と高齢者の精神活動 ・寝こむことが高齢者に及ぼす影響 ・退院に向けての生活指導と家族への指導 ・高齢者の QOL ・高齢者への情緒的な看護の特徴 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴についての対象把握の視点や方法 ・対象の加齢に伴う日常生活能力の変化に応じた看護の実際 ・健康障害の種類や健康のレベルと高齢者の観察の視点 ・高齢者の発達段階をとらえて、残存機能を生かした日常生活援助 ・高齢者の危険防止対策と安全防止対策 ・家族への配慮および援助 ・高齢者の信念や価値観を尊重した関わりと論理的配慮 ・医療チームへの一員としての役割や多職種との連携や調整の必要性 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護の特殊性、高齢者の身体的・心理的・社会的・霊的側面、高齢者を取り巻く患者・家族の問題、高齢者に起こりやすい日常生活の障害、高齢者の事故防止と安全、高齢者の生きがい・死生観、高齢者に起こりやすい疾患 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業は評価項目に基づき評価する</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 老年看護学 放送大学教育振興会 他</p>	
備考	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 小児看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1～2 年次
<p><実習の学習目的></p> <p>子どもの成長・発達の特徴を理解し、健康上の課題がある子どもの看護を考え理解する。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成長・発達段階にある子どもの特徴を学ぶ。 2. 健康上の課題がある子どもに必要な援助や援助方法を指導者と共に考えることができる。 3. 成長・発達段階や健康レベルに応じた安全対策を理解することができる。 4. 「児童の権利に関する条約」を基本に対象を尊重する態度を養うことができる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養生活を必要とする子どもと家族 ・事例にある子どもの成長・発達に関連した特徴 ・障害された組織や臓器の機能と構造 ・疾病生理および機能障害 ・必要な情報のアセスメントと健康上の課題 ・行われている検査・治療が子どもに与える影響 ・子どもと家族に対する看護 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護場面を通して、対象や家族への支援を見学する。 ・子どもの成長・発達課題に応じた援助を、見学を通して学ぶ。 ・安全に配慮し、発達段階にあった環境整備の必要性を学ぶ。 ・疾病や、治療・検査による日常生活の規制がわかる。 ・病態及び治療や検査の内容を知り、実施されている看護について学ぶ。 ・療養中の子どもの看護上の問題に気づく。 ・成長・発達を促すための援助を考える。 ・療養生活が、母子分離や家族関係に与える影響について考える。 ・子どもを取り巻くチーム医療の現状を見学し、役割について考える。 ・看護場面を通して子どもの看護において守られる権利について考える。 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護行為 ・小児看護の特殊性 ・小児の身体的・心理的・家族の問題 ・小児を取り巻く社会・家族の問題 ・小児の自立に向けた援助・教育 ・小児の事故防止と安全 ・小児と家族看護 ・小児に起こりやすい疾患と看護 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業は筆記試験、レポート、出席状況、グループワーク発表等（評価項目に基づき行う）</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 小児看護学 1～2 医学書院 他</p>	
<p>備考</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 母性看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1～2 年次
<p><実習の学習目的> 周産期にある女性と新生児およびその家族に対する看護を理解する。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある女性と新生児の生理的経過を理解できる。 2. 母性看護特有の看護技術を見学し、理解を深めることができる。 3. 妊産褥婦およびその家族のニーズにあわせた保健指導と継続看護の必要性について理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期の経過 ・ ハイリスク妊娠の病態・リスク因子およびその看護 ・ 妊婦のセルフケア行動を意識した援助 ・ 帝王切開の適応とリスク ・ 産褥期の心身に及ぼす影響と関連因子 ・ 褥婦の健康問題の変化 ・ 対象の自己効力感、意思決定を支える看護 ・ 産褥期の正常からの逸脱とその予防的援助 ・ 母親役割獲得・家族役割獲得に必要な援助 ・ 退院後の社会支援・諸制度の活用 ・ 母乳栄養の利点 ・ 産褥期の母子相互作用 ・ 新生児の胎外生活適応状態 ・ 母子分離状態に陥った対象への看護 ・ 治療に必要な児の母親への援助 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常な経過 ・ 母性看護の特殊性、援助・技術の必要性 ・ 母性看護の指導の実際 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母性看護の対象と役割、母性各期の特性、母性各期の健康問題、妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護の特性、妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護の要点、母子相互作用・母と子の絆 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業は出席状況、グループワーク発表、ミニテスト等（評価項目に基づき行う）</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 専門 24・25 母性看護学 1～2 医学書院 他</p>	
<p>備考</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 精神看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1～2 年次
<p><実習の学習目的></p> <p>精神の健康問題が日常生活にどのように影響を及ぼしているか理解する。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護を必要とする対象と家族との生活について理解できる。 2. セルフケア能力に応じた日常生活行動への援助とその対応を理解できる。 3. 対象の安全を守るための援助の特殊性を理解できる。 4. 精神に障害をもつ人の人権保護の重要性を理解し、対象を尊重する態度をとることができる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提示した事例から発症の原因、症状、治療、看護までを、一連の思考に沿って考える。 ・ 治療薬が及ぼす身体への影響 ・ 日常生活の自立のために必要な援助 ・ 医療保健チームの役割・連携と地域への働きかけ <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発症の原因・治療・検査、薬の副作用など ・ 日常生活行動および自立に向けた援助技術の実際 ・ 対象とのコミュニケーションの実際について考え実践する ・ 対象の言動の意味を考える ・ 安全を守るための看護師の役割と援助 ・ 精神看護実践場面における倫理的配慮 ・ 施設の特徴や安全管理 ・ 精神保健福祉と医療 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患・障害のある人（対象）の理解 ・ 対象への治療の実際と、治療上の必要な看護の実際 ・ 患者－看護師関係における治療的プロセスの重要性 ・ 精神看護における倫理観を養う ・ 精神保健福祉における看護の役割・機能を学ぶ ・ 実習を振り返り、自己の課題を見出す 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価</p> <p>面接授業は出席状況、グループワーク参加状況、小テスト等（評価表に基づき行う）</p>	
<p>参考資料</p> <p>精神看護学Ⅰ・Ⅱ 医学書院 他</p>	
<p>備考</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目：在宅看護学事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1～2 年次
<p><実習の学習目的> 疾病や障害をもちながら地域で生活する在宅療養者とその家族を理解し、対象に必要な看護を学ぶ。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害が在宅で療養する人とその家族に及ぼす影響について理解できる。 2. 疾病や障害をもちながら地域で生活する在宅療養者とその家族のもつ、健康上の課題が理解できる。 3. その人らしさや自己決定を尊重した訪問看護の特徴・意義について理解を深めることができる。 4. 在宅療養を成立させるための社会資源や関係諸機関との連携が理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の健康状態と生活状況を把握する ・対象者の療養環境 ・在宅患者の自立を目指すために必要な看護 ・対象者の個性や継続看護の必要性 ・在宅で介護する家族の役割と想い ・家族の介護能力を把握し必要な援助を考える ・在宅ケアチームの必要性 ・多職種・他機関との連携の必要性 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別性を重視した援助方法の実際 ・看護支援の実際 ・在宅看護における情報収集の実際 ・在宅看護におけるアセスメントの実際 ・在宅看護における看護を展開する上での工夫・配慮の実際 ・在宅における看護方法の実際 ・多職種・他機関との連携の重要性 ・在宅看護における信頼形成の方法の実際 ・在宅看護におけるリスクマネジメントの実際 <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護の目的・意義 ・在宅看護の対象 ・在宅療養者とその家族の健康上の問題と日常生活の障害 ・在宅特有の生活行為への支援、医療技術 ・在宅看護過程の展開におけるアセスメントの視点 ・在宅における終末期看護 ・在宅療養における社会資源の活用や関係諸機関との連携の必要性と、その中での看護師の役割 ・実習を振り返り、自己の課題を明確にする 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業は出席状況、レポート、グループワーク参加状況等（評価項目に基づき行う）</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 他</p>	
<p>備考</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護の統合と実践 事例演習・実習	単位（時間）： 事例演習 1 単位（45 時間） 実習 1 単位（45 時間）
授業担当：	開 講 時 期： 1～2 年次
<p><実習の学習目的> 看護管理の実際を知るとともに、看護専門職としての責任と役割を学ぶ。</p> <p><実習の学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院、病棟における看護管理の実際と考え方を理解できる。 2. 病院における医療安全に向けての取り組みが理解できる。 3. 病棟における医療安全や災害対策のマネジメントがわかる。 4. 医療チームに関わる人々との連携・協働が理解できる。 	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>紙上事例演習 3 事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア提供システムの特徴や利点・欠点 ・保健師助産師看護師法、看護師等人材確保の促進に関する法律、医療法 ・ヒューマンエラーのメカニズム、人間の特性 ・災害サイクル、災害各期の看護ケアの特徴 <p>病院見学実習 2 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院組織における看護管理と病棟管理者の役割と業務 ・病棟（師長・主任）の業務の実際 ・看護方式・看護体制・役割の実際 ・メンバーシップ・リーダーシップの役割を理解する ・チームカンファレンスの見学 ・複数患者において、多重業務の中で優先度を考慮し、実践する必要性を学ぶ ・医療安全・感染管理の取り組み <p>面接授業 3 日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスの組織化、看護ケア提供システム、看護専門職としての倫理、看護を取り巻く諸制度、感染の標準予防策、世界の健康問題の現状、国際協力の仕組み 	
<p>評価方法</p> <p>紙上事例演習評価票・見学実習評価票（学生便覧に掲示）に基づく評価 面接授業はレポート、筆記試験、グループワーク参加状況（評価項目に基づき行う）</p>	
<p>参考資料</p> <p>系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践 1 医学書院 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 2 医療安全第 3 版 メディカ出版 災害看護・国際看護学 放送大学教材'20 他</p>	
備考	

放送大学履修科目（16科目／合計32単位）

	教育内容	本校の科目名	本校 単位数	放送大学の対応科目
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	2	問題解決の進め方（'19）
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	2	心理カウンセリング序説（'21）
		社会学	2	健康と社会（'17）
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	2	人体の構造と機能（'18）
		栄養学	2	食と健康（'18）
	疾病の成立と回復の促進	病理学	2	疾病の成立と回復促進（'21）
		微生物学	2	感染症と生体防御（'18）
		薬理学	2	疾病の回復を促進する薬（'21）
健康支援と社会保障制度	公衆衛生	2	公衆衛生（'19）	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	2	看護学概説（'16）
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学概論	2	老年看護学（'19）
	小児看護学	小児看護学概論	2	小児看護学（'16）
	母性看護学	母性看護学概論	2	母性看護学（'20）
	精神看護学	精神看護学概論	2	精神看護学（'19）
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	2	在宅看護論（'17）
	看護の統合と実践	災害・国際看護	2	災害看護学・国際看護学（'20）
単位合計			32	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：社会福祉士、社会福祉主事 5年以上
授業科目： 人間福祉論	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 埴 富美子	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい> 「人間」をその「尊厳と自立」という視点から理解し、考え方や価値観の多様性を学ぶ。その上で、介護場面における利用者の自立・自律について考え、具体的な事例を含んだ倫理課題に対応するための基礎を身につける。</p> <p><授業の概要> ワークシートを使用しながら、人間、特に福祉サービス利用者における尊厳と自立・自律について学習する。本授業は、講義だけでなく、グループワークやディスカッションを行いながら展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 人間の尊厳と自立の意義 3. 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み① 歴史的経緯 4. 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み② 諸規定 5. 人間の尊厳・自立と生活① 6. 人間の尊厳・自立と生活② 7. 尊厳保持と自立支援の理論① 権利擁護と人権尊重 I 8. 尊厳保持と自立支援の理論② 権利擁護と人権尊重 II 9. 尊厳保持と自立支援の理論③ 自立支援 I 10. 尊厳保持と自立支援の理論④ 自立支援 II 11. 尊厳保持の実践 12. 自立支援の実践① 13. 自立支援の実践② 14. まとめ 15. 最終試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>授業への出席状況，受講中の態度，参加度，提出課題および最終試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」※ その他，適宜資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目：人間関係論	単位（時間）：2単位（30時間）
授業担当：杉浦 誠	開講時期：1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい> 「人間」をその「尊厳と自立」という視点から理解し、考え方や価値観の多様性を学ぶ。その上で、介護場面における利用者の自立・自律について考え、具体的な事例を含んだ倫理課題に対応するための基礎を身につける。</p> <p><授業の概要> ワークシートを使用しながら、人間、特に福祉サービス利用者における尊厳と自立・自律について学習する。本授業は、講義だけでなく、グループワークやディスカッションを行いながら展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 人間の尊厳と自立の意義 3. 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み① 歴史的経緯 4. 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み② 諸規定 5. 人間の尊厳・自立と生活① 6. 人間の尊厳・自立と生活② 7. 尊厳保持と自立支援の理論① 権利擁護と人権尊重Ⅰ 8. 尊厳保持と自立支援の理論② 権利擁護と人権尊重Ⅱ 9. 尊厳保持と自立支援の理論③ 自立支援Ⅰ 10. 尊厳保持と自立支援の理論④ 自立支援Ⅱ 11. 尊厳保持の実践 12. 自立支援の実践① 13. 自立支援の実践② 14. まとめ 15. 最終試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>授業への出席状況、受講中の態度、参加度、提出課題および最終試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」※ その他、適宜資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：手話通訳士 10 年以上
授業科目： 手話	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 白井 久美子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>本講義は、介護福祉士養成課程における『人間関係とコミュニケーション』に該当する。手話によるコミュニケーションを必要とするろう者に対して、基本的な手話の技法を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>手話表現の実技と講義</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・伝えあってみましょう 2. 名前、あいさつ 3. 色・形 4. 数字（1～10） 5. 家族の紹介 6. ろう講師との交流 7. 指文字 8. 数字（11～） 9. 趣味 10. ろう講師との交流 11. 手話について（空間利用と時制） 12. ろう講師との交流 13. 自己紹介をしよう 14. 前期のまとめ 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>一般財団法人全日本ろうあ連盟 今すぐはじめる手話テキスト『聴さんと学ぼう！』</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 法と社会保障	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>人間の生活や社会的な背景を理解し、福祉サービスを提供あるいは利用する際に関わる仕組みや法制度体系についての基礎的知識を習得する。主に介護保険制度と障害者総合支援制度を中心に、個人情報保護や成年後見制度等を学ぶ。</p> <p><授業の概要></p> <p>ワークシートを用いながら、介護実践に関する仕組みや諸制度の理解を学習する。講義と共に、グループワークやディスカッションを用いた授業を展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 介護保険制度のあり方① 背景と目的 3. 介護保険制度のあり方② 仕組みⅠ 4. 介護保険制度のあり方③ 仕組みⅡ 5. 介護保険制度のあり方④ 役割Ⅰ 6. 介護保険制度のあり方⑤ 役割Ⅱ 7. 障害者の自立 8. 障害者の自立支援を担う法制度のあり方① 仕組みⅠ 9. 障害者の自立支援を担う法制度のあり方② 仕組みⅡ 10. 障害者の自立支援を担う法制度のあり方③ 役割 11. 介護実践にかかわる諸制度① 12. 介護実践にかかわる諸制度② 13. 介護実践にかかわる諸制度③ 14. 期末試験対策 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」※ その他、随時資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 社会福祉の基礎	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 1年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>自分自身の生活をふり返りながら、人間の生活や社会的な背景を学ぶとともに、個人や家族、社会といったそれぞれの単位で人間を捉える視点を養成する。その上で、社会保障制度についての理解を深める。</p> <p><授業の概要></p> <p>主として介護に関わる仕組みや諸制度の理解を、ワークシートを用いて学習する。グループワークや小テストを用いて授業の理解度を確認していく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授授業オリエンテーション 2. 私たちの生活と社会福祉① 生活の構造 3. 私たちの生活と社会福祉② ライフスタイルの変化 4. 私たちの生活と社会福祉③ 家族の機能と役割 5. 私たちの生活と社会福祉④ 社会・組織の機能と役割 6. 私たちの生活と社会福祉⑤ 地域・地域社会 7. 私たちの生活と社会福祉⑥ 地域共生社会における制度や施策 8. 社会保障の基本的な考え方 9. 日本の社会保障制度の発達① 10. 日本の社会保障制度の発達② 11. 日本の社会保障制度の仕組み① 12. 日本の社会保障制度の仕組み② 各社会保険の概要 13. 現代社会と社会保障制度① 14. 現代社会と社会保障制度② 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」、福祉小六法編集委員会 編 「社会福祉小六法」※その他、随時資料配布します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目：文化と礼作法 I (国際教養)	単位(時間)：2単位(30時間)
授業担当：新田 隆博	開講時期：1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>少子高齢社会を背景に、ますます社会的需要が高まる我が国の介護福祉士には世界中の注目・関心が集まっている。事実、EPA や FTA、その他、近年の社会情勢を背景に介護職の国際化が急速に進み、茨城県内においても外国出身者ケアワーカーが増加中である。今後、ますます介護職のダイバーシティが求められる中、本科目は、それに対応する国際的教養力を高めることを目的とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>国際公用語である英語学習を中心に、福祉(保育含む)・医療・保健分野におけるさまざまなコミュニケーションを学ぶ。また、福祉サービス場面に特化した多様な人間交流について、実践的に演習する。その上で、福祉英語検定 3 級・4 級の合格を目指す。さらに、希望者がいれば、保育英語検定の受験および合格を目指す。</p>	
<p>学習概要(授業計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、国際教養の臨床： 2. 国際教養の臨床 2 身体障害者授産系施設、知的障害者支援施設 3. 国際教養の臨床 3 知的障害者授産施設、精神障害者生活訓練施設 4. 国際教養の臨床 4 精神障害者作業所、特別養護老人ホーム 5. 国際教養の臨床 5 養護老人ホームおよびデイサービスセンター 6. 国際教養の臨床 6 介護老人保健施設および児童養護施設 7. 国際教養の臨床 7 乳児院、障害児施設(肢体不自由等) 8. 国際教養の臨床 8 児童自立支援施設および救護施設 9. 医療福祉保健領域における実践コミュニケーション、面会対応、アセスメント 10. 医療福祉保健領域における実践コミュニケーション、食事介護、レスパイト 11. 医療福祉保健領域における実践コミュニケーション、ルーティンケア、自立介助 12. 国際教養としての多文化交流 1 演習 1 13. 国際教養としての多文化交流 1 演習 2 14. 国際教養としての多文化交流 1 演習 3 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格、福祉英語検定 3 級、4 級、保育英語検定 2～5 級</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度(特にワークショップ形式の演習時)、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト 随時資料を配布します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：美容師 10 年以上																														
授業科目：文化と礼作法Ⅱ（美容）	単位（時間）：4 単位（60 時間）																														
授業担当：藤枝 恵子	開講時期：2 年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>利用者の QOL(生活の質)を高め、いつまでも生き生きと活発に生活をするために、美容の視点を取り入れた整容、清潔の支援(美容福祉)を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>講義の中に演習を交えながら実際的な学習を展開する。</p> <p>ハンドマッサージ、化粧療法、ヘアスタイリング、ネイルケアの実際を学ぶ。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③</td> </tr> <tr> <td>2. 美容と介護の関係</td> <td>17. メイクセラピーを理解する</td> </tr> <tr> <td>3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果</td> <td>18. カウンセリング概論</td> </tr> <tr> <td>4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①</td> <td>19. 顔と心の化粧の関係</td> </tr> <tr> <td>5. // (化粧療法)口紅②</td> <td>20. スキンケア概論</td> </tr> <tr> <td>6. // (化粧療法)眉①</td> <td>21. //</td> </tr> <tr> <td>7. // (化粧療法)眉②</td> <td>22. メイクアップ概論</td> </tr> <tr> <td>8. // ファンデーション①</td> <td>23. //</td> </tr> <tr> <td>9. // ファンデーション②</td> <td>24. //</td> </tr> <tr> <td>10. // ハンドマッサージ①</td> <td>25. //</td> </tr> <tr> <td>11. // ハンドマッサージ②</td> <td>26. 検定対策①</td> </tr> <tr> <td>12. // フェイスマッサージ①</td> <td>27. // ②</td> </tr> <tr> <td>13. // フェイスマッサージ②</td> <td>28. // ③</td> </tr> <tr> <td>14. // ヘアスタイル①</td> <td>29. // ④</td> </tr> <tr> <td>15. // ヘアスタイル②</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③	2. 美容と介護の関係	17. メイクセラピーを理解する	3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果	18. カウンセリング概論	4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①	19. 顔と心の化粧の関係	5. // (化粧療法)口紅②	20. スキンケア概論	6. // (化粧療法)眉①	21. //	7. // (化粧療法)眉②	22. メイクアップ概論	8. // ファンデーション①	23. //	9. // ファンデーション②	24. //	10. // ハンドマッサージ①	25. //	11. // ハンドマッサージ②	26. 検定対策①	12. // フェイスマッサージ①	27. // ②	13. // フェイスマッサージ②	28. // ③	14. // ヘアスタイル①	29. // ④	15. // ヘアスタイル②	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 美容福祉の実際ヘアスタイル③																														
2. 美容と介護の関係	17. メイクセラピーを理解する																														
3. 自立と美容福祉 美容福祉の効果	18. カウンセリング概論																														
4. 美容福祉の実際(化粧療法)口紅①	19. 顔と心の化粧の関係																														
5. // (化粧療法)口紅②	20. スキンケア概論																														
6. // (化粧療法)眉①	21. //																														
7. // (化粧療法)眉②	22. メイクアップ概論																														
8. // ファンデーション①	23. //																														
9. // ファンデーション②	24. //																														
10. // ハンドマッサージ①	25. //																														
11. // ハンドマッサージ②	26. 検定対策①																														
12. // フェイスマッサージ①	27. // ②																														
13. // フェイスマッサージ②	28. // ③																														
14. // ヘアスタイル①	29. // ④																														
15. // ヘアスタイル②	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格、NPO 法人日本人材教育協会メイクセラピー検定 3 級</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>「メイクセラピー入門(3 級対策)」</p> <p>※ 参考文献「美容福祉の魔法のちから」講談社、2007 年(プリント作成)</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：文書処理検定取得後 5 年以上
授業科目： 情報リテラシー	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 長谷川 福子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>高度情報化の現代，介護現場においても利用者の情報をパーソナルコンピュータ（以下，PC）上で管理することが一般的になっている。ビジネススキルとして，文書処理技術の基本操作を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>PC の基本的な操作方法や名称を学習し，Word2010 操作方法を演習を通し活用できるよう習得する。また，全経文書処理（ワープロ）能力検定 2 級，3 級の取得を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーションシステムの基礎 2. インターネット活用術 3. Word2010 の画面構成 4. Word2010 の基本操作 5. 文書作成 I 6. 文書作成 II 7. 文書作成 III 8. 表を活用した文書作成 I 9. 表を活用した文書作成 II 10. 表を活用した文書作成 III 11. 表の編集 I 12. 表の編集 II 13. 画像を活用した文書作成 I 14. 画像を活用した文書作成 II 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>全経文書処理検定（ワープロ）能力検定 3 級</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>全経文書処理検定（ワープロ）能力検定 3 級過去問題集</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5 年以上																														
授業科目： 介護福祉論 I	単位（時間）： 4 単位（60 時間）																														
授業担当： 渡辺 修宏	開 講 時 期： 1 年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護の基本は介護福祉士として基盤となる教科である。様々な要素から成る介護で他者理解に対する観点をしっかりととらえ、基本となる考え方やその根拠を学び、介護従事者に共通する考え方を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護の基本となる考え方を講義形式にて行い、学習者の自由な発想を尊重するため演習形式をおりまぜながら行う。また、反復学習を目的とした授業ごとのレポート作成をとおして、学習者自らが到達度を確認できるようにしたい。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 自立を支える介護とは①</td> </tr> <tr> <td>2. 介護とは何か？</td> <td>17. 自立を支える介護とは②</td> </tr> <tr> <td>3. 介護問題への背景</td> <td>18. 地域包括ケアシステムとは</td> </tr> <tr> <td>4. 戦前の介護問題</td> <td>19. 社会福祉士及び介護福祉士法①</td> </tr> <tr> <td>5. 戦後の介護問題</td> <td>20. 社会福祉士及び介護福祉士法②</td> </tr> <tr> <td>6. 介護福祉の変遷①</td> <td>21. 倫理綱領</td> </tr> <tr> <td>7. 介護福祉の変遷②</td> <td>22. 介護福祉士の役割</td> </tr> <tr> <td>8. 介護福祉の変遷③</td> <td>23. 介護福祉士の倫理①</td> </tr> <tr> <td>9. 介護福祉の変遷④</td> <td>24. 介護福祉士の倫理②</td> </tr> <tr> <td>10. 介護保険制度①</td> <td>25. 介護における ICF のとらえ方</td> </tr> <tr> <td>11. 介護保険制度②</td> <td>26. ICF 視点にもとづくアセスメント</td> </tr> <tr> <td>12. 介護福祉士の仕事とは</td> <td>27. リハビリテーションと介護①</td> </tr> <tr> <td>13. 尊厳とは？</td> <td>28. リハビリテーションと介護②</td> </tr> <tr> <td>14. 尊厳を支える介護</td> <td>29. 期末試験対策</td> </tr> <tr> <td>15. 自立とは？</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 自立を支える介護とは①	2. 介護とは何か？	17. 自立を支える介護とは②	3. 介護問題への背景	18. 地域包括ケアシステムとは	4. 戦前の介護問題	19. 社会福祉士及び介護福祉士法①	5. 戦後の介護問題	20. 社会福祉士及び介護福祉士法②	6. 介護福祉の変遷①	21. 倫理綱領	7. 介護福祉の変遷②	22. 介護福祉士の役割	8. 介護福祉の変遷③	23. 介護福祉士の倫理①	9. 介護福祉の変遷④	24. 介護福祉士の倫理②	10. 介護保険制度①	25. 介護における ICF のとらえ方	11. 介護保険制度②	26. ICF 視点にもとづくアセスメント	12. 介護福祉士の仕事とは	27. リハビリテーションと介護①	13. 尊厳とは？	28. リハビリテーションと介護②	14. 尊厳を支える介護	29. 期末試験対策	15. 自立とは？	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 自立を支える介護とは①																														
2. 介護とは何か？	17. 自立を支える介護とは②																														
3. 介護問題への背景	18. 地域包括ケアシステムとは																														
4. 戦前の介護問題	19. 社会福祉士及び介護福祉士法①																														
5. 戦後の介護問題	20. 社会福祉士及び介護福祉士法②																														
6. 介護福祉の変遷①	21. 倫理綱領																														
7. 介護福祉の変遷②	22. 介護福祉士の役割																														
8. 介護福祉の変遷③	23. 介護福祉士の倫理①																														
9. 介護福祉の変遷④	24. 介護福祉士の倫理②																														
10. 介護保険制度①	25. 介護における ICF のとらえ方																														
11. 介護保険制度②	26. ICF 視点にもとづくアセスメント																														
12. 介護福祉士の仕事とは	27. リハビリテーションと介護①																														
13. 尊厳とは？	28. リハビリテーションと介護②																														
14. 尊厳を支える介護	29. 期末試験対策																														
15. 自立とは？	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本 I」※その他、随時資料配布します。</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護福祉論Ⅱ	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 渡辺 修宏	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>尊厳を守る介護，自立に向けた介護について理解を深めることをねらいとする。さらに，ケアマネジメントや職業倫理，リスクマネジメント，そして介護従事者の健康管理を学ぶことにより，専門職業人としての介護福祉士について学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>講義形式で授業を行うが，学習者の自由な発想を尊重するため演習形式をおりまぜながら行う。他の領域で学んだことを総合しながら事例について掘り下げ，学習者の理解を深めたい。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 日本介護福祉士会倫理綱領① 3. 日本介護福祉士会倫理綱領② 4. 日本介護福祉士会倫理綱領③ 5. 介護サービスの特性① 6. 介護サービスの特性② 7. 介護サービスの特性③ 8. 介護実践における連携 9. 介護における安全の確保① 10. 介護における安全の確保② 11. リスクマネジメント① 12. リスクマネジメント② 13. 介護従事者の健康管理 14. 期末試験対策 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅱ」 ※ その他，随時資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護福祉論Ⅲ	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 渡辺 修宏	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい> 家庭生活の意義を理解し、生活の基盤となる衣食住の支援に焦点をあてた介護の基本を学習する。及び、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。</p> <p><授業の概要> 食生活の分野における知識は、講義形式および演習問題を行う中で習得する。技術・技法は実際の作業をとおして理解を深める。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 家庭生活の理解・営み 3. 家庭生活にかかわる基本知識① 4. 家庭生活にかかわる基本知識② 5. 居住環境の整備の意義と目的 6. 安心して快適な生活の場づくり 7. 食事と生活習慣病 8. 献立の立て方 9. 高齢者・障害者の栄養と調理① 10. 高齢者・障害者の栄養と調理② 11. 高齢者・障害者の栄養と調理③ 12. 高齢者・障害者の栄養と調理④ 13. 高齢者・障害者の栄養と調理⑤ 14. 高齢者・障害者の栄養と調理⑥ 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規 必要に応じて、講義時に資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：理学療法士 10 年以上
授業科目： 介護の基本（リハビリ）	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 田尻 進也	開 講 時 期： 2 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護の基本としてリハビリの観点から、身体障害・精神障害をもつ方に対して、病理学的理解・リスクマネジメントを踏まえた ADL・IADL の援助方法を学ぶ。また、リハビリ職との連携について学ぶ。</p> <p><授業の概要></p> <p>①リハビリテーション理念とその体系について、②ADL の基本、③身体障害（脳卒中、整形疾患、内部障害、難病）、④精神障害について。講義、実技演習、レポート課題を行う。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. リハビリテーション理念と障害、リハビリテーション体系 3. 高齢化による機能障害 4. 脳卒中と ADL① 5. 脳卒中と ADL② 6. 脳卒中と ADL③ 7. 整形疾患 8. 内部障害 9. 難病 10. 知的障害・精神障害 11. 小児の障害 12. 認知症 13. まとめ① 14. まとめ② 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>講談社「新しい介護」</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 行動支援（応用行動分析）	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 渡辺 修宏	開講時期： 2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>本講では、「根拠に基づく援助」の実践的理論と具体的援助方略を習得する。特に、徹底的行動主義を哲学的基盤とする、行動分析学を理論的基盤とし、対人援助学という実践の科学を学び、援助の理論的裏付けを学ぶ。</p> <p><授業の概要></p> <p>学問基盤の背景、実用的理論の講義を学んだ後、それに基づいた援助方法を演習によって体得する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（援助哲学としての徹底的行動主義，援助理論として応用行動分析学 2. スキナーの視点（行動分析学の歴史から，人と環境のつながりを考える 3. 対人援助学としての応用行動分析学 4. 基礎理論（強化の原理，弱化の原理 5. 基礎理論（消去の原理，復帰の原理 6. 基礎理論（弁別刺激と，非弁別刺激，スケジュール 7. 基礎理論（ABC分析，理論的分析 8. 基礎理論（アセスメントと実験的デザイン 9. 基礎理論（介入という援助方法；行動変容アプローチ 10. 実践編（問題行動に対する援助 11. 実践編（問題行動に対する援助 12. 実践編（望ましい行動の生起，望ましい行動の増加を図る援助 13. 実践編（望ましい行動の生起，望ましい行動の増加を図る援助 14. まとめ（対人援助学の展望 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>ジョン・O・クーパー，ティモシー・E・ヘロン，ウィリアム・L・ヒューワード（訳，中野良顯）（2013），応用行動分析学，明石書店</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：手話通訳士 10 年以上
授業科目： コミュニケーション	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 白井 久美子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>本講義は、介護福祉士養成課程における『コミュニケーション技術』に該当する。コミュニケーションには多種多様な方法が存在する。そこで本講義では、手話を通して非言語的コミュニケーションの重要性を学ぶことを目的とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>多様なコミュニケーションスキルの実践を講義形式で学習するが、学習理解を深めるうえで、当事者との交流機会をもつことで学習の進捗を確認していきたい。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期の復習 2. ろう講師との交流③ 3. パーティのこと 4. 旅行のこと 5. 職場のこと 6. ろう講師との交流④ 7. 表情豊かに、具体的に① 8. 表情豊かに、具体的に② 9. 話しあってみましょう① 10. ろう講師との交流⑤ 11. 主語を分かりやすく① 12. 主語を分かりやすく② 13. 後期のまとめ① 14. 後期のまとめ② 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>一般財団法人全日本ろうあ連盟 今すぐはじめる手話テキスト『聴さんと学ぼう！』</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 対人関係論	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護を実践する上で求められるコミュニケーションの基礎的なスキルを習得し、利用者の心身の状態を適切にアセスメントできる技能も習得する。また、支援を実践する上で求められる職場内・間の連携の必要性を知り、スキルの習得も目指す。</p> <p><授業の概要></p> <p>座学と演習を通して、介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、技能を習得する。講義は演習をメインとして展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションとは？ 2. 介護におけるコミュニケーションの役割 3. 介護における生活支援とコミュニケーション 4. 話を聴く技法 5. 利用者の感情表現を察する技法・利用者の納得と同意を得る技法 6. 質問の技法 7. 相談・助言・指導の技法 8. 利用者の意欲を引き出す技法 9. 利用者と家族の意向を調整する技法 10. 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 11. コミュニケーション障害の理解と対応 12. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 13. チームのコミュニケーション 14. 記録・報告・連絡・相談・会議 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」中央法規</p> <p>※ その他、随時資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>分からないことがあれば、適宜質問してください。</p> <p>授業への主体的な取り組みの程度も評価に含めます。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上																														
授業科目：生活自立支援 I	単位（時間）：2単位（60時間）																														
授業担当：渡辺 修宏	開講時期：1年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>本演習は、介護福祉士の実践的介護技術を高めるために、基礎的介護技術の習得を目指す。具体的には、介護福祉実習第一段階に取り組むための、下地となる技術の習得としたい。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護福祉士としての心得と、介護者の介護負担軽減を図るための技術を習得する。介護技術の向上とともに、安全に介護実践をできる方法を学び、さらに場面に応じた介護実践のエビデンス（根拠）を学習する。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 自立に向けた移動の介護③</td> </tr> <tr> <td>2. 居住環境の整備①</td> <td>17. 自立に向けた移動の介護④</td> </tr> <tr> <td>3. 居住環境の整備②</td> <td>18. 自立に向けた移動の介護⑤</td> </tr> <tr> <td>4. 居住環境の整備③</td> <td>19. 自立に向けた移動の介護⑥</td> </tr> <tr> <td>5. 居住環境の整備④</td> <td>20. 自立に向けた移動の介護⑦</td> </tr> <tr> <td>6. 居住環境の整備⑤</td> <td>21. 自立に向けた食事の介護①</td> </tr> <tr> <td>7. 自立に向けた身支度の介護①</td> <td>22. 自立に向けた食事の介護②</td> </tr> <tr> <td>8. 自立に向けた身支度の介護②</td> <td>23. 自立に向けた食事の介護③</td> </tr> <tr> <td>9. 自立に向けた身支度の介護③</td> <td>24. 自立に向けた食事の介護④</td> </tr> <tr> <td>10. 自立に向けた身支度の介護④</td> <td>25. 清潔保持の介護①</td> </tr> <tr> <td>11. 自立に向けた身支度の介護⑤</td> <td>26. 清潔保持の介護②</td> </tr> <tr> <td>12. 自立に向けた身支度の介護⑥</td> <td>27. 清潔保持の介護③</td> </tr> <tr> <td>13. 自立に向けた身支度の介護⑦</td> <td>28. 清潔保持の介護④</td> </tr> <tr> <td>14. 自立に向けた移動の介護①</td> <td>29. 期末試験対策</td> </tr> <tr> <td>15. 自立に向けた移動の介護②</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 自立に向けた移動の介護③	2. 居住環境の整備①	17. 自立に向けた移動の介護④	3. 居住環境の整備②	18. 自立に向けた移動の介護⑤	4. 居住環境の整備③	19. 自立に向けた移動の介護⑥	5. 居住環境の整備④	20. 自立に向けた移動の介護⑦	6. 居住環境の整備⑤	21. 自立に向けた食事の介護①	7. 自立に向けた身支度の介護①	22. 自立に向けた食事の介護②	8. 自立に向けた身支度の介護②	23. 自立に向けた食事の介護③	9. 自立に向けた身支度の介護③	24. 自立に向けた食事の介護④	10. 自立に向けた身支度の介護④	25. 清潔保持の介護①	11. 自立に向けた身支度の介護⑤	26. 清潔保持の介護②	12. 自立に向けた身支度の介護⑥	27. 清潔保持の介護③	13. 自立に向けた身支度の介護⑦	28. 清潔保持の介護④	14. 自立に向けた移動の介護①	29. 期末試験対策	15. 自立に向けた移動の介護②	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 自立に向けた移動の介護③																														
2. 居住環境の整備①	17. 自立に向けた移動の介護④																														
3. 居住環境の整備②	18. 自立に向けた移動の介護⑤																														
4. 居住環境の整備③	19. 自立に向けた移動の介護⑥																														
5. 居住環境の整備④	20. 自立に向けた移動の介護⑦																														
6. 居住環境の整備⑤	21. 自立に向けた食事の介護①																														
7. 自立に向けた身支度の介護①	22. 自立に向けた食事の介護②																														
8. 自立に向けた身支度の介護②	23. 自立に向けた食事の介護③																														
9. 自立に向けた身支度の介護③	24. 自立に向けた食事の介護④																														
10. 自立に向けた身支度の介護④	25. 清潔保持の介護①																														
11. 自立に向けた身支度の介護⑤	26. 清潔保持の介護②																														
12. 自立に向けた身支度の介護⑥	27. 清潔保持の介護③																														
13. 自立に向けた身支度の介護⑦	28. 清潔保持の介護④																														
14. 自立に向けた移動の介護①	29. 期末試験対策																														
15. 自立に向けた移動の介護②	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>介護実習 I と連動し、実習前と期末に実技試験を実施する。</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとの実技実践の確認などを通して評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」 中央法規</p>																															
<p>備考</p> <p>授業前に介護実技ができる服装に着替えること。授業内容を十分に理解すること。授業時間外でも自主的に練習を行うこと。授業中の私語や服装および頭髮の乱れ、介護福祉士として品格に欠ける言動が見られた場合、授業を中断し当該学生の退席を求める場合がある。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上																														
授業科目：生活自立支援Ⅱ	単位（時間）：2単位（60時間）																														
授業担当：渡辺 修宏	開講時期：1年次 後期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>本演習は、介護福祉士の実践的介護技術を高めるために、前期に引き続き基礎的介護技術と、応用的実践的な介護技術とを織り交ぜながら学習を展開する。特に本演習では、後期中二回行われる介護福祉実習と連動した学習となるよう検討している。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護福祉士として想定される介護場面を共有し、さらに要援護者ばかりでなく介護者自身の心身の負担軽減を図るため、予測される事故とともに学習する。介護サービス利用者に対する安全・安楽な介護の実践と合わせて、理論学習にも取り組んでいく。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 障害に応じた排泄介助④</td> </tr> <tr> <td>2. 自立に向けた移動の介護①</td> <td>17. 障害に応じた排泄介助⑤</td> </tr> <tr> <td>3. 入浴、清潔保持の介護①</td> <td>18. 障害に応じた排泄介助⑥</td> </tr> <tr> <td>4. 入浴、清潔保持の介護②</td> <td>19. ミニテスト（排泄介助の確認）</td> </tr> <tr> <td>5. 入浴、清潔保持の介護③</td> <td>20. ミニテスト（排泄介助の確認）</td> </tr> <tr> <td>6. 入浴、清潔保持の介護④</td> <td>21. 安楽な体位を保持する介助①</td> </tr> <tr> <td>7. 自立に向けた移動の介護①</td> <td>22. 安楽な体位を保持する介助②</td> </tr> <tr> <td>8. 自立に向けた移動の介護②</td> <td>23. 安楽な体位を保持する介助③</td> </tr> <tr> <td>9. 自立に向けた移動の介護③</td> <td>24. 安楽な体位を保持する介護④</td> </tr> <tr> <td>10. 自立に向けた移動の介護④</td> <td>25. 障害に応じた介護技術まとめ①</td> </tr> <tr> <td>11. 中間試験（移動・移乗介護の確認）</td> <td>26. 障害に応じた介護技術まとめ②</td> </tr> <tr> <td>12. 中間試験（移動・移乗介護の確認）</td> <td>27. 期末試験対策①</td> </tr> <tr> <td>13. 障害に応じた排泄介助①</td> <td>28. 期末試験対策②</td> </tr> <tr> <td>14. 障害に応じた排泄介助②</td> <td>29. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>15. 障害に応じた排泄介助③</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 障害に応じた排泄介助④	2. 自立に向けた移動の介護①	17. 障害に応じた排泄介助⑤	3. 入浴、清潔保持の介護①	18. 障害に応じた排泄介助⑥	4. 入浴、清潔保持の介護②	19. ミニテスト（排泄介助の確認）	5. 入浴、清潔保持の介護③	20. ミニテスト（排泄介助の確認）	6. 入浴、清潔保持の介護④	21. 安楽な体位を保持する介助①	7. 自立に向けた移動の介護①	22. 安楽な体位を保持する介助②	8. 自立に向けた移動の介護②	23. 安楽な体位を保持する介助③	9. 自立に向けた移動の介護③	24. 安楽な体位を保持する介護④	10. 自立に向けた移動の介護④	25. 障害に応じた介護技術まとめ①	11. 中間試験（移動・移乗介護の確認）	26. 障害に応じた介護技術まとめ②	12. 中間試験（移動・移乗介護の確認）	27. 期末試験対策①	13. 障害に応じた排泄介助①	28. 期末試験対策②	14. 障害に応じた排泄介助②	29. 期末試験	15. 障害に応じた排泄介助③	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 障害に応じた排泄介助④																														
2. 自立に向けた移動の介護①	17. 障害に応じた排泄介助⑤																														
3. 入浴、清潔保持の介護①	18. 障害に応じた排泄介助⑥																														
4. 入浴、清潔保持の介護②	19. ミニテスト（排泄介助の確認）																														
5. 入浴、清潔保持の介護③	20. ミニテスト（排泄介助の確認）																														
6. 入浴、清潔保持の介護④	21. 安楽な体位を保持する介助①																														
7. 自立に向けた移動の介護①	22. 安楽な体位を保持する介助②																														
8. 自立に向けた移動の介護②	23. 安楽な体位を保持する介助③																														
9. 自立に向けた移動の介護③	24. 安楽な体位を保持する介護④																														
10. 自立に向けた移動の介護④	25. 障害に応じた介護技術まとめ①																														
11. 中間試験（移動・移乗介護の確認）	26. 障害に応じた介護技術まとめ②																														
12. 中間試験（移動・移乗介護の確認）	27. 期末試験対策①																														
13. 障害に応じた排泄介助①	28. 期末試験対策②																														
14. 障害に応じた排泄介助②	29. 期末試験																														
15. 障害に応じた排泄介助③	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>介護実習ⅡおよびⅢと連動し、実習前と期末に実技試験を実施する。</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとの実技実践の確認などを通して評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規 ※その他、資料配布します。</p>																															
<p>備考</p> <p>授業前に介護実技ができる服装に着替えること。</p> <p>事故防止に十分留意し、安心安全な演習をこころがけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目：生活自立支援Ⅲ	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：渡辺 修宏	開講時期：2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>1年次で身につけた基本的な介護技術を、さらに実践的に活用できるよう学習を展開する。様々な障害があつたとしても介護を必要とする人の尊厳を保持し、個別的介護の考え方や技法を、実践的に体得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>利用者の状態・状況に応じた介助の留意点を考え、根拠に基づいた個別的介護ができるように実践を重ねていく。さらに、安心・安全な技術の習得と知識の獲得を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 利用者の状況に応じた身支度の介護① 3. 利用者の状況に応じた身支度の介護② 4. 利用者の状況に応じた身支度の介護③ 5. 利用者の状況に応じた移動の介護 6. 中間試験（複合的介助） 7. 中間試験（複合的介助） 8. 利用者の状況に応じた排泄の介護① 9. 利用者の状況に応じた排泄の介護② 10. 利用者の状況に応じた清潔保持の介護① 11. 利用者の状況に応じた清潔保持の介護② 12. 在宅介助 13. 期末試験対策 14. 期末試験（複合的介助） 15. 期末試験（複合的介助） 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅲ」中央法規</p>	
<p>備考</p> <p>事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。</p> <p>演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目：生活自立支援Ⅳ	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：雑賀 夏紀	開講時期：2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>生活支援技術では、単にできないことを援助する「補完的介護」ではなく、本人の持っている力を最大限に引出し、個別的な自立・自律に向けた支援の考え方や、技術・技法の習得を実践的に体得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>根拠に基づいた個別ケアを展開できるように実践を重ねていく。1年次、2年次前期に学んだ支援技術を各学生と確認、評価を行いながら、安心・安全な技術の習得と知識の獲得を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 複合的介護演習Ⅰ-1 3. 複合的介護演習Ⅰ-2 4. 複合的介護演習Ⅱ-1 5. 複合的介護演習Ⅱ-2 6. 複合的介護演習Ⅲ-1 7. 複合的介護演習Ⅲ-2 8. 複合的介護演習Ⅳ-1 9. 複合的介護演習Ⅳ-2 10. 複合的介護演習Ⅴ-1 11. 複合的介護演習Ⅴ-2 12. 期末試験対策 13. 期末試験対策 14. 期末試験 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規</p>	
<p>備考</p> <p>事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。</p> <p>演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 家政学	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 雑賀 夏紀	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>家政学は生活支援において不可欠である。要介護者の生活に関与し快適な生活環境を創出し、生活を安定させることがたいせつである。家政の在り方によって、介護の質が左右される点からも介護福祉士として基礎知識を身につける。</p> <p><授業の概要></p> <p>生活経営、衣食住について学び、利用者の状態・状況に応じた、根拠に基づいた個別的介護ができるように学ぶ。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 生活支援とは 3. 介護における家政学の意義 4. 生活主体と自立支援 5. 家事支援サービスと地域ネットワーク 6. 生活に関する制度や法律 7. 介護福祉における被服と衣生活 8. 高齢者とおしゃれ 9. 被服の機能・性能と素材 10. 食生活と食文化 11. 高齢者・障害のある人の食生活と自立支援 12. 食生活と栄養 13. 高齢・障害による機能低下と住居 14. 安全 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>実技試験，出席状況，授業態度等，総合的評価</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅲ」中央法規</p>	
<p>備考</p> <p>事故防止に十分留意し，安心安全な演習をこころがけること。</p> <p>演習にあたっては事前に身だしなみを整え準備をしておくこと。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉レクリエーションインストラクター 10 年以上																														
授業科目：レクリエーション活動援助法 I	単位（時間）：2 単位（60 時間）																														
授業担当：茅野 春水	開講時期：1 年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>生活の質を向上させる娯楽や休養，余暇活動の理念と方法を学ぶ。</p> <p><授業の概要></p> <p>レクリエーションの中で行われる様々な遊びや活動を通し，楽しさを創り出す。レクリエーションを通して，人々を支援するための基礎的な考え方や技術を学ぶ。レクリエーションを用いた支援方法が習得できる。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 援助者側からのレクリエーション計画</td> </tr> <tr> <td>2. レクリエーション援助の意義</td> <td>17. レクリエーション援助活動の実際</td> </tr> <tr> <td>3. 基本的人権としてのレクリエーション諸活動</td> <td>18. 援助のための組織・環境の形成</td> </tr> <tr> <td>4. レクリエーションのもつ意味①</td> <td>19. 楽しく安全なレクリエーションの実現</td> </tr> <tr> <td>5. レクリエーションのもつ意味②</td> <td>20. レクリエーション援助者の役割</td> </tr> <tr> <td>6. レクリエーションのもつ意味③</td> <td>21. 援助者のポリシー</td> </tr> <tr> <td>7. レクリエーションと社会福祉</td> <td>22. チームケアの実践とレクリエーション</td> </tr> <tr> <td>8. レクリエーションの役割</td> <td>23. レクリエーション援助者の具体的業務</td> </tr> <tr> <td>9. 生活とレクリエーションの関係</td> <td>24. 治療的意味合いのレクリエーション</td> </tr> <tr> <td>10. レクリエーションの利用者と援助者</td> <td>25. レクリエーション援助</td> </tr> <tr> <td>11. レクリエーションの主体</td> <td>26. 高齢者へのレクリエーション援助</td> </tr> <tr> <td>12. レクリエーション活動援助の個別性とグループ</td> <td>27. 障害者へのレクリエーション</td> </tr> <tr> <td>13. レクリエーション活動とソーシャルワーク</td> <td>28. 前期まとめ①</td> </tr> <tr> <td>14. レクリエーション計画の作成と実行</td> <td>29. 前期まとめ②</td> </tr> <tr> <td>15. 利用者のレクリエーション・ニーズの実現</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 援助者側からのレクリエーション計画	2. レクリエーション援助の意義	17. レクリエーション援助活動の実際	3. 基本的人権としてのレクリエーション諸活動	18. 援助のための組織・環境の形成	4. レクリエーションのもつ意味①	19. 楽しく安全なレクリエーションの実現	5. レクリエーションのもつ意味②	20. レクリエーション援助者の役割	6. レクリエーションのもつ意味③	21. 援助者のポリシー	7. レクリエーションと社会福祉	22. チームケアの実践とレクリエーション	8. レクリエーションの役割	23. レクリエーション援助者の具体的業務	9. 生活とレクリエーションの関係	24. 治療的意味合いのレクリエーション	10. レクリエーションの利用者と援助者	25. レクリエーション援助	11. レクリエーションの主体	26. 高齢者へのレクリエーション援助	12. レクリエーション活動援助の個別性とグループ	27. 障害者へのレクリエーション	13. レクリエーション活動とソーシャルワーク	28. 前期まとめ①	14. レクリエーション計画の作成と実行	29. 前期まとめ②	15. 利用者のレクリエーション・ニーズの実現	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 援助者側からのレクリエーション計画																														
2. レクリエーション援助の意義	17. レクリエーション援助活動の実際																														
3. 基本的人権としてのレクリエーション諸活動	18. 援助のための組織・環境の形成																														
4. レクリエーションのもつ意味①	19. 楽しく安全なレクリエーションの実現																														
5. レクリエーションのもつ意味②	20. レクリエーション援助者の役割																														
6. レクリエーションのもつ意味③	21. 援助者のポリシー																														
7. レクリエーションと社会福祉	22. チームケアの実践とレクリエーション																														
8. レクリエーションの役割	23. レクリエーション援助者の具体的業務																														
9. 生活とレクリエーションの関係	24. 治療的意味合いのレクリエーション																														
10. レクリエーションの利用者と援助者	25. レクリエーション援助																														
11. レクリエーションの主体	26. 高齢者へのレクリエーション援助																														
12. レクリエーション活動援助の個別性とグループ	27. 障害者へのレクリエーション																														
13. レクリエーション活動とソーシャルワーク	28. 前期まとめ①																														
14. レクリエーション計画の作成と実行	29. 前期まとめ②																														
15. 利用者のレクリエーション・ニーズの実現	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支える理論と支援の方法」2013</p> <p>アイスブレイキングゲーム集</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉レクリエーションインストラクター 10年以上
授業科目：レクリエーション活動援助法Ⅱ	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：茅野 春水	開講時期：1年次 期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>レクリエーション活動の現場に必要なコミュニケーション技術や，集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身につける。</p> <p><授業の概要></p> <p>前期で学習したレクリエーション理論をもとに，実践を演習形式で学習する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>対象に合わせたレクリエーション・ワークの基本技術</p> <p>基本技術の実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設等 ・演習 <p>段階的アレンジ法の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレンジの実際と演習 <p>展開作成例をもとにして実際に指導案を作成する</p> <p>//</p> <p>指導体験をする</p> <p>//</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実習先を視野に入れて，指導案を作成 <p>後期授業のまとめ</p> <p>期末試験</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>日本レクリエーション協会「レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを活かす理論と技術—」，2007</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉レクリエーションインストラクター 10年以上																														
授業科目： 生きがい支援技術 I	単位（時間）： 1 単位（30 時間）																														
授業担当： 茅野 春水	開 講 時 期： 1 年次 後期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>福祉サービスを利用する人々に寄り添い、生きがいや張り合いによる活動の手助けをする。（生活の質の向上）</p> <p><授業の概要></p> <p>生きがい支援を通して、人と人との繋がり、気持ちが分かり合えるようになることができる。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業リエンテーション(後期授業に向けて)</td> <td>16. 支援の実際(高齢者対象にした実際例)</td> </tr> <tr> <td>2. 福祉レクリエーションとは</td> <td>17. デイサービスでの支援①</td> </tr> <tr> <td>3. 福祉レクリエーションの理解</td> <td>18. " ②</td> </tr> <tr> <td>4. 事例を通しての理解</td> <td>19. 小規模多機能施設での支援①</td> </tr> <tr> <td>5. 多様な楽しさを知る</td> <td>20. " ②</td> </tr> <tr> <td>6. その人らしい楽しさを知るヒント</td> <td>21. 特別養護老人ホームでの支援①</td> </tr> <tr> <td>7. 支援者としての使命</td> <td>22. " ②</td> </tr> <tr> <td>8. 支援者としての役割</td> <td>23. 地域での高齢者活動の支援①</td> </tr> <tr> <td>9. 支援者としての技術</td> <td>24. " ②</td> </tr> <tr> <td>10. 個人支援の手順</td> <td>25. 障がい児者を対象とした支援①</td> </tr> <tr> <td>11. APIE プロセス（アセスメント）</td> <td>26. " ②</td> </tr> <tr> <td>12. プログラムの立て方</td> <td>27. 子育てサービスでの支援①</td> </tr> <tr> <td>13. プログラムの実施</td> <td>28. " ②</td> </tr> <tr> <td>14. 実施後の反省</td> <td>29. 後期まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 反省を通して APIE プロセスの見直し</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業リエンテーション(後期授業に向けて)	16. 支援の実際(高齢者対象にした実際例)	2. 福祉レクリエーションとは	17. デイサービスでの支援①	3. 福祉レクリエーションの理解	18. " ②	4. 事例を通しての理解	19. 小規模多機能施設での支援①	5. 多様な楽しさを知る	20. " ②	6. その人らしい楽しさを知るヒント	21. 特別養護老人ホームでの支援①	7. 支援者としての使命	22. " ②	8. 支援者としての役割	23. 地域での高齢者活動の支援①	9. 支援者としての技術	24. " ②	10. 個人支援の手順	25. 障がい児者を対象とした支援①	11. APIE プロセス（アセスメント）	26. " ②	12. プログラムの立て方	27. 子育てサービスでの支援①	13. プログラムの実施	28. " ②	14. 実施後の反省	29. 後期まとめ	15. 反省を通して APIE プロセスの見直し	30. 期末試験
1. 授業リエンテーション(後期授業に向けて)	16. 支援の実際(高齢者対象にした実際例)																														
2. 福祉レクリエーションとは	17. デイサービスでの支援①																														
3. 福祉レクリエーションの理解	18. " ②																														
4. 事例を通しての理解	19. 小規模多機能施設での支援①																														
5. 多様な楽しさを知る	20. " ②																														
6. その人らしい楽しさを知るヒント	21. 特別養護老人ホームでの支援①																														
7. 支援者としての使命	22. " ②																														
8. 支援者としての役割	23. 地域での高齢者活動の支援①																														
9. 支援者としての技術	24. " ②																														
10. 個人支援の手順	25. 障がい児者を対象とした支援①																														
11. APIE プロセス（アセスメント）	26. " ②																														
12. プログラムの立て方	27. 子育てサービスでの支援①																														
13. プログラムの実施	28. " ②																														
14. 実施後の反省	29. 後期まとめ																														
15. 反省を通して APIE プロセスの見直し	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支える理論と支援の方法」</p> <p>日本レクリエーション協会「アイスブレイキング集」</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉レクリエーションインストラクター 10年以上																														
授業科目： 生きがい支援技術Ⅱ	単位（時間）： 2単位（60時間）																														
授業担当： 茅野 春水	開講時期： 2年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>福祉サービスを利用する人々に寄り添いながら満を足りた気持ちを感じたり、生きがいや張り合いとなる活動の手助け、その人らしい元気の回復を支える生活支援技術を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>生きがい支援を通して、人々の成長や生きがい、人と人とのつながりなどを創り出すことができる。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 自立的な生きがい活動の追及</td> </tr> <tr> <td>2. 個人への介入の構造</td> <td>17. 支援の基本的な考え方と方法</td> </tr> <tr> <td>3. 個人への介入方法を生かした活動の展開</td> <td>18. 社会資源の実際</td> </tr> <tr> <td>4. 通所施設での展開事例</td> <td>19. 事例 1、2</td> </tr> <tr> <td>5. 入居施設での展開事例</td> <td>20. 事例 3、4</td> </tr> <tr> <td>6. 介護施設での展開事例</td> <td>21. 事例 5、6</td> </tr> <tr> <td>7. 1対1のレクリエーション活動例</td> <td>22. 活動のアレンジ</td> </tr> <tr> <td>8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション</td> <td>23. 元になるレクリエーションを知る</td> </tr> <tr> <td>9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方</td> <td>24. アレンジと創作の実際</td> </tr> <tr> <td>10. 小集団を生かしたプログラムづくり</td> <td>25. アレンジのポイント</td> </tr> <tr> <td>11. 事例 1</td> <td>26. アレンジを生かした活動例 1～3</td> </tr> <tr> <td>12. 事例 2</td> <td>27. アレンジを生かした活動例 4～6</td> </tr> <tr> <td>13. 事例 3</td> <td>28. アレンジを生かした活動例 7～9</td> </tr> <tr> <td>14. 事例 4</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 事例 5</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 自立的な生きがい活動の追及	2. 個人への介入の構造	17. 支援の基本的な考え方と方法	3. 個人への介入方法を生かした活動の展開	18. 社会資源の実際	4. 通所施設での展開事例	19. 事例 1、2	5. 入居施設での展開事例	20. 事例 3、4	6. 介護施設での展開事例	21. 事例 5、6	7. 1対1のレクリエーション活動例	22. 活動のアレンジ	8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション	23. 元になるレクリエーションを知る	9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	24. アレンジと創作の実際	10. 小集団を生かしたプログラムづくり	25. アレンジのポイント	11. 事例 1	26. アレンジを生かした活動例 1～3	12. 事例 2	27. アレンジを生かした活動例 4～6	13. 事例 3	28. アレンジを生かした活動例 7～9	14. 事例 4	29. まとめ	15. 事例 5	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 自立的な生きがい活動の追及																														
2. 個人への介入の構造	17. 支援の基本的な考え方と方法																														
3. 個人への介入方法を生かした活動の展開	18. 社会資源の実際																														
4. 通所施設での展開事例	19. 事例 1、2																														
5. 入居施設での展開事例	20. 事例 3、4																														
6. 介護施設での展開事例	21. 事例 5、6																														
7. 1対1のレクリエーション活動例	22. 活動のアレンジ																														
8. 対象者同士の相互作用を引き出すレクリエーション	23. 元になるレクリエーションを知る																														
9. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	24. アレンジと創作の実際																														
10. 小集団を生かしたプログラムづくり	25. アレンジのポイント																														
11. 事例 1	26. アレンジを生かした活動例 1～3																														
12. 事例 2	27. アレンジを生かした活動例 4～6																														
13. 事例 3	28. アレンジを生かした活動例 7～9																														
14. 事例 4	29. まとめ																														
15. 事例 5	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるための介入技術」、2013 アイスブレーキングゲーム集</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉レクリエーションインストラクター 10年以上																														
授業科目： 生きがい支援技術Ⅲ	単位（時間）： 2単位（60時間）																														
授業担当： 茅野 春水	開講時期： 2年次 後期																														
<p><授業の目的・ねらい> 対象者の生きがいや張り合いのある生活実現のための支援技術を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもったプログラムや行事の計画立案や運営の方法 ・見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援</td> </tr> <tr> <td>2. グループレクリエーションの考え方</td> <td>17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方</td> </tr> <tr> <td>3. // 計画立案の考え方</td> <td>18. レクリエーション活動例</td> </tr> <tr> <td>4. 事例（介護老人保健施設）</td> <td>19. //</td> </tr> <tr> <td>5. 事例（認知症デイサービス）</td> <td>20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法</td> </tr> <tr> <td>6. グループレクリエーションで心掛けること</td> <td>21. //</td> </tr> <tr> <td>7. 行事・イベントとは（施設別事例）</td> <td>22. レクリエーション活動の特性を知る</td> </tr> <tr> <td>8. //</td> <td>23. アレンジと創作の実際</td> </tr> <tr> <td>9. 行事・イベントの計画のポイント</td> <td>24. //</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉レクリエーション支援の評価方法</td> <td>25. //</td> </tr> <tr> <td>11. 個人への支援と構造と展開</td> <td>26. アレンジのポイント</td> </tr> <tr> <td>12. //</td> <td>27. アレンジを生かしたレクリエーション活動</td> </tr> <tr> <td>13. 個人で楽しむ活動の展開</td> <td>28. //</td> </tr> <tr> <td>14. //</td> <td>29. まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援</td> <td>30. 期末試験</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	2. グループレクリエーションの考え方	17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方	3. // 計画立案の考え方	18. レクリエーション活動例	4. 事例（介護老人保健施設）	19. //	5. 事例（認知症デイサービス）	20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法	6. グループレクリエーションで心掛けること	21. //	7. 行事・イベントとは（施設別事例）	22. レクリエーション活動の特性を知る	8. //	23. アレンジと創作の実際	9. 行事・イベントの計画のポイント	24. //	10. 福祉レクリエーション支援の評価方法	25. //	11. 個人への支援と構造と展開	26. アレンジのポイント	12. //	27. アレンジを生かしたレクリエーション活動	13. 個人で楽しむ活動の展開	28. //	14. //	29. まとめ	15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	30. 期末試験
1. 授業オリエンテーション	16. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援																														
2. グループレクリエーションの考え方	17. 小集団の長所を生かす支援者のかかわり方																														
3. // 計画立案の考え方	18. レクリエーション活動例																														
4. 事例（介護老人保健施設）	19. //																														
5. 事例（認知症デイサービス）	20. 生きがい活動・余暇自立促進の方法																														
6. グループレクリエーションで心掛けること	21. //																														
7. 行事・イベントとは（施設別事例）	22. レクリエーション活動の特性を知る																														
8. //	23. アレンジと創作の実際																														
9. 行事・イベントの計画のポイント	24. //																														
10. 福祉レクリエーション支援の評価方法	25. //																														
11. 個人への支援と構造と展開	26. アレンジのポイント																														
12. //	27. アレンジを生かしたレクリエーション活動																														
13. 個人で楽しむ活動の展開	28. //																														
14. //	29. まとめ																														
15. 小集団の交流を生かしたレクリエーション支援	30. 期末試験																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるサービスの企画と実施」、2013</p> <p>日本レクリエーション協会「楽しさの追及を支えるための介入技術」、2013</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護過程理論 I	単位（時間）： 4単位（60時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 1年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>(1) 介護過程の意義、目的、展開上の基本を理解し、知識として身につけることができる。</p> <p>(2) 介護過程を構成する諸要素が持つはたらきを理解し、知識として身に付けることができる。</p> <p><授業の概要></p> <p>全般に教科書と資料を用いて、(1) 介護過程の意義と目的について学び、介護過程を適切に展開する能力が必要であることを理解する。そして、(2) 介 ICF の視点等に基づき、「アセスメント」「計画立案」「実施」「評価」のプロセスについて、基礎的な知識を身につける。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 介護過程の意義・目的 2. 生活支援における介護過程の必要性 3. 介護過程の展開の全体像 4. アセスメント① アセスメントとは 5. アセスメント② 情報収集 6. アセスメント③ 情報の解釈・関連づけ・統合 7. アセスメント④ 生活課題の明確化 8. 介護計画の立案① 介護計画とは 9. 介護計画の立案② 介護目標の設定 10. 介護計画の立案③ 支援の内容・方法の決定 11. 介護の実施① 介護の実施のための準備と留意点 12. 介護の実施② 介護実施における留意点 13. 介護における評価① 評価の意義と目的 14. 介護における評価② 評価の内容と方法 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>授業への積極的な参加度（発表、課題への取り組み、受講態度等）50%、定期試験 50%とし、総合的に評価する。</p> <p>※受講態度に問題がある場合は上記の割合に関わらず減点の措置を講じます。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 9「介護過程」※ その他、随時補助教材を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>自ら学ぶ意識を強く持つこと。わからない内容は適宜質問をすること。</p> <p>※授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護過程理論Ⅱ	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護過程は、援助における思考過程を指す。その過程は、要援助者の生活ニーズに応える展開そのものともいえる。本講義では前期に引き続き、介護福祉援助における中核のひとつとなる介護過程についてより実践的に学習を進めていく。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護過程の理論学習と並行して、学習者の人間性を高める学習プログラムの展開を図りたい。具体的には、自らの思考の過程に「気づき」「ふりかえる」ことができるとともに、援助の価値を表現できるようになることを目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 介護過程の構成要素と循環構造 3. 実際の事例を通しての展開① 4. 実際の事例を通しての展開② 5. 実際の事例を通しての展開③ 6. 介護過程と個別援助計画 7. いろいろなアセスメントツール 8. 演習（アセスメントからプランニングまで） 9. 演習（アセスメントからプランニングまで） 10. 演習（アセスメントからプランニングまで） 11. 演習（アセスメントからプランニングまで） 12. 多様なアセスメントツール 13. 課題の事例 14. 期末試験対策 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況，受講態度，授業ごとのミニレポートの提出状況，提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護過程実践	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>(1) 1年次までに学習した介護過程の基礎理論・技術を確実に修得し活用できるようになる。 (2) 利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護を提供することができるようになる。 (3) 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 (4) 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を実践することができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>授業全般において、教科書の基礎理論を振り返りながら、多くの模擬事例・実習事例を検討することにより、福祉現場の実践に対応できる理論及び援助技術の修得を目指します。事例検討については、グループディスカッションや、全体討議、発表の場を多く設定します。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 介護過程実践を考えるⅠ（基礎事例検討） 3. 介護過程実践を考えるⅡ（基礎事例検討） 4. 介護過程の展開の基礎Ⅰ(事例検討) 5. 介護過程の展開の基礎Ⅱ(事例検討) 6. 介護過程の展開の基礎Ⅲ(事例検討) 7. 介護過程の展開の基礎Ⅳ(事例検討) 8. 介護過程の展開の基礎Ⅴ(事例検討) 9. 介護技術の計画と評価Ⅰ（事例検討） 10. 介護技術の計画と評価Ⅱ（事例検討） 11. 介護技術の計画と評価Ⅲ（事例検討） 12. 介護技術の計画と評価Ⅳ（事例検討） 13. 介護技術の計画と評価Ⅴ（事例検討） 14. 全体の振り返り 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>"授業への積極的な参加度（発表、課題への取り組み、受講態度等）50%、定期試験50%とし、総合的に評価する。※受講態度に問題がある場合は上記の割合に関わらず減点の措置を講じます。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座9「介護過程」※ その他、随時補助教材を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>自ら学ぶ意識を強く持つこと。わからない内容は適宜質問をすること。 ※授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護サービス論	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 新田 隆博	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護福祉士の知識には、介護保険制度に精通していることも求められている。本講義では、介護保険事務の中核を担う介護事務管理士資格を取得するために必要な総論（制度論）と、各論（給付管理）を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>前半部分では介護保険制度論について全体的な整理を行い、後半部分では介護保険請求の中心である給付管理業務や窓口業務について学習を行う。対象者が、日常生活に支障を有する方たちであることを念頭に置き学習されたい。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・制度の仕組み 2. 介護保険制度の仕組み① 3. 介護保険制度のしくみ② 4. 介護保険サービスの種類 5. 介護保険サービス提供の流れ 6. 支給限度額と給付管理業務① 7. 支給限度額と給付管理業務② 8. 請求と支払 9. 利用者負担の徴収と他制度との関係① 10. 利用者負担の徴収と他制度との関係② 11. 利用者負担の徴収と他制度との関係③ 12. 利用者負担の軽減策 13. 介護従事者の基本知識 14. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>介護事務テキスト1「介護保険制度のしくみ」・テキスト2「算定の方法」 介護事務テキスト3「レセプトの書き方」・サービスコード表（ソラスト）</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上																														
授業科目： 介護総合演習 I	単位（時間）： 2単位（60時間）																														
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 1年次 前期																														
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護福祉士となるためには、講義・演習のほかにも 450 時間にも及ぶ介護福祉現場実習を行わなければならない。本演習では、学生が現場実習に臨むにあたり、その姿勢・態度・学習目標などを多角的に演習形式で学習していく。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護福祉士の資格を取得するためには、450 時間の実習時間をどのようにセルフプロデュースできるかにかかっている。本演習では、第一段階実習をとおして介護福祉実習の全体像の理解を促す。</p>																															
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業オリエンテーション</td> <td>15. 事前および実習中を想定しよう</td> </tr> <tr> <td>2. 介護実習とは何か</td> <td>16. 第 3 章 実習中の学習内容</td> </tr> <tr> <td>3. 望ましい実習生とは</td> <td>17. 研究という視点とその方法</td> </tr> <tr> <td>4. 実習生のあるべき姿</td> <td>18. 第 4 章 実習後の学習内容</td> </tr> <tr> <td>5. スケジュール管理の方法論</td> <td>19. 研究:事前オリエンテーションで確認する内容</td> </tr> <tr> <td>6. ボランティアと就職へ</td> <td>20. 実習事前オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第1章 介護実習とは</td> <td>21. 実習事前オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>7. あなたはなぜ実習に行くの</td> <td>22. 二年生実習報告会</td> </tr> <tr> <td>8. 第一段階実習の概要</td> <td>23. 二年生実習報告会</td> </tr> <tr> <td>9. 自分の実習施設を考えてみよう</td> <td>24. 一年生実習報告会の概要を解説</td> </tr> <tr> <td>10. 第 2 章 実習前の学習内容</td> <td>25. 事例研究資料作成</td> </tr> <tr> <td>11. 研究:テーマの選定</td> <td>26. 事例研究のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12. 第 2 章 実習前の学習内容</td> <td>27. 発表原稿の作成及び練習</td> </tr> <tr> <td>13. 研究:役割の決定</td> <td>28. 実習報告会</td> </tr> <tr> <td>14. 接遇マナー</td> <td>29. 実習報告会</td> </tr> </table>		1. 授業オリエンテーション	15. 事前および実習中を想定しよう	2. 介護実習とは何か	16. 第 3 章 実習中の学習内容	3. 望ましい実習生とは	17. 研究という視点とその方法	4. 実習生のあるべき姿	18. 第 4 章 実習後の学習内容	5. スケジュール管理の方法論	19. 研究:事前オリエンテーションで確認する内容	6. ボランティアと就職へ	20. 実習事前オリエンテーション	第1章 介護実習とは	21. 実習事前オリエンテーション	7. あなたはなぜ実習に行くの	22. 二年生実習報告会	8. 第一段階実習の概要	23. 二年生実習報告会	9. 自分の実習施設を考えてみよう	24. 一年生実習報告会の概要を解説	10. 第 2 章 実習前の学習内容	25. 事例研究資料作成	11. 研究:テーマの選定	26. 事例研究のまとめ	12. 第 2 章 実習前の学習内容	27. 発表原稿の作成及び練習	13. 研究:役割の決定	28. 実習報告会	14. 接遇マナー	29. 実習報告会
1. 授業オリエンテーション	15. 事前および実習中を想定しよう																														
2. 介護実習とは何か	16. 第 3 章 実習中の学習内容																														
3. 望ましい実習生とは	17. 研究という視点とその方法																														
4. 実習生のあるべき姿	18. 第 4 章 実習後の学習内容																														
5. スケジュール管理の方法論	19. 研究:事前オリエンテーションで確認する内容																														
6. ボランティアと就職へ	20. 実習事前オリエンテーション																														
第1章 介護実習とは	21. 実習事前オリエンテーション																														
7. あなたはなぜ実習に行くの	22. 二年生実習報告会																														
8. 第一段階実習の概要	23. 二年生実習報告会																														
9. 自分の実習施設を考えてみよう	24. 一年生実習報告会の概要を解説																														
10. 第 2 章 実習前の学習内容	25. 事例研究資料作成																														
11. 研究:テーマの選定	26. 事例研究のまとめ																														
12. 第 2 章 実習前の学習内容	27. 発表原稿の作成及び練習																														
13. 研究:役割の決定	28. 実習報告会																														
14. 接遇マナー	29. 実習報告会																														
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>																															
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>																															
<p>テキスト</p> <p>その都度プリントを配布します。</p>																															
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>																															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護総合演習Ⅱ	単位（時間）： 2単位（60時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護福祉実習で、介護福祉士取得のための重要な学習を円滑にすすめるための必要な知識と技術を学ぶ。また、実習で得た知識を適切に学習するフィードバックする方法論を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>記録法，ケーススタディを通して，介護福祉実習にむけて必要な対応方法（実習日誌，利用者とかかわり，職員とかかわり，その他）を醸成する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1.授業オリエンテーション</p> <p>2.復習と確認，第1段階の介護福祉実習を振り返って</p> <p>3.第2.3段階の実習に向けた学習（視点，視座）</p> <p>4～6.第2.3段階の実習に向けた学習（実習先の概要，実習テーマ）</p> <p>7～9.第2.3段階の実習に向けた学習（考察と気づき，記録法）</p> <p>10～15.演習（ケーススタディ）</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>特になし（適宜，資料等を配付します）</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 介護総合演習Ⅲ	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 2年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>6月に実施される介護実習Ⅳ(22日間 176時間)に向けて、そして、介護施設での最後の実習に向けて、Plan Do Seeの視点から学習を行う。具体的には、学習者が自らの実習課題を設定し、それを達成しうるための方策を検討する場としたい。</p> <p><授業の概要></p> <p>一年次に履修した介護実習Ⅰ～Ⅲでの経験や報告点を生かし、4週間実習で学ぶべきものを多くするための検討を重ねる。そのためにはグループワークを多く取り入れ、他者の意見に耳を傾けること、話し合いの記録を作成すること、発表によるプレゼンテーション能力などのスキルを高めていきたい。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 第4段階介護実習準備①前回までの報告と今後の展望 3. 前回の続き、および、個人票、実習テーマ、実習施設概要表作成 4. 前回の続き、および、実習計画書作成 5. 実習事前訪問 6. 実習事前訪問報告書の提出と確認 7. 実習報告会準備 8. 実習報告会準備 9. 実習報告会準備 10. 実習報告会準備 11. 実習報告会発表 12. 実習報告会発表 13. 第5段階実習準備 14. 第5段階実習準備 15. 第5段階実習準備 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>そのつど資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護実習 I	単位（時間）： 1単位（45時間）
授業担当： 渡辺修宏／雑賀夏紀	開講時期： 1年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>目的) 介護福祉士養成課程の中核となる介護福祉実習の初回として、介護福祉施設の現状や実習施設の理念、利用者の理解などを深める。</p> <p>ねらい) 介護福祉施設での学習をとおして、介護福祉施設の概要を理解することができ、さらに利用者とコミュニケーションを円滑に図ることができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護サービス利用者の生活の場として介護施設の中で学習することで、①施設職員からの指導を受け、介護福祉士に求められる姿勢や態度を学ぶ。②施設の概要や理念、業務内容を理解し、施設サービスの意義を理解できる。③在宅介護サービスの経験も含め、施設と地域との連携を知ることができる。④要介護者との直接的なかかわりをもつことができる。</p> <p>上記の点を包括的に学習していく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>実習事前</p> <p>事前オリエンテーション(介護総合演習と連動して)</p> <p>実習期間：5日間(1日8時間×5日間＝40時間)</p> <p>①利用者の全体像と、個別的状況を理解する。</p> <p>②利用者の生活環境と日常生活を理解する。</p> <p>③利用者の様々なニーズを理解し、初歩的な日常生活援助を習得する。</p> <p>④社会福祉施設で働く介護職と、各職種の名義及び活動内容を理解する。</p> <p>実習事後</p> <p>実習報告会(介護総合演習と連動して)</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>規定時間の出席、実習施設指導者および本科担当教員による総合的評価にもとづく。</p>	
<p>テキスト</p> <p>適宜、プリント等を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>実習内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。実習中の私語厳禁。実習マナーに十分気をつけること。実習中の学習態度が適切なものでないと判断された場合、即時実習が中止される恐れがあること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護実習Ⅱ	単位（時間）： 2単位（90時間）
授業担当： 渡辺修宏／雑賀夏紀	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>目的：介護福祉士養成課程の中核となる介護福祉実習の二回目として、介護福祉施設の現状や実習施設の理念、利用者の理解などを深める。</p> <p>ねらい：介護福祉施設での学習をとおして、介護福祉施設の概要を理解することができ、さらに利用者とコミュニケーションを円滑に図ることができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護サービス利用者の生活の場として介護施設の中で学習することで、①施設職員からの指導を受け、介護福祉士に求められる姿勢や態度を学ぶ。②施設の概要や理念、業務内容を理解し、施設サービスの意義を理解できる。③在宅介護サービスの経験も含め、施設と地域との連携を知ることができる。④要介護者との直接的なかかわりをもつことができる。</p> <p>上記の点を包括的に学習していく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>実習事前</p> <p>事前オリエンテーション(介護総合演習と連動して)</p> <p>実習期間：12日間(1日8時間×11日間、2時間【反省会】＝90時間)</p> <p>①利用者の全体像と、個別的状況を理解する。</p> <p>②利用者の生活環境と日常生活を理解する。</p> <p>③利用者の様々なニーズを理解し、初歩的な日常生活援助を習得する。</p> <p>④社会福祉施設で働く介護職と、各職種の名義及び活動内容を理解する。</p> <p>実習事後</p> <p>実習報告会(介護総合演習と連動して)</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>"規定時間の出席，実習施設指導者および本科担当教員による総合的評価にもとづく。</p>	
<p>テキスト</p> <p>特になし（適宜，資料等を配付します）</p>	
<p>備考</p> <p>実習内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>実習中の私語厳禁。実習マナーに十分気をつけること。</p> <p>実習中の学習態度が適切なものでないと判断された場合，即時実習が中止される恐れがあること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護実習Ⅲ	単位（時間）： 3単位（135時間）
授業担当： 渡辺修宏／雑賀夏紀	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>目的：介護福祉士養成課程の中核となる介護福祉実習の三回目として、介護福祉施設の現状や実習施設の理念、利用者の理解などを深める。</p> <p>ねらい：介護福祉施設での学習をとおして、介護福祉施設の概要を理解することができ、さらに利用者とコミュニケーションを円滑に図ることができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護サービス利用者の生活の場として介護施設の中で学習することで、①施設職員からの指導を受け、介護福祉士に求められる姿勢や態度を学ぶ。②施設の概要や理念、業務内容を理解し、施設サービスの意義を理解できる。③在宅介護サービスの経験も含め、施設と地域との連携を知ることができる。④要介護者との直接的なかかわりをもつことができる。</p> <p>上記の点を包括的に学習していく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>実習事前</p> <p>事前オリエンテーション(介護総合演習と連動して)</p> <p>実習期間：17日間(1日8時間×17日間＝136時間)</p> <p>①利用者の全体像と、個別的状況を理解する。</p> <p>②利用者の生活環境と日常生活を理解する。</p> <p>③利用者の様々なニーズを理解し、初歩的な日常生活援助を習得する。</p> <p>④社会福祉施設で働く介護職と、各職種の名称及び活動内容を理解する。</p> <p>実習事後</p> <p>実習報告会(介護総合演習と連動して)</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>規定時間の出席、実習施設指導者および本科担当教員による総合的評価にもとづく。</p>	
<p>テキスト</p> <p>特になし（適宜、資料等を配付します）</p>	
<p>備考</p> <p>実習内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>実習中の私語厳禁。実習マナーに十分気をつけること。</p> <p>実習中の学習態度が適切なものでないと判断された場合、即時実習が中止される恐れがあること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目： 介護実習Ⅳ	単位（時間）： 3単位（135時間）
授業担当： 渡辺修宏／雑賀夏紀	開講時期： 2年次
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護施設・事業所等での実習をとおして、利用者の生活課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた介護計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護施設・事業所等において一定期間継続して実習を行う中で、利用者の介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実施する。さらに、適宜実習施設担当者からのスーパービジョンを受け、さらに学びを深める。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>実習期間：17日間</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者の個別性を理解し、利用者のニーズに応える援助方法を学ぶために個別介護過程を展開し、その技術を修得する。 ② 利用者のニーズを考慮した日常生活援助を学ぶ。 ③ 夜間実習を体験することで、施設の援助全般について理解する。 ④ 通所サービス、短期入所サービスなどの居宅サービスの体験から、サービスの現状を把握し、地域における施設の役割を学ぶ。 ⑤ 指導者のスーパービジョンを受けながら、介護の計画の立て方や記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。 ⑥ 他の専門職との有機的連携を図ることを実践現場で学ぶ。 <p>具体的行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> *第1週 施設業務に参加し利用者を観察、担当する利用者を決定する。 *第2週 担当する利用者の情報収集（アセスメント）を行う。 *第3週 必要に応じて、目標の設定と介護計画の策定、更にその実施を行う。 *第4週 必要に応じて、介護計画に沿った実際を行う。 <p>必要に応じて、介護計画の実践について評価・考察する。</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>規定時間の出席、実習施設指導者および本科担当教員による総合的評価にもとづく。</p>	
<p>テキスト なし</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士5年以上
授業科目：在宅介護実習	単位（時間）：1単位（45時間）
授業担当：渡辺修宏／雑賀夏紀	開講時期：2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>これまでの介護総合演習および介護福祉実習の総括をする。そのため、最も多様な事例がみられ、総合的な介護スキルが必要とされる在宅支援分野の実習を経験する。本実習を通して、介護福祉士としての基本的な実践スキルを完成させる。</p> <p><授業の概要></p> <p>ケアプラン演習は行わないが、インテーク、アセスメント、プランニング、実施というサイクルを前提とした援助実践を、在宅支援現場で体験する。また、多様なコミュニケーションの展開は勿論、限られた時間で援助場면을順応する力を養う。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>基本的には、在宅支援事業所における在宅介護実習を設定する。</p> <p>具体的には、以下の事業種別とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルプサービス事業所（高齢者，障害者） ・デイサービス事業所（高齢者，障害者） ・グループホーム事業所（高齢者，障害者） ・小規模多機能型居宅介護事業所 ・その他，高齢者福祉分野または障害者支援分野の在宅支援事業所 <p>実習には1～3名でチームを組み，参加する。</p> <p>実習期間は，1日8時間×5日間とする。</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>規定時間の出席，実習施設指導者および本科担当教員による総合評価に基づく。</p>	
<p>テキスト</p> <p>これまでの授業で用いた教科書の中で，実習先の種別および実習内容に関連する資料</p>	
<p>備考</p> <p>実習内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 基礎心理	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>心理学の基礎知識を習得し、心身の仕組みを、多面的な視点から理解できることを目指す。また、それらの知識を活用し、メンタルヘルスのケアといった対人援助の実践に役立てられる技能の習得も目指す。</p> <p><授業の概要></p> <p>まず心理学の基礎知識（基礎心理学）を学ぶ。次に、心理学における主要な考え方（理論体系）についても学ぶ。それらの知識を土台として、メンタルヘルスのケアにおいて必要となる知識や技能について講義する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは？ 2. 感覚と知覚 3. 意識 4. 記憶 5. 学習 6. 言語 7. 発達 8. 精神分析学 9. 行動主義 10. 人間性心理学 11. 認知主義 12. ストレスとコーピング① 13. ストレスとコーピング② 14. まとめ 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格、メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト なし</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目：生涯過程	単位（時間）：2単位（30時間）
授業担当：小幡 知史	開講時期：2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護の対象は老化や病気等から生活機能に障害が生じた“人間”である。介護の対象に適切な介護を提供するためには、対象の理解が必要であり、人間を発達と老化の面から理解する必要がある。人間を発達と老化の面から理解する為に①人間の正常な成長・発達②老化に伴う体とこころ及び日常生活③社会の中の高齢者④高齢者に多い症状・病気とその対応等を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>人間を発達と老化の側面から理解するために、上記の4項目について講義する。実習体験を振り返り、体験を生かした講義にしていく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1.授業オリエンテーション・1章 人間の成長と発達の基礎的理解</p> <p>2.1章 人間の成長と発達の基礎的理解</p> <p>3.1章 人間の成長と発達の基礎的理解 2章 社会からみた老年期</p> <p>4.2章 社会からみた老年期</p> <p>5.3章 ライフサイクルのなかの老年期</p> <p>6.3章 ライフサイクルのなかの老年期</p> <p>7.4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>8.4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>9.4章 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>10.5章 高齢者の心理</p> <p>11.6章 高齢者に多い症状・病気</p> <p>12.6章 高齢者に多い症状・病気</p> <p>13.6章 高齢者に多い症状・病気</p> <p>14.6章 高齢者に多い症状・病気</p> <p>15.6章 高齢者に多い症状・病気</p> <p>16.期末試験</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書9「発達と老化の理解」 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>分からない内容は適宜質問をすること。授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 認知症の理解 I	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 1年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性等を理解する。その上で、本人及び家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>“考える”そして“共有する”という作業をとおして、認知症に関する知識及び認知症の人に対するコミュニケーション技法を学習する。講義と共に、演習やグループ・ディスカッションを用いた授業を展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 認知症とは① 2. 認知症とは② 3. 認知症とは③ 4. 認知症の理解とケアの基本① 5. 認知症の理解とケアの基本② 6. 認知症とコミュニケーション(コミュニケーションの基本と手法) ① 7. 認知症とコミュニケーション(コミュニケーションの基本と手法) ② 8. 認知症とアクティビティ① 9. 認知症とアクティビティ② 10. 認知症とアクティビティ③ 11. 認知症とアクティビティ④ 12. 認知症ケアに関する社会資源① 13. 認知症ケアに関する社会資源② 14. 期末試験対策 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>随時資料を配布します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 認知症の理解Ⅱ	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>認知症に関する基礎的な知識をふまえ、認知症の人がその人らしく生きていくためには、介護職としてどのような関わりが必要か。本人及び家族を含めた周囲の環境にも配慮したケアの視点を学ぶ。</p> <p><授業の概要></p> <p>認知症という病気を理解し、その上で起こりうるであろう生活への困難さを“考える”そして“共有する”という作業を行っていく。講義と共に、可能な限りグループ・ディスカッションを用いた授業を展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 認知症とは 2. 認知症の医学・行動・心理的理解① 3. 認知症の医学・行動・心理的理解② 4. 認知症の医学・行動・心理的理解③ 5. 認知症の医学・行動・心理的理解④ 6. 認知症の人の体験の理解 7. 認知症の人の生活の理解① 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 認知症の人の生活の理解② 9. 認知症の人に対する介護① 10. 認知症の人に対する介護② 11. 認知症の人に対する介護③ 12. 地域の力を活かす 13. 家族の力を活かす 14. 認知症に関する制度・関係機関など 15. 期末試験
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 2 「認知症の理解」 ※ その他、随時資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 10 年以上
授業科目： 障害の理解 I	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>障害の概念、障害者福祉の基本理念、各種障害の基礎知識を習得する。対人援助職を目指す者として、障害者福祉に関する偏見や差別を理解すると同時にその払拭方法を考察し、ノーマライゼーションの実現を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念 2. 障害者福祉の基本理念 3. 障害者福祉に関連する制度 4. 障害者福祉制度と介護保険制度 5. 生涯発達① 6. 生涯発達② 7. 障害のある人の心理① 8. 障害のある人の心理② 9. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～肢体不自由の場合～ 10. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～視覚障害の場合～ 11. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～聴覚・言語障害の場合～ 12. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～重複障害の場合～ 13. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～内部障害の場合～ 14. 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援～重症心身障害の場合～ 15. 総まとめ 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 3 「障害の理解」を使用する予定、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 障害の理解Ⅱ	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 2 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を整理するとともに、障害の在る人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得することが本授業の目的である。</p> <p><授業の概要></p> <p>障害者の地域生活に関わる事例をもとにした学習を主とする。また、可能な限り、映像や音声を用いたアクティブまたはパッシブラーニングを転換する。また、最新の国（政府）の動向を踏まえた障害者福祉に関する施策についても随時触れていく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目の狙いと進め方、授業内外勉強の仕方、輪番式課題発表について 2. 我が国の障害者福祉政策と、厚生労働省の動向について 3. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅰ 4. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅱ 5. 障害者総合支援法と障害の在る人の生活の理解Ⅲ 6. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅰ 7. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅱ 8. 障害者総合支援法と障害の在る人に対する介護Ⅲ 9. 障害者の家族への支援Ⅰ 10. 障害者の家族への支援Ⅱ 11. 連携と協働Ⅰ 12. 連携と協働Ⅱ 13. 利用者主体の援助 14. 障害者福祉の展望 15. 総まとめ 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 3 「障害の理解」。福祉臨床シリーズ 9 「臨床に必要な障害者福祉」 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 基礎医学 I	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護は加齢や疾患により心身の機能低下・障害が生じている人々の生活を支援する。介護を必要とする人々に適切な介護をするためには、それらの人々の心身の機能低下や障害の状態を理解する必要がある。そのため、その第一段階として健康な人間のこころとからだのしくみについて学習する。健康な人間のこころとからだのしくみの概要を学習し、介護の必要な人々の心身の状態を理解する際の基礎知識とする。また、介護者として自己のこころとからだのしくみを理解する機会とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>こころとからだのしくみを理解するために①からだの成り立ちと働き②生命活動を調節するしくみ③外界の変化に対応し調節・修復・再生するしくみ④脳のつくりと働き⑤こころと脳のつながり等を講義する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・基礎医学を学ぶ意義・I からだの成り立ちの理解A体の形と臓器の場の理解 2. B細胞・組織・器官・器官系から人のからだへ 3. 動物性機能を担う器官系：①筋系 ②骨格系 4. 動物性機能を担う器官系：③感覚器系 ④神経系 5. 植物性機能を担う器官系：⑤消化器系 6. 植物性機能を担う器官系：⑥呼吸器系 7. 植物性機能を担う器官系：⑦循環器系 8. 植物性機能を担う器官系：⑧生殖器系 ⑨内分泌 ⑩免疫系 ⑪泌尿器系 9. II 生命活動を調節するしくみ 10. III外界の変化に対応し、調節・修復・再生するしくみ 11. I 脳のつくりと働きの理解 12. II こころと脳のつながり 13. III人間の行動を引き起こすこころのしくみ 14. IV社会的人間としてのこころのしくみ 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 12「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 基礎医学Ⅱ	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>人間は、加齢や疾患により心身の機能に低下・障害が生じる。心身の機能低下や障害は人間の日常生活行動に様々な影響を及ぼす。利用者に根拠に基づく適切な生活支援をするためには、利用者の心身の機能低下・障害が日常生活行動にどのような影響を及ぼすかを理解する必要がある。その為、人間の成長・発達・老化を学習し、加齢や疾患から生じる心身の機能低下・障害とそれらが日常生活行動に及ぼす影響を、成り立ちを含めて学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>老化を理解するために成長・発達・ライフサイクルについて学習し高齢者体験を行う。その後、生活支援技術別に「身じたく」「活動・移動」「食事」について講義する。日常生活や実習での体験を振り返りながら講義する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション：人間の成長と発達の基礎的理解 2. 人間の成長と発達の基礎的理解・老化に伴うこころとからだの理解 3. 老化に伴うこころとからだの理解 4. 高齢者体験 5. 高齢者体験 6. 身じたくに関連したしくみ：Ⅰ基礎知識 7. 身じたくに関連したしくみ：Ⅱこころとからだのしくみ 8. 身じたくに関連したしくみ：Ⅲ機能の低下・障害が及ぼす影響Ⅳ変化の気づきと対応 9. 活動・移動に関連したしくみ：Ⅰ基礎知識 10. 活動・移動に関連したしくみ：Ⅱこころとからだのしくみ 11. 活動・移動に関連したしくみ：Ⅲ機能の低下・障害が及ぼす影響 Ⅳ変化の気づきと対応 12. 食事に関連したしくみ：Ⅰ基礎知識 13. 食事に関連したしくみ：Ⅱこころとからだのしくみ 14. 食事に関連したしくみ：Ⅲ機能の低下・障害が及ぼす影響 Ⅳ変化の気づきと対応 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 4 「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ※その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 基礎医学Ⅲ	単位（時間）： 2 単位（30 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開講時期： 1 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護の対象である人間は、加齢や病気により心身に機能の低下・障害が生じ、それらは日常生活行動に影響を及ぼす。利用者の日常生活に適切な支援をするためには、利用者の心身の機能の低下・障害が日常生活行動に及ぼす影響を根拠に基づいて理解することが必要となる。その為、人間の加齢や病気から生じた心身の機能低下や障害とそれらが日常生活行動に及ぼす影響をメカニズムを含めて学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>加齢や病気により生じる心身の機能の低下・障害とそれらが日常生活行動に及ぼす影響を生活支援技術別に講義する。内容は「入浴・清潔」「排泄」「睡眠」及び「死に行く人に関連したしくみ」である。中でも、死に行く人に関連したしくみでは、終末期にある人の理解を深め自己の死生観を深めるため、レポート提出やグループワークを行う。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション：6 章「入浴・清潔保持」に関連したしくみ 2. 6 章「入浴・清潔保持」に関連したしくみ 3. 6 章「入浴・清潔保持」に関連したしくみ 4. 7 章「排泄」に関連したしくみ 5. 7 章「排泄」に関連したしくみ 6. 7 章「排泄」に関連したしくみ 7. 7 章「排泄」に関連したしくみ 8. 8 章「睡眠」に関連したしくみ 9. 8 章「睡眠」に関連したしくみ 10. 8 章「睡眠」に関連したしくみ 11. 9 章死に行く人のこころとからだのしくみ 12. 9 章死に行く人のこころとからだのしくみ 13. 9 章死に行く人のこころとからだのしくみ 14. 9 章死に行く人のこころとからだのしくみ 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 12「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社 「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解するよう努力し、分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目： 精神保健	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 小幡 知史	開講時期： 2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>“考える”そして“共有する”という作業をおしながら、障害のある人たちの心身状態を把握することを学ぶ。その上で、全人間的なケアを行えるようにする。</p> <p><授業の概要></p> <p>主として障害のある人たちとその家族への支援とともに、チームアプローチの重要性について学習する。講義と共に、可能な限り演習を用いた授業を展開する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 精神障害のある人の生活① 3. 精神障害のある人の生活② 4. 精神障害のある人の生活③ 5. 精神障害のある人の生活④ 6. 精神障害の歴史と動向 7. 精神障害のある人への支援① 8. 精神障害のある人への支援② 9. 精神障害のある人への支援③ 10. 家族への支援① 11. 家族への支援② 12. 家族への支援③ 13. 地域におけるサポート① 14. 地域におけるサポート② 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座 1 3 「障害の理解」 ※ その他、随時資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 10 年以上
授業科目： 医療的ケア I	単位（時間）： 2 単位（34 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>平成 27 年度から、介護福祉士の業務として“医師の指示の下”医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）が可能となった。その為、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全に・適切に実施するための、知識・技術・態度を習得することが必要となった。ゆえに、医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を安全・適切に実施する際に必要な周辺の基礎知識と喀痰吸引に関する基礎知識を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>医療的ケアの意義や医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な周辺の基礎的知識を講義する。それらをもとに、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の方法、留意点を講義する。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション : 1 章なぜ医療的ケアを学ぶのか 2. 2 章人間と社会：個人の尊厳と自立・医療の倫理 3. 3 章保健医療制度とチーム医療：保健医療に関する制度 医行為に関する法律・チーム医療での連携 4. 4 章安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・救急蘇生 5. 4 章安全な療養生活：救急蘇生法演習 6. 4 章安全な療養生活：救急蘇生法演習 7. 5 章感染予防と清潔保持：感染予防 8. 5 章感染予防と清潔保持：療養環境の清潔、消毒法・滅菌と消毒 9. 6 章健康状態の把握：身体・精神の健康 10. 6 章健康状態の把握：健康状態を知る項目 11. 7 章高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の概論 ①呼吸のしくみとはたらき、②いつもと違う呼吸状態 12. ③喀痰吸引とは ④喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 13. ⑤人工呼吸器と吸引 14. ⑥子どもの吸引 ⑦喀痰吸引に伴うケア 15. ⑧利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 16. ⑨呼吸器系の感染と予防 17. ⑩喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 18. ⑪急変・事故発生時の対応と事前対策、⑫報告と記録、まとめ 19. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 13「医療的ケア」・12「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社 「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 10 年以上
授業科目： 医療的ケアⅡ	単位（時間）： 2 単位（34 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>2013(平成 25) 年 4 月から、介護福祉士の業務として“医師の指示の下”医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）が位置づけられた。その為、医療職との連携の下で医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を習得することが必要となった。ゆえに医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）を安全・適切に実施する際に必要な知識・技術・態度を学習する。</p> <p><授業の概要></p> <p>「喀痰吸引」と「経管栄養」を安全・適切に実施するために必要な知識・技術・態度を講義する。喀痰吸引は2回（4 コマ）経管栄養は2回（4 コマ）の演習を行う。その他、部分的な演習を2回（3 コマ）行う。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手順：喀痰吸引の実施の手順と留意点 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部 2. 準備演習：手洗い・吸引器の扱い・チューブの扱い・演習のオリエンテーション 3. 演習：喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の実際 4. 演習：喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の実際 5. 演習：喀痰吸引（気管カニューレ内部）の実際 6. 演習：喀痰吸引（気管カニューレ内部）の実際 7. 1 高齢者および障害児・者の「経管栄養」 2 消化器のおもな症状 8. 3 経管栄養とは 4 器具・機材とそのしくみ 5 注入する内容に関する知識 9. 6 経管栄養実施上の留意点 7 子どもの経管栄養 8 経管栄養に必要なケア 10. 9 利用者や家族の気持ち 10 感染と予防 11 生じる危険，注入後の安全確認 12 急変・事故発生時の対応と事前対策 13 報告および記録 11. 準備演習：①物品の準備と確認②カテーテルとイルリガートルの接続③栄養剤の滴下 12. 準備演習：④声掛けと観察⑤カテーテルチップシリンジの扱い・演習オリエンテーション 13. 演習：経管栄養（胃ろう）の実際 14. 演習：経管栄養（胃ろう）の実際 15. 演習：経管栄養（経鼻経管栄養）の実際 16. 演習：経管栄養（経鼻経管栄養）の実際 17. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 13「医療的ケア」メヂカルフレンド社 「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版 ※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容は十分に理解するよう努力し、分からない内容は適宜質問をすること。 授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 10 年以上
授業科目： 医療的ケアⅢ	単位（時間）： 1 単位（36 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 2 年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>喀痰吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引）を安全・適切に、一人で手順どおりに実施するための知識・技術・態度を習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>喀痰吸引を「手順通りに実施できる」ことを目指し演習を行う。口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部吸引を各 5 回以上実施する。5 回目には「手順通りに実施できる」ことを目指す為、個人の学習や練習が重要となる。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習：授業オリエンテーション・口腔内吸引 2. 演習：口腔内吸引 3. 演習：口腔内吸引 4. 演習：口腔内吸引 5. 演習：口腔内吸引 6. 演習：口腔内吸引 7. 演習：鼻腔内吸引 8. 演習：鼻腔内吸引 9. 演習：鼻腔内吸引 10. 演習：鼻腔内吸引 11. 演習：気管カニューレ内部吸引 12. 演習：気管カニューレ内部吸引 13. 演習：気管カニューレ内部吸引 14. 演習：気管カニューレ内部吸引 15. 演習：気管カニューレ内部吸引 16. 演習：気管カニューレ内部吸引 17. 演習：気管カニューレ内部吸引 18. 演習：気管カニューレ内部吸引 	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 13「医療的ケア」メヂカルフレンド社 ※ その他，随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>演習内容は十分に理解するよう努力し，分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>演習中の私語厳禁。演習態度に十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 10 年以上
授業科目： 医療的ケアⅣ	単位（時間）： 1 単位（36 時間）
授業担当： 大貫 千代子	開 講 時 期： 2 年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>2013(平成 25) 年 4 月から、介護福祉士の業務に“医師の指示の下”医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）が位置づけられた。その為、医療職との連携の下に医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養）を安全に・適切に実施するために必要な、知識・技術・態度を習得する必要がある。経管栄養を実施する為に必要な知識・技術・態度を、講義で学んだことを基に演習を行い、習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>胃ろうまたは腸ろう・経鼻経管栄養の演習を一人 5 回実施する。5 回目にはすべての評価項目が「手順通りに実施できる」ことを目指す。その為、個人ワークが重要となる。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>演習：オリエンテーション・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 1 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 1 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 2 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 2 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 3 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 3 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 4 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 4 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 5 回</p> <p>演習：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養 5 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 6 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 6 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 7 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 7 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 8 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 8 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 9 回</p> <p>演習：経鼻経管栄養 9 回</p>	
<p>関連資格</p> <p>介護福祉士国家資格</p>	
<p>評価方法</p> <p>評価表に基づき評価する。5 回目の実施で全項目が「ア」となることで合格となる。</p> <p>※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>テキスト</p> <p>最新介護福祉全書 13「医療的ケア」※ その他、随時資料を配付。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護事務管理士3年以上
授業科目： 介護事務	単位（時間）： 3単位（90時間）
授業担当： 埴 富美子	開講時期： 1～2年次
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>介護保険施設において業務の中心のひとつとなる，介護保険請求業務について学習する。介護報酬の単位計算を学ぶことで，介護サービスの仕組みを理解し，最終的には介護事務管理士資格の取得を目指すことを目標とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>介護事務管理士となるために必要なスキルの習得と，介護事務業務に求められる基礎知識を身につけていく。各介護サービスについての練習問題をとおして理解を深めていく。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2～6. 居宅サービスの算定 7. 支援サービス、施設サービス 8～12. 施設サービス 13～15. 地域密着サービス 16～21. 居宅サービスのレセプト 22～24. 支援サービスのレセプト 25～30. 施設サービスのレセプト 31. 学科 32～43. 介護試験問題 44～45. 試験 	
<p>関連資格</p> <p>介護事務管理士（技能認定振興協会主催）</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>介護報酬の算定、介護レセプトの書き方、学習サポートブック※ その他、資料を配付します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉住環境コーディネーター5年以上
授業科目： 住環境支援技術 I	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 杉浦 誠	開講時期： 1年次 前期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>人間の尊厳保持の観点から、利用者がどのような状態であってもその人の自立・自律を目指し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な住環境支援を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p><授業の概要></p> <p>利用者の自立支援につながる居住環境の整備に関する知識と技術を習得する。また、本科目の履修成果の一環として、福祉住環境コーディネーター3級の取得を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション・福祉住環境コーディネーター資格の概要 2. 少子高齢社会と共生社会への道 3. 生活支援としての環境整備、自立にむけた居住環境整備 4. 福祉住環境の整備の重要性と必要性、居住環境整備の意義と理解 5. 在宅生活の維持とケアサービス 6. 居住環境のアセスメントと、安全で心地よい生活の場 7. 高齢者の健康と自立 8. 障害の種類によって変わってくる自立の方策 9. 住宅のバリアフリー化とユニバーサルデザイン 10. 住まい整備のための基本技術 11. 生活を支えるさまざまな福祉用具、共有品 12. 安全・快適な住まいへのアプローチ 13. ライフサイクルの多様化と居住 14. なじみの生活空間づくり、住環境支援における他職種との連携 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>福祉住環境コーディネーター3級、福祉用具専門相談員</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、授業ごとのミニレポートの提出状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>福祉住環境コーディネーター検定試験公式テキスト</p> <p>※ その他、ミニテストや、独自作成資料を随時を配付し使用する。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：福祉住環境コーディネーター5年以上
授業科目： 住環境支援技術Ⅱ	単位（時間）： 2単位（30時間）
授業担当： 杉浦 誠	開講時期： 1年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>人間の尊厳保持の観点から、利用者がどのような状態であってもその人の自立・自律を目指し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な住環境支援を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p> <p><授業の概要></p> <p>利用者の自立支援につながる居住環境の整備に関する知識と技術を習得する。また、本科目の履修成果の一環として、福祉住環境コーディネーター2級または3級の取得を目指す。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境 3. 障害のとらえ方と自立支援 4. 高齢者・障害者の心身の特性 5. 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 6. 障害別にみた福祉住環境整備 7. 福祉住環境整備とケアマネジメント 8. 福祉住環境整備の進め方 9. 住環境整備による自立支援 10. 福祉サービスの実際①（高齢者） 11. 福祉サービスの実際②（障害者） 12. 住宅の基礎知識 13. 部屋・場所別の環境整備の方法 14. 福祉用具の意味と適用 15. 期末試験 	
<p>関連資格</p> <p>福祉住環境コーディネーター2級及び3級、福祉用具専門相談員</p>	
<p>評価方法</p> <p>基本は、出欠状況、受講態度、授業ノートによる復習状況、提出課題および期末試験等により総合的に評価を行う。</p>	
<p>テキスト</p> <p>ミニテストや、独自作成資料を随時配付し使用する。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。</p> <p>授業中の私語厳禁。受講マナーに十分気をつけること。</p>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：介護福祉士 5年以上
授業科目：卒業研究	単位（時間）：4単位（120時間）
授業担当：雑賀 夏紀	開講時期：2年次 後期
<p><授業の目的・ねらい></p> <p>研究は、ある事象に疑問を持ち、その事象を様々な視点から捉え、それを検証していく作業である。研究の視点は“根拠に基づいたケア”の実践においても重要な見方を提供する。本授業では介護福祉研究の理論と実践を行う。</p> <p><授業の概要></p> <p>研究の理論及び手続きを踏まえ、介護福祉領域の発展に寄与する実践研究の完成を目指す。また、学内に留まらず、可能な限り介護福祉領域及び関連領域に従事する職員等に対して発信を行う。</p>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <p>1～10.研究活動</p> <p>11～12.卒業論文の執筆及び所産の提出に関して</p> <p>13～22.研究活動及び執筆</p> <p>23～28.学内発表会準備</p> <p>29～30.まとめ</p>	
<p>関連資格 なし</p>	
<p>評価方法</p> <p>出欠状況、受講態度、提出課題等により総合的に評価を行う。</p> <p>卒業研究発表会：2月頃を予定</p>	
<p>テキスト</p> <p>そのつど資料を配布します。</p>	
<p>備考</p> <p>授業内容を十分に理解すること。分からない内容は適宜質問をすること。授業時間外での活動がメインとなります。自発的な調査研究活動が行われることが求められます。</p>	